

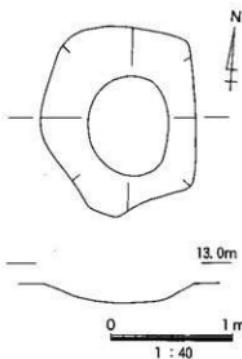
0 1 : 3 10cm

第210図 SKg783 出土遺物実測図 (10)

淡系陶器水壺である。見込みには胎土目、高台には「セイ」ないし「セイ」の墨書を認める。1040は大谷焼大甕である。口縁部は短く屈曲し、端部は丸く肥厚する。外面肩部には櫛描状の沈線を認める。1041は備前系陶器灯明皿である。内面には塗十を認める。1042・1043は備前系陶器浅鉢である。口縁部は短く直立する。1044～1050は堺・明石系摺鉢である。1044・1046・1049は白神綱年Ⅲ型式、1047はⅡ型式、1045はⅡ型式2段階、1048はⅡ型式1段階に該当する。1044・1050の見込みには「*」状にスリメを施し、1044の外面には「久喜」の刻印を認め、明石系に限定できる。1051・1052は土師質土器浅鉢である。口縁部は直線的に外傾し、端部を内側に肥厚させ、断面は三角形状を呈する。1051の外面には型成形による波状文と突線を表現し、剥離材に用いたキラコの塗布を認める。口縁部内面には煤痕の付着を認め、火鉢としての使用が窺える。胎土中には雲母・角閃石の含有を認める。1053・1054は土師質土器壺である。前者の口縁部は内湾し、端部を内側に肥厚させる。火消蓋。1054は口縁部が直線的に外傾する。いずれも、胎土中には多量の雲母粒と少量の角閃石を認める。1055は土師質土器壺である。端部は内側に強く突出する。1056は土師質土器井筒である。外面には突起を認める。1057・1058は土師質土器風呂釜である。底部外縁に穿孔を認める。口縁部下と体部下半に扁平な突帯を認め、斜格子文・断続指揮さえを施す。1059・1062～1064は土師質土器焼烙である。口縁部は短く直立した後、大きく屈曲する。VI群（佐藤2001）。1065～1068は土師質土器火消蓋である。いずれも胎土中に雲母と角閃石を少量含む。1069～1071は軒丸瓦である。1069は珠文が消滅し、巴文のみで構成される。1069・1070にはキラコの塗布を認め、1070の丸瓦部内面には打ち叩きを行う。1072・1073は丸瓦である。1074は平瓦である。

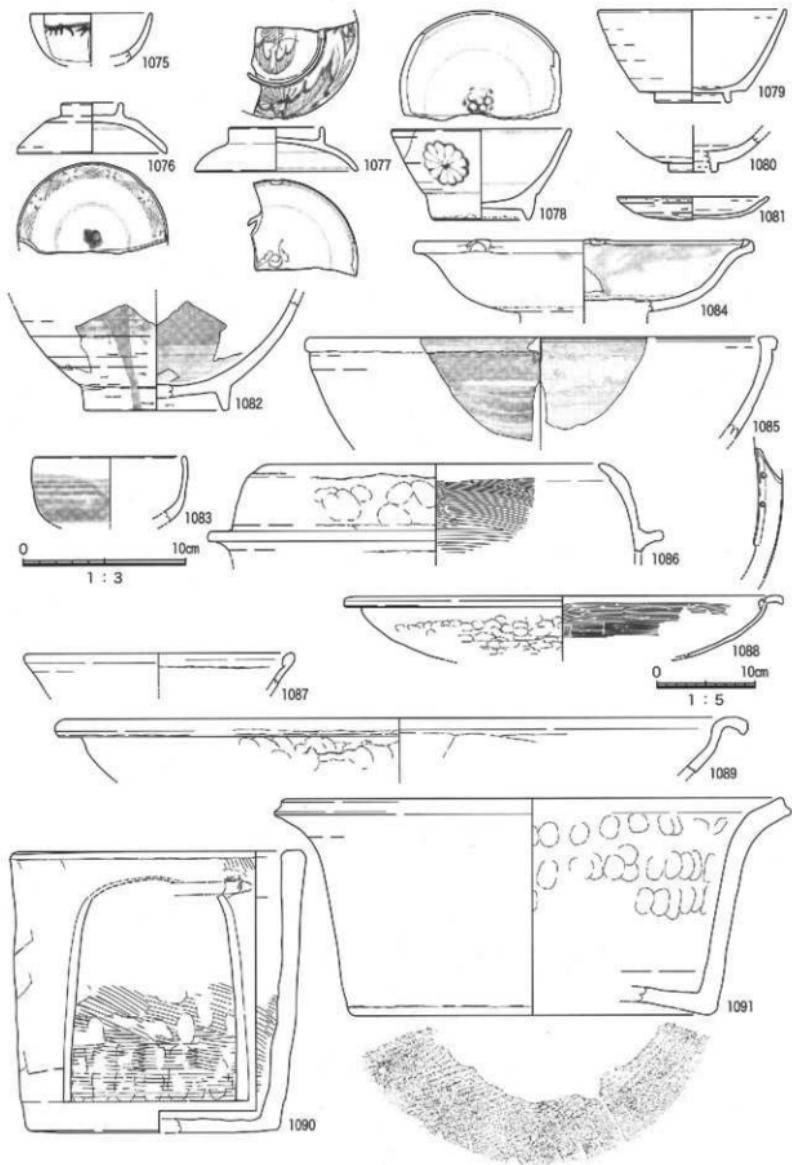
以上、SKg783出土遺物は、明らかに明治・大正期まで下る遺物は認めない。磁器では、肥前系磁器・瀬戸・美濃系陶器の端反碗が盛行し、京・信楽系陶器端反碗・灯明皿を認めるところから、1820～60年代に位置付けられる。さらに、在地産土器である焼烙においても型成形によるものは認められない。その埋没時期は19世紀中葉に想定でき、一括性の高い土器・陶磁器群と評価できる。

S K g 7 8 5 (第211～212図)

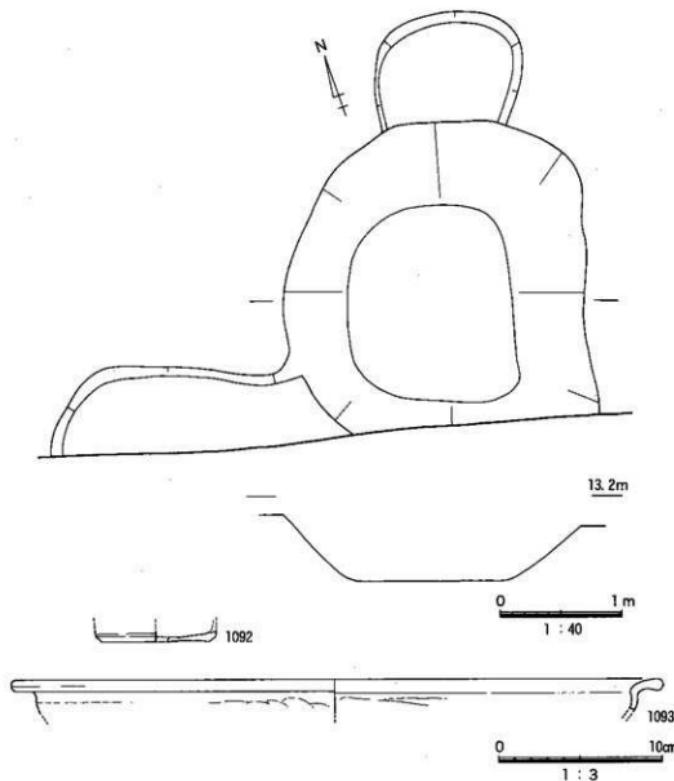


第211図 SKg785 平・断面図

不整形な円形の土坑で、浅い皿状の断面を有する。1075～1077は肥前系磁器である。1075は小碗である。外面には葦葉文を認める。1076は青磁染付碗蓋である。外面には青磁釉を認め、天井部中央には印押による五弁花を施す。18世紀後半。1077は広東碗蓋である。波佐見窯。1780年代～1820年代。1078は瀬戸・美濃系陶器広東碗である。太白手。1079は京・信楽系陶器小杉碗である。緑灰色の灰釉から、富田吉金窯産の可能性が高い。1080は京・信楽系陶器碗である。内外面には淡黄色の灰釉を施す。1081は備前系陶器灯明皿である。1082は肥前系陶器刷毛目体である。直線的な刷毛目を認め、灰釉を施釉する。1083は瀬戸・美濃系陶器腰錐碗である。口縁部外面には櫛描状の沈線を認める。1084は施釉陶器皿である。口縁部形態は肥前系陶器瀬戸綠皿に通じ、見込みには蛇の目釉剥ぎを認める。淡黄白色の灰釉を基調とし、綠釉の流し掛けを行う。胎土・釉調の特徴から富田吉金窯の可能性が高い。1085は施釉陶器鉢である。外面には刷毛目を認める。北部九州～中国地方産か。1086は瓦質羽釜である。口縁部は内湾し、端部がわずかに先細る。1087は瀬戸・美濃系陶器鉢である。1088・1089は土師質土器焼烙である。口縁部はわずかに直立し、端部は垂下気味に横方向へ屈曲する。1088には内耳を認め、未貫通の穿孔を認める。1090は土師質土器七匣である。体部には窓を有し、その上端部には庇を有する。



第212図 SKg785 出土遺物実測図



第213図 SKg794 平・断面図、出土遺物実測図

内面全面には煤が付着する。1091は土師質土器鉢である。口縁部は大きく外反し、端部には凹線を認める。胎土中には多量の糞母と角閃石を認める。

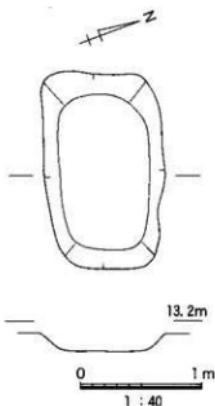
以上、SKg785は肥前系磁器廣東碗が1780年代～1820年代に位置付けられ、瀬戸・美濃系陶器廣東碗もこれに等しい。焙烙に未貫通の穿孔という最も新しい傾向を認め、19世紀第1四半期の埋没が想定できる。

SKg794（第213図）

隅丸方形の土坑で、逆台形の断面を有する。1092は京・信楽系陶器瓶である。1093は土師質土器焙烙である。口縁部は短く直立し、口縁部は大きく開く。

敢えて、埋没年代を想定すると、19世紀前半といえる。

SKg 795 (第214~218図)

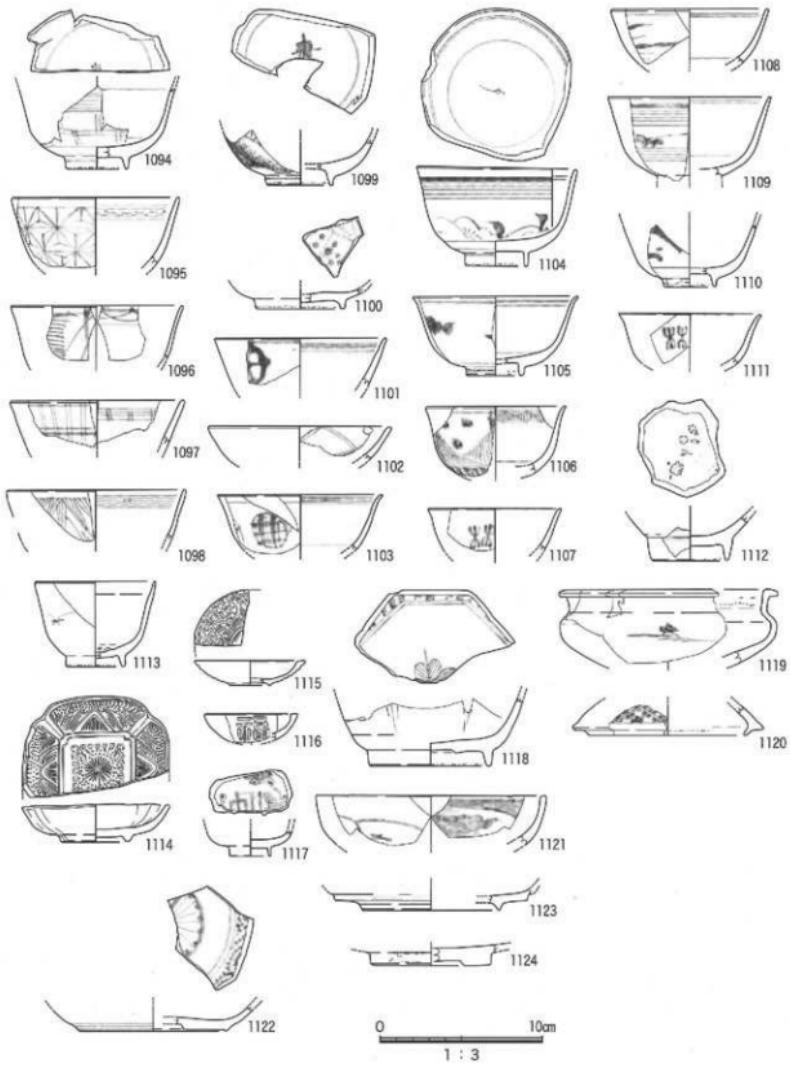


第214図 SKg795 平・断面図

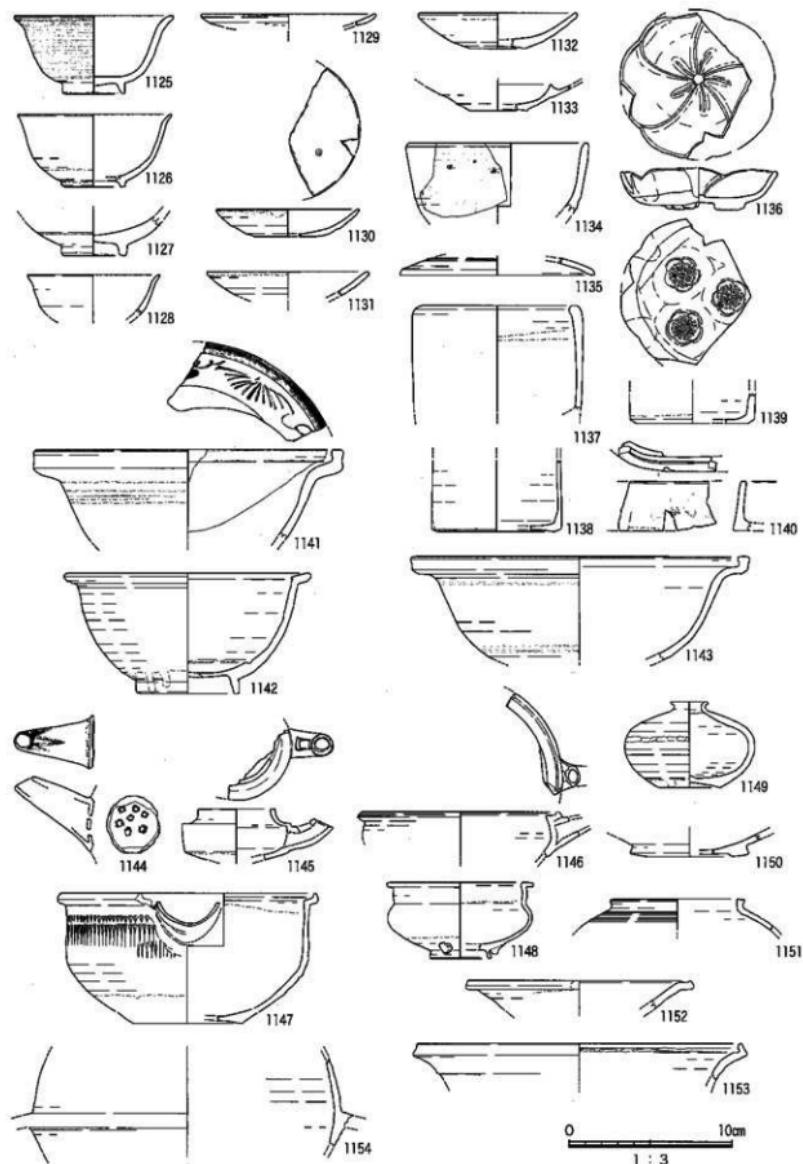
方形の土坑で、浅い皿状の断面を呈する。1094・1095・1097~1100・1102~1104・1106・1109・1112・1113・1115・1116・1118~1124は肥前系磁器である。碗形態では端反碗が主体を占め(1820~60年代)、一部にはコバルト呉須による染付を認める(1099、明治・大正期)。1112は波佐見窯産広東碗である。19世紀前半。1100・1102・1121・1122は皿である。1100は見込みに草花文を認め、19世紀初頭~幕末に位置付けられる。1122は蛇の目四形高台(低)となり、見込みには銀杏文、口縁部内面には蛸唐草文を認める。1102は見込みに蛇の目釉剥ぎを認め、口縁部内面には斜格子文を描く。18世紀後半。1118は八角鉢である。高台は蛇の目四形高台(高)となる。1123は段重である。重ね合わせ段にはアルミナ砂の塗布を認める。1119・1124は香炉である。前者の体部は玉環状を呈し、口縁部は短く直立した後、強く外方へ屈曲する。外面には簡略化した楼閣山水文を認める。1124は蛇の目高台となる。1120は蓋である。かわりにはアルミナ砂を認める。1113は小杯である。口縁部は緩やかに外反し、外面には模を認める。1115・1116は紅皿である。それぞれ外面には蛸唐草文、「福」を型押成形で表現する。前者は1850年代以降の所産である。

1096・1101・1105・1107・1108・1110・1111・1114・1117は瀬戸

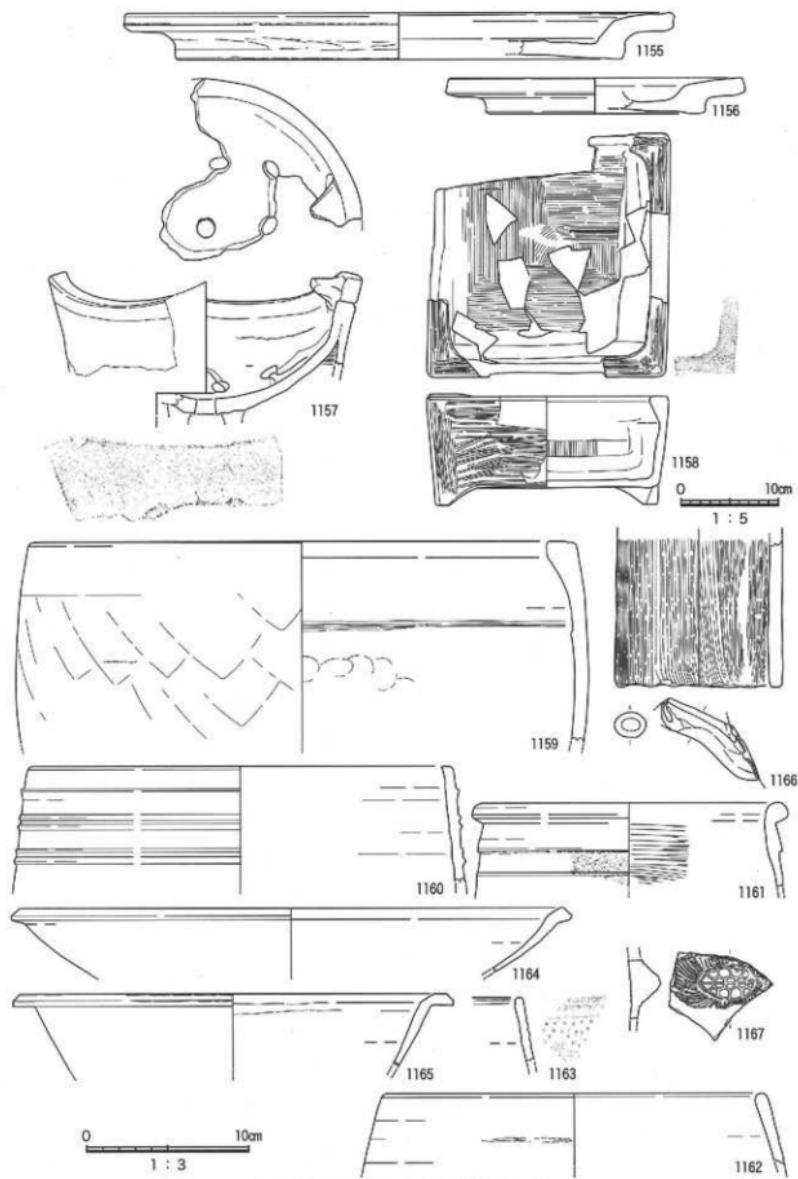
戸・美濃系磁器である。碗・小碗は端反碗で構成され、1105・1108・1110にはコバルト呉須の使用を認め、明治・大正期の所産となる。1107・1111は端部に口銹を認め、外面には抽象的な文様を描く。1114は木型打込皿である。高台平面形は四角形を呈し、見込みには花文の陽刻を認める。1117は小碗である。見込みには上絵により源氏香と花文(桜文)を描く。1125は瀬戸・美濃系陶器刷毛目碗である。外面には白泥による直線的な刷毛目を認める。胎土は黄褐色に色調を呈する。1126・1128は瀬戸・美濃系陶器端反碗である。1129は備前灯明皿である。1130~1133は京・信楽系陶器灯明皿である。1130の端部には模が付着し、1133は仕切を有する。1127・1134は陶胎染付碗である。外面には草花文を認める。1135は軟質施釉陶器土瓶蓋である。内外面には柿釉を施し、外面には二条沈線を認める。1136は施釉陶器皿である。型成形により皿部を五弁花とし、底部には貼付けによる五弁花の3足を認める。1137・1138は施釉陶器火入れである。前者は白泥塗布後に灰釉、後者は灰釉のみを施釉する。1139は京・信楽系陶器瓶とした。外面には灰釉を施す。1140は瀬戸・美濃系陶器銚水入れである。外面には錦絵による草花文を認める。底面無釉。1141は施釉陶器鉢である。口縁部は大きく外反した後、短く直立する。口縁部内面には鉄絵による菊花文ほかを認める。756~758と同一器種となる。1142は大谷焼鉢である。内外面には鉄釉を施釉する。1143は施釉陶器鉢である。鉄絵による圓線を認め、内外面には灰釉を施す。1144は施釉陶器土瓶である。注口部先端には錦絵による葉文を認める。1145は瀬戸・美濃系陶器カンテラである。注口の上面には四角形の透かしを認める。1147は施釉陶器片口鉢である。把手が付く行平鍋状の形態となる。外面には鉄しお、内面には灰釉を施釉し、外面上半には飛絞痕を認める。1148は施釉陶器香炉である。高台を有し、形骸化した三足を認める。口縁部は短く直立し、端部は外方へ強く屈曲する。外面及び口縁部内面には灰釉を施す。1149大谷焼瓶である。底部には同心円ケズリを認める。1150は施釉陶器鉢である。内外面には灰釉の施釉を認める。1151は軟質施釉陶器土瓶である。外面には樹脂状の多条沈線を認め、外面には柿釉を施す。1152は肥前系陶器溝縁皿である。17世紀中葉。1153は大谷焼仏花瓶とした。内外面には鉄釉を施釉する。1154は軟質施釉陶器羽釜である。内面には灰釉、外側部以上には綠釉を施釉し、織密な白色系素地を選択する。瀬戸焼の可能性も残る。1155・1156は土師質土器火消壺蓋である。胎土中には雲母と角閃石を含有する。1157は土師質土器七匣である。口縁部は波状を呈し、さながら一体化した構造となる。口縁部



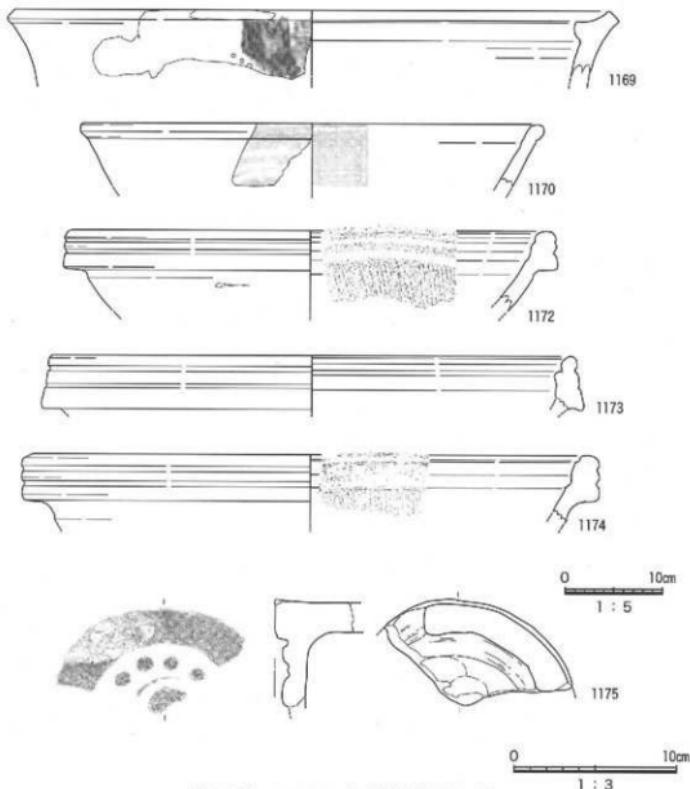
第215図 SKg795 出土遺物実測図 (1)



第216図 SKg795 出土遺物実測図 (2)



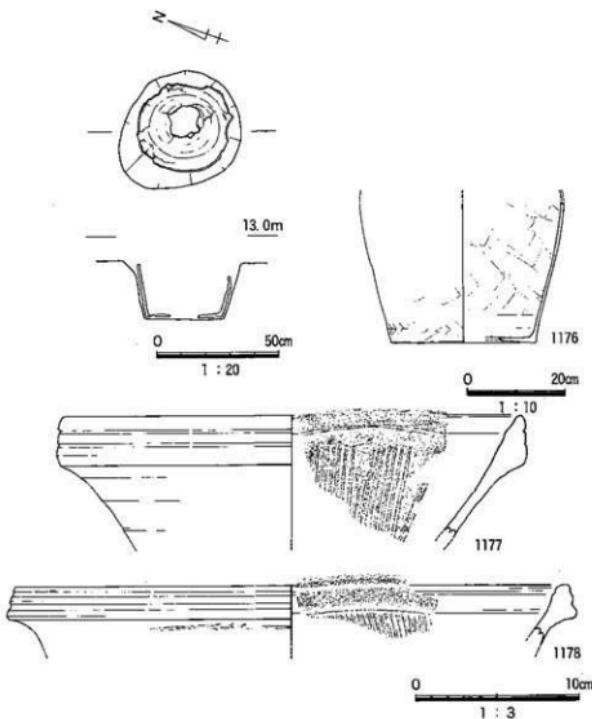
第217図 SKg795 出土遺物実測図 (3)



第218図 SKg795 出土遺物実測図 (4)

内面には突起を有し、外面には型成形による草花文?を認める。1158は瓦質浅鉢である。口縁部は直線的に外傾し、縁部は内側に肥厚する。平面形は方形を呈し、その隅角底部には脚部を認める。各面が形成する稜には面取りを施す。1159は土師質土器深鉢である。胎土中には雲母と角閃石を含有する。1160・1162・1163は瓦質羽釜である。1160の口縁部は直線的に内傾し、型成形による3条突線を認める。1162の外面には刷毛材であるキラコの塗布を認め、型成形の可能性が高い。1163は外面に型成形による列点文の陽刻を認める。1161は瓦質深鉢である。口縁部は直線的に内傾し、外方へ肥厚する。口縁部外面には明瞭な段ないし面を認め、型成形による列点文の陽刻を認める。1164は瓦質培烙である。型成形により、佐藤編年AII-2型式に位置付けられる。1165は瓦質鍋である。型成形によるが、外面は未調整ではなく、板ナダ調整を認める。1169は瀬戸・美濃系陶器水壺である。1170は肥前系陶器刷毛目鉢である。外面には波状の刷毛目を認める。1172~1174は堀・明石系摺鉢である。1173はII型式1段階、1172・1174は白神編年II型式2段階の所産である。1175は軒丸瓦である。丸瓦部にはさしこの使用を認める。

以上、SKg795出土遺物は明治期の所産を一定量認める。陶磁器では、肥前系磁器碗(1099)、瀬戸・美濃系磁器では端反碗(1105・1108・1110・1117)、在地産土器では、型成形の培烙(1164)・羽釜(1160・1162・

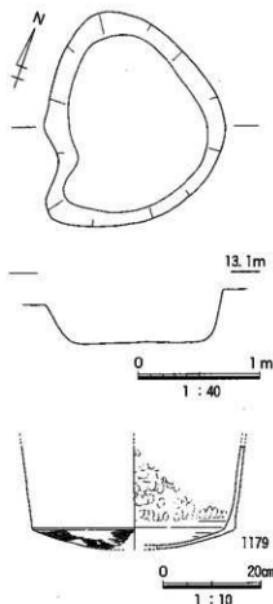


第219図 SKg796 平・断面図、出土遺物実測図

1163)・深鉢（1161）が挙げられる。その他の陶器では、肥前系磁器端反碗・瀬戸・美濃系磁器端反碗・京・信楽系陶器灯明皿、大谷焼の存在から、幕末前後の年代観が付与できよう。明治期に属する土器・陶磁器を混入とみなす見解とこれを含めて明治期の様相と理解するという見解が成立つ。前者であればおおむね19世紀末前後、後者であれば19世紀第2四半期～幕末の年代観が想定できる。産地不明の施釉陶器の年代的位置付けは不明であるが、ここでは正結・薬王寺遺跡SE04や高松城跡（西の丸町C地区）の明治26年銘の木札が共伴するSKb01・02（SX 8 A01・02）の存在から、19世纪末前後の比較的まとまった資料という評価をしておきたい。

SKg796 (第219図)

円形の土坑で、1176の掘り方である。1176は土師質土器裏である。底部は平底を呈し、口縁部は直線的に開き、遺存する上端部でわずかに直立しない内傾する傾向を認める。胎土中には雲母を多量に含み、角閃石も一定量含有する。1177は備前摺鉢である。体部外面には回転ナデ調整を認め、頸部での重ね積みにより、口縁部と体部の色調は異なる。乗岡編年近世3期の所産となろう（乗岡1999・2000）。1178は堺・明石系摺鉢である。



第220図 SKg798 平・断面図、
出土遺物実測図

白神縄年Ⅲ型式の所産となる。

以上、SKg769出土遺物は点数が少なく、不明な点は多いが、1178の存在から19世紀代と想定しておきたい。このほか1177・1178の備前系摺鉢が2点出土している。

S K g 7 9 8 (第220図)

不整形な土坑で、1179の掘り方である。1179は、土師質土器大甕である。底部は丸味を有し、外面には顕著な板ナダ調整を認める。胎土中には多量の雲母粒と一定量の角閃石を含む。出土遺物の年代観は不明であるが、幕末以降の所産と考えたい。

S K g 7 9 9 (第221図)

不整形な土坑で、1182の掘り方である。1180は瀬戸・美濃系陶器広東碗である。太白手。1181は備前系陶器水指であろう。底部は平底を呈し、体部を意図的に窪ませる。外面には竹をモチーフとした把手の貼り付けを認める。1182は土師質土器大甕である。外面には被熱痕、内面には煤痕を認める。

以上、SKg799の年代観は、1182の土師質土器大甕の年代的位置付けが困難なため、確定することはできない。他の出土遺物の年代観も1181の県内での出土例は確認できず、1180をもって、19世紀前半～幕末とせざるを得ない。

S K g 8 0 5 (第222図)

不整形な土坑で、1184の掘り方である。1183は京・信楽系陶器灯明皿である。端部を中心に煤の付着を認める。1184は土師質土器風呂釜である。底部内面には頑丈な突帯を有し、その上部に突起を認める。いずれも機能的な性格を有するが、外面に認める扁平な突帯は痕跡的なものである。下部構造は1231で確認することができ、底部ではなく、筒状の形態を呈し、側縁に穿孔を1箇所認める。なお、外面にのみ煤の付着を認め、胎土中には多量の雲母と一定量の角閃石を認める。

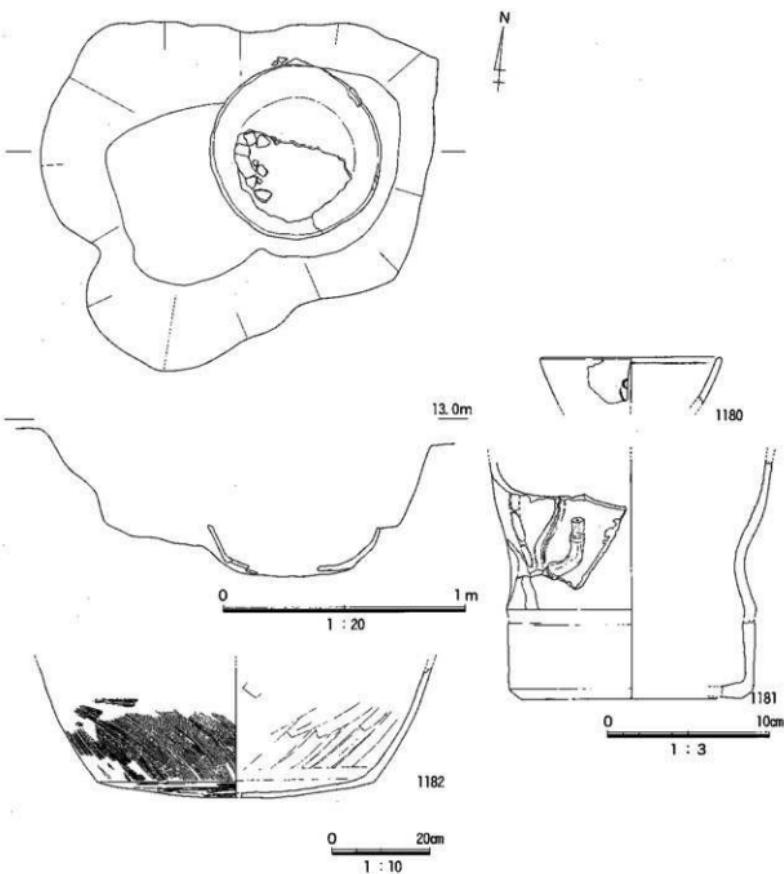
以上、SKg805の出土遺物は、点数が稀薄なこともあります、正確な年代を付与することはできない。1183は19世紀第2・3四半期に盛んに、ここでは幕末前後の所産と考えておきたい。

S K g 8 0 7 (第223図)

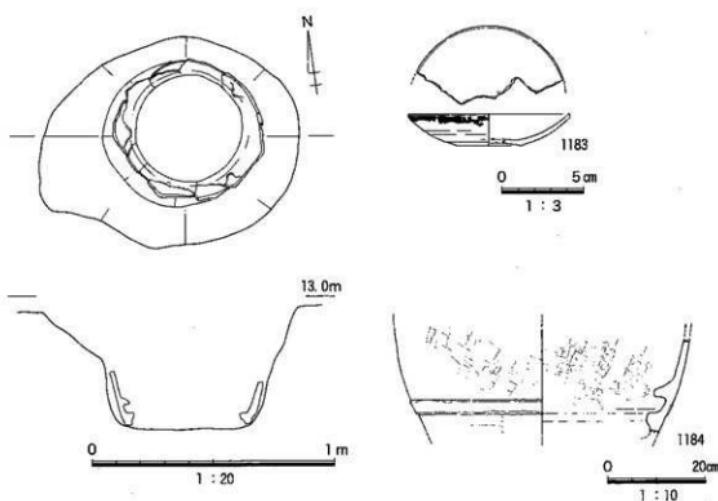
二つの土坑がつながったようなL字形を呈し、逆台形の断面を持つ。1185は肥前系磁器小碗ないし仏飯器である。18世紀前半の所産か。

S K g 8 0 9 (第224図)

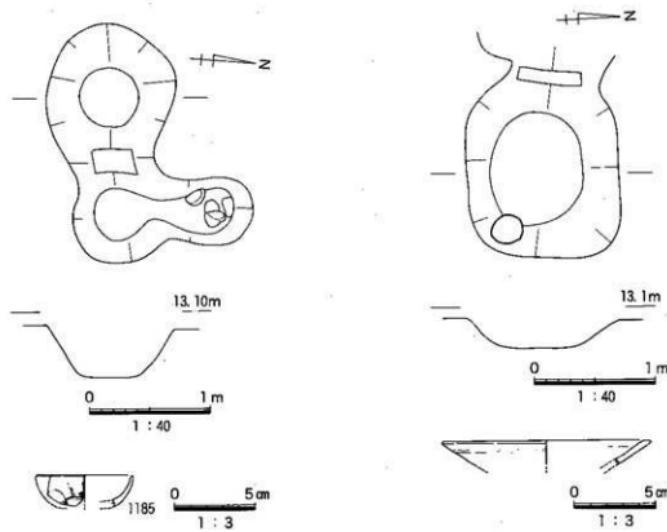
隅丸方形の土坑で、皿状の断面を持つ。1186は施釉陶器皿である。口縁部は直線的に開き、端部を横方向に引き出す。肥前系陶器ではなく、地方産である。18～19世紀。



第221図 SKg799 平・断面図、出土遺物実測図

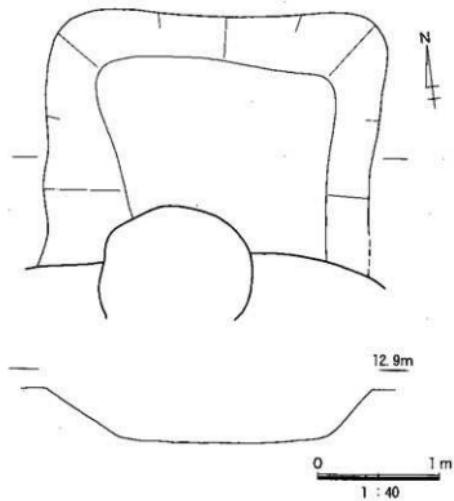


第222図 SKg805 平・断面図、出土遺物実測図



第223図 SKg807 平・断面図、
出土遺物実測図

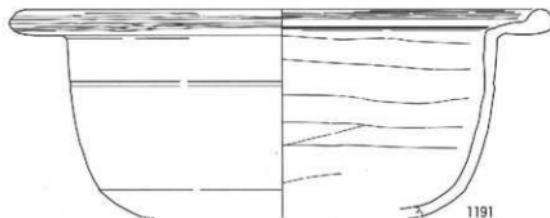
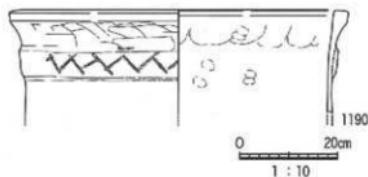
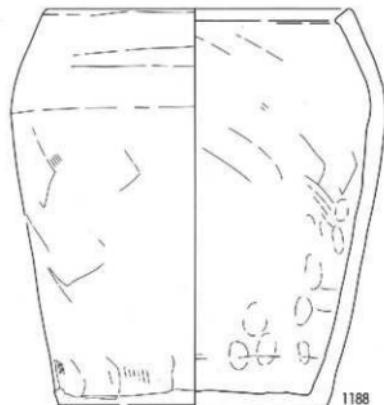
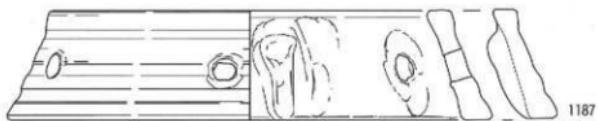
第224図 SKg809 平・断面図、
出土遺物実測図



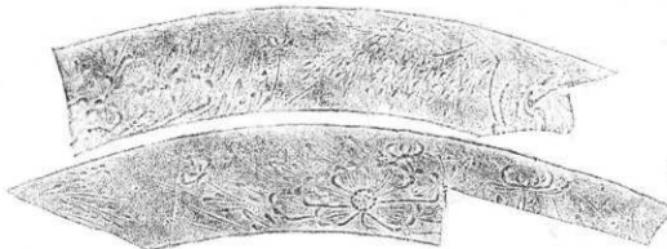
第225図 SKg812 平・断面図

S K g 8 1 2 (第225~229図)

方形の土坑で、南半を土坑、柱穴などで切られている。断面は皿状を呈する。1187は土師質土器五箇である。外縁には穿孔を一定間隔で認め、内面には縱方向の棒状突帯の貼付を認める。胎土中には多量の雲母と一定量の角閃石を認め、内面及び上下端面には煤痕が付着する。1188は土師質土器甕である。体部は底部から直線的に外傾し、端部手前で緩やかに内湾する。内面には多量の煤が付着し、火消盃と考えられる。胎土中には多量の雲母と一定量の角閃石を認める。1189は瓦質羽釜である。口縁部外面には沈線を認めるが、型成形ではない。1190は土師質土器大甕である。口縁部はわずかに外傾し、端部は三角形に肥厚する。口縁部外面には扁平な突帯を認め、板材小口端を押しだて、山形文を施す。胎土中には多量の雲母と一定量の角閃石を認める。1191は瓦質鍋である。ポール状の形態を呈し、端部は肥厚する。体部外面には型成形により草花文を陽刻する。1192は土師質土器焰壺である。口縁部は短く直立する。佐藤編年A I - 5型式か。1193は土師質土器土管である。内外面は板ナデ調整が卓越し、口縁部は受け口状を呈する。胎土中には多量の雲母と角閃石を認める。1194~1202は肥前系磁器である。1194は端反碗である。外面には斜格子文を描き、見込みには蛇の目釉剥ぎ→アルミニナ砂の塗布を認める。1195は丸碗である。外面には印刷による扇繋ぎ文を認める。18世紀前半。1196・1197・1199は広東碗である。1780~1820年代。1198は皿である。見込みには1枚絵として櫻閣山水文を描く。1810~60年代。1200は白磁小碗である。高台は高く、U字形の断面形状を呈する。1201は火入れである。蛇の目凹形高台(低)。1202は青磁染付丸碗蓋である。18世紀後半。1203~1205・1210・1213は瀬戸・美濃系陶器である。1203・1213は広東碗である。太手口。見込みには漆の付着を認める。1204・1205は腰錆碗である。1210は灰釉丸碗である。1206は肥前系陶器刷毛目碗である。内外面には直線的な刷毛目を認める。1207~1209・1211・1212・1214・1215は京・信楽系陶器である。1209は端反碗である。口縁部には緑釉の垂れ掛けを認める。1211は小杉碗である。1214・1215は灯明皿である。前者には仕切、後者には拂描文を認める。1216は施釉陶器鉢である。口縁部は体部から「く」字形に屈曲し、端部を外方へ鋭く折り返す。外面には白泥のイッチン掛けを認める。1217・1218・1221は肥前系陶器鉢である。直線的な刷毛目を認める。18世紀代。1219は信楽焼上瓶底部



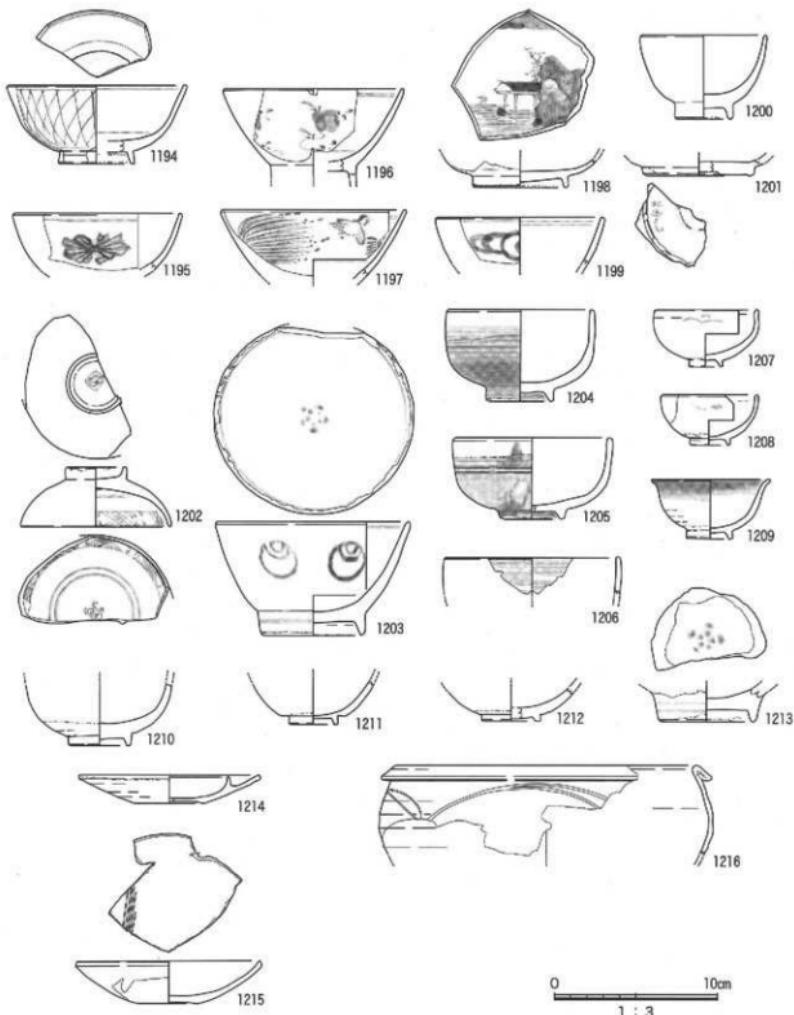
1 : 10



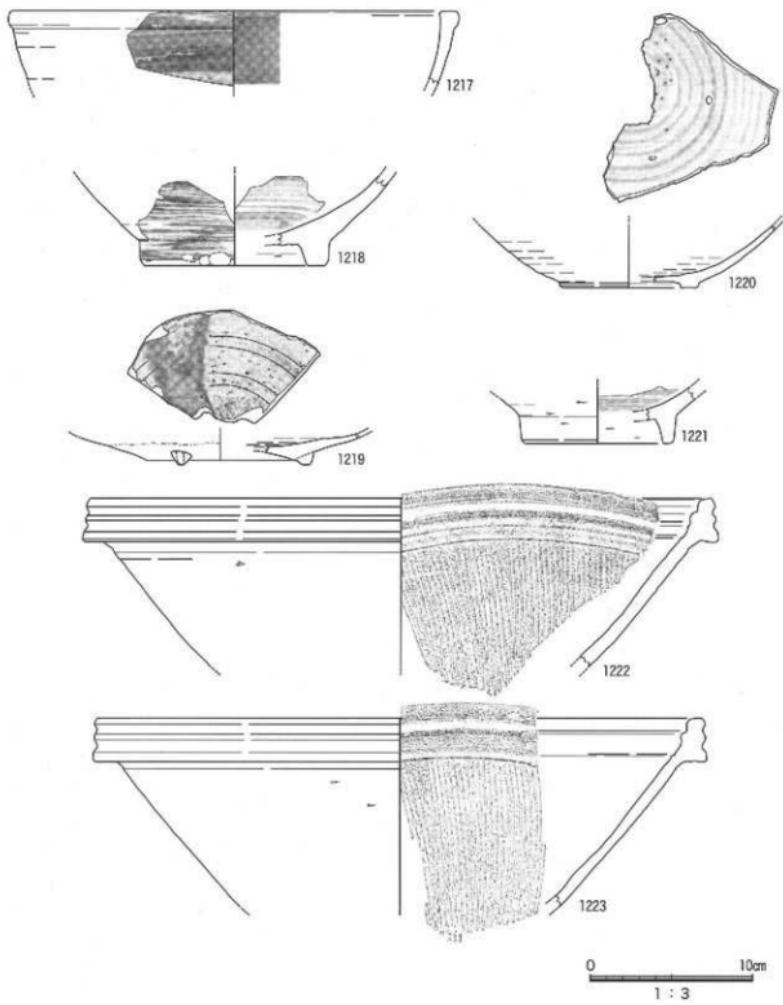
0
20cm
1 : 10



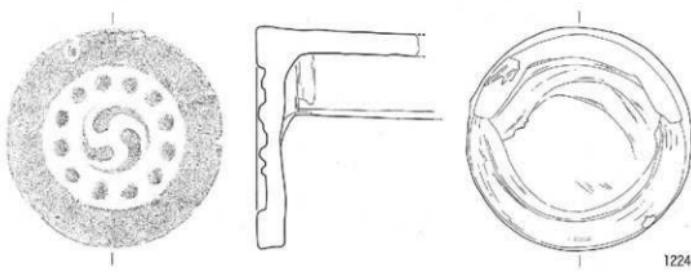
第226図 SKg812 出土遺物実測図(1)



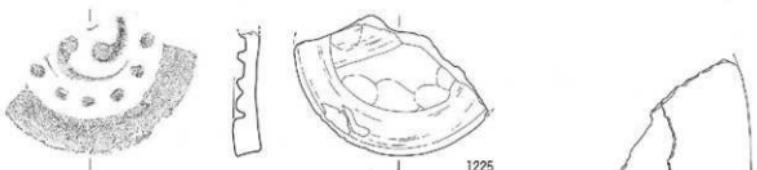
第227図 SKg812 出土遺物実測図（2）



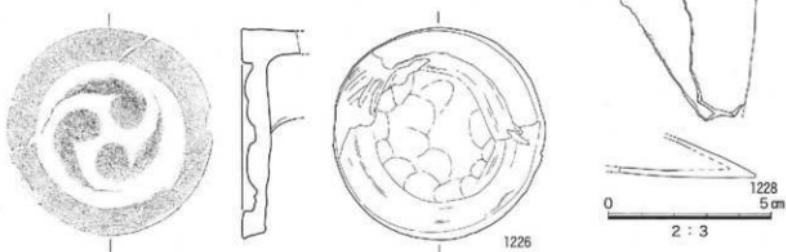
第228図 SKg812 出土遺物実測図 (3)



1224

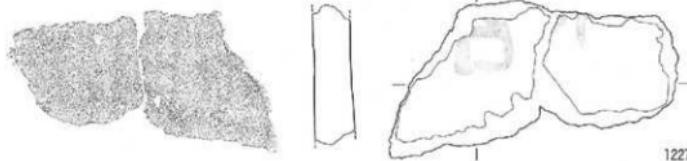


1225



1226

0
2 : 3
1228
5 cm

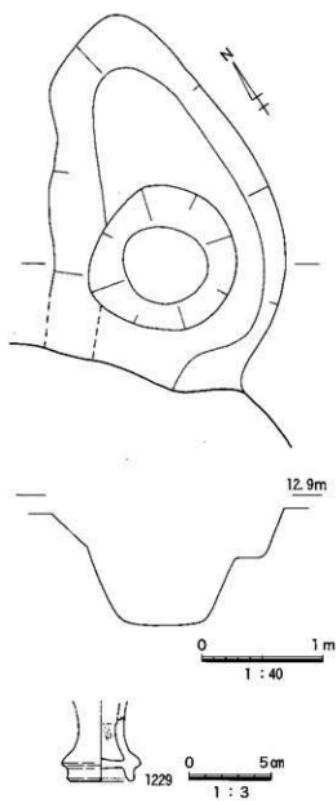


1227



0
1 : 3
10 cm

第229図 SKg812 出土遺物実測図 (4)



第230図 SKg813 平・断面図、
出土遺物実測図

である。鉄軸を施釉した後、鉄軸の流し掛けを施す。1220は施釉陶器鉢である。内面には灰釉を施し、見込みに足付きハマの目跡を認める。遺存する限りでは外面は無釉となる。1222・1223は堺・明石系摺鉢である。いずれも白神編年II型式の所産である。1224~1226は軒丸瓦である。瓦当面にはキラコの塗布を認める。1227は平瓦である。凸面には墨書きの痕跡を認める。1228は鉄製鋤先である。

以上、SKg812出土遺物は、陶磁器では18世紀後半、1780年代~1820年の製作年代が付与できるものが主体を占めるが、肥前系磁器壺反碗(1194)、肥前系磁器皿(1198)、京・信楽系陶器壺反碗(1209)は1820~60年代の所産となり、陶磁器の年代観では、おおむね19世紀第2・3四半期に位置付けられる。一方、在地土器では焼成が幕末~明治期前半に属し、型成形の鍋(1191)、土管(1193)もそれに併行する可能性が高い。よって、幕末前後に位置付けておきたい。

SKg813 (第230図)

不整形な二段掘りの土坑で、断面は逆台形を呈する。1229は瀬戸・美濃系磁器瓶(御神酒徳利)である。外面には瑠璃釉を認める。明治期以降の所産であろう。

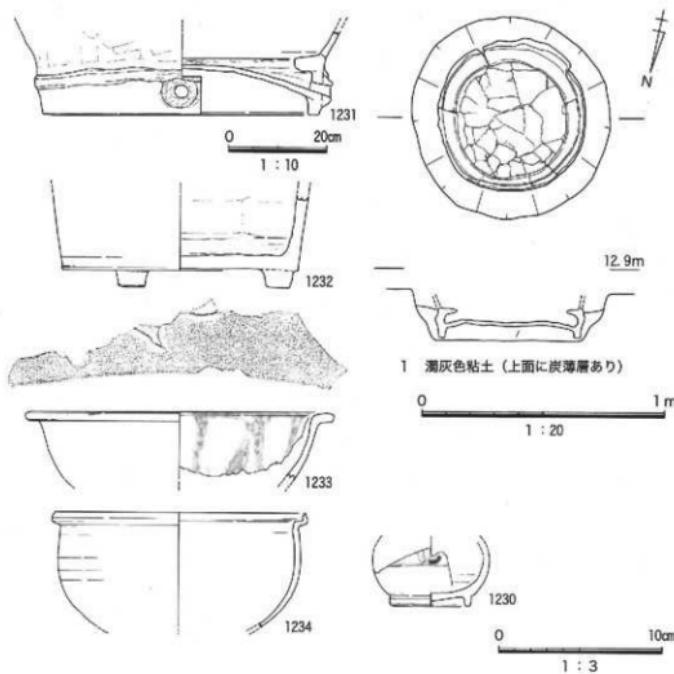
SKg815 (第231図)

円形の土坑で、1231の掘り方である。1230は肥前系磁器瓶である。18世紀第4四半期~19世紀前半。1231は土師質土器風呂釜である。底部内面に突帯を巡らし、底部外縁には穿孔を認める。外面にのみ煤の付着を認め、胎土中には多量の雲母と角閃石を含有する。1232は土師質土器七厘である。三脚を有し、体部外面には型成形により草花文を陽刻する。1233は瀬戸・美濃系陶器鉢である。ボル状の形態を呈し、灰釉を施した後、緑釉の流し掛けを行う。1234は軟質系施釉陶器鉢である。外面全面には煤が付着する。

以上、SKg815は1232の型成形七厘の存在により、おおむね幕末前後の年代を付与することができよう。

SKg816 (第232図)

円形の土坑で、逆台形の断面を呈する。1235は肥前系磁器碗である。内面には一重網目文、外面には二重網目文を認め、遺存しないが見込みには菊花文を描くタイプとなる。1700~50年代。1236は陶胎染付碗である。1237は瀬戸・美濃系陶器灰釉丸碗である。1238土師質土器小皿である。底部には回転糸切り痕を認める。1239は備前灯明皿である。仕切を有する。1240は瓦質焰である。口縁部は緩やかなカーブを描き、口縁部に至る。内耳を有し、明瞭に貫通する穿孔を認める。佐藤編年A I - 1型式の所産となろう。



第231図 SKg815 平・断面図、出土遺物実測図

以上、SKg816出土遺物はおおむね18世紀前半に位置付けられる。

S K g 8 2 4 (第233図)

隅丸方形の土坑で、浅い皿状の断面を呈する。1241は肥前系磁器青磁皿である。見込みには蛇の目釉剥ぎを認めるが、高台内には青磁釉を施釉する。

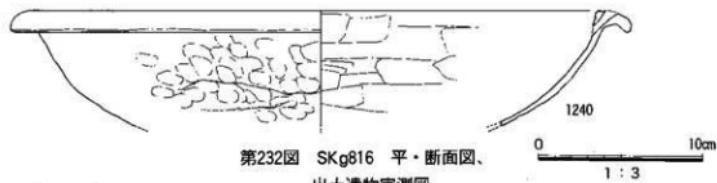
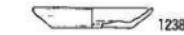
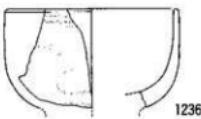
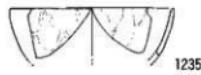
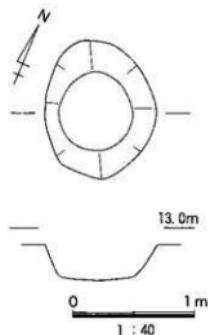
以上、SKg824は出土点数が少なく、年代的位置付けが困難であるが、17世紀後半～18世紀前半の埋没と想定しておきたい。

S K g 8 2 6 (第234図)

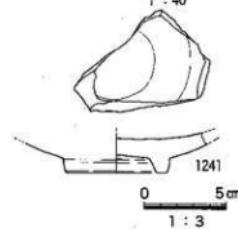
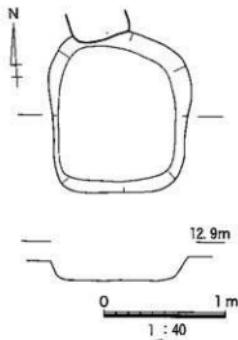
円形の土坑で、逆台形の断面を呈する。土坑内からは軒平瓦の破片が出土しているが、瓦当文様はない。

S K g 8 2 7 (第235図)

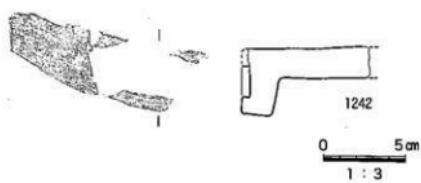
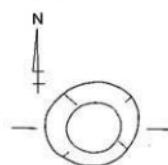
不整形な土坑で、1243の掘り方である。1243は土師質土器大甕。底部にはわずかに丸味を有し、入念な板ナデ調整を認める。胎土中には雲母・角閃石を多量に含有する。内面には内容物が付着する。



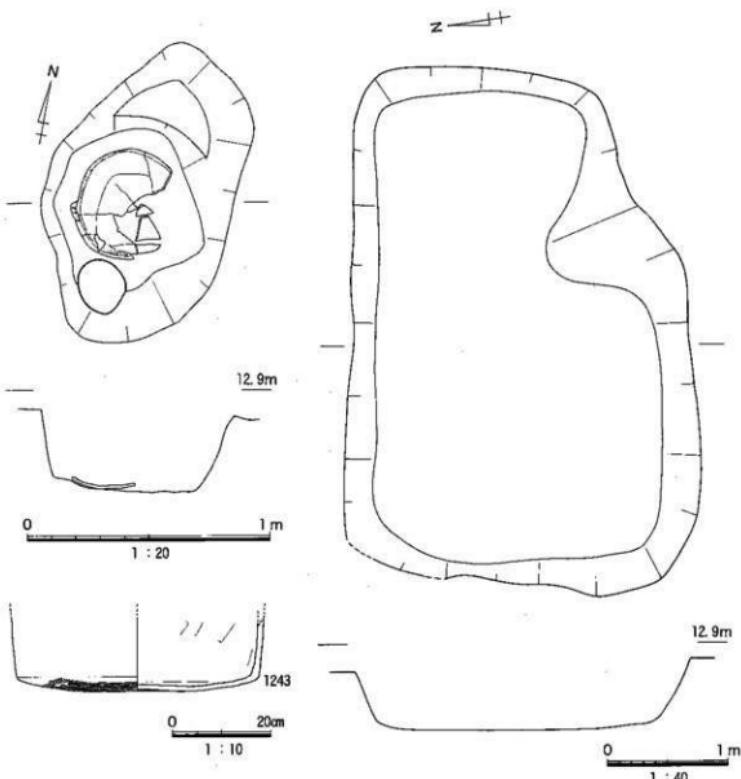
第232図 SKg816 平・断面図、
出土遺物実測図



第233図 SKg824 平・断面図、
出土遺物実測図



第234図 SKg826 平・断面図、
出土遺物実測図

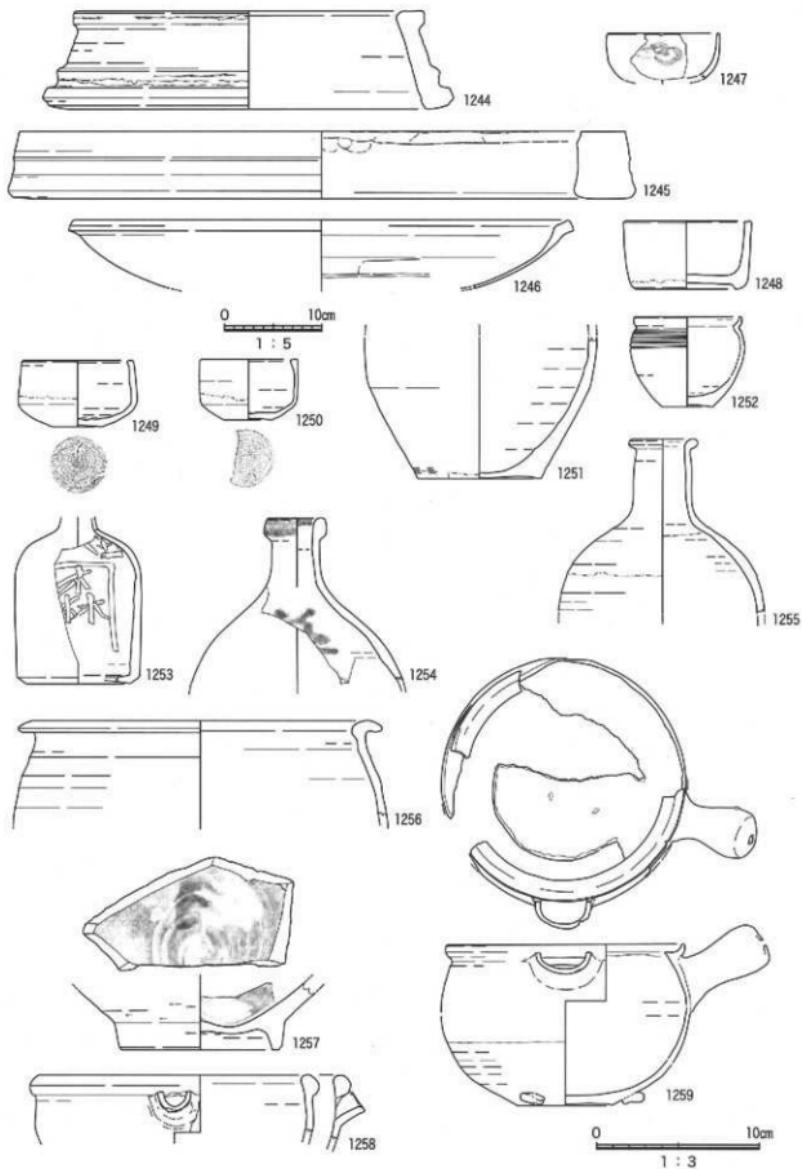


第235図 SKg827 平・断面図、
出土遺物実測図

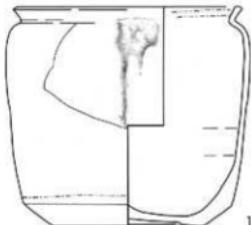
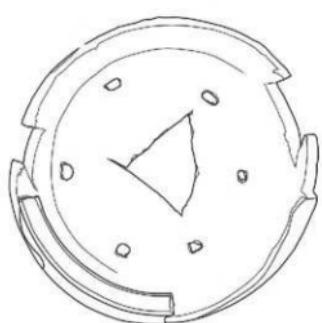
第236図 SKg831 平・断面図

SK g 8 3 1 (第236~238図)

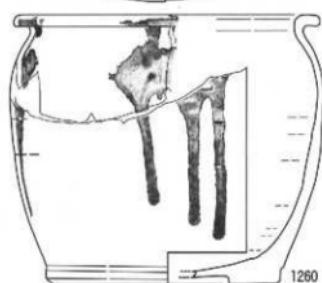
ややいびつな方形の土竈で、断面は逆台形を呈する。1244・1245は土師質上器五態である。前者は上下端部を外方へ強く拡張し、下端には強い回転ナデ調整による突線を認める。内面及び下端面には暈が付着し、胎土中には多量の窑母を含有する。1246は瓦質焰烙である。型成形。1247は京・信楽系陶器丸碗である。外面には墨絵染付による草花文を認める。19世紀代。1248は軟質施釉陶器小杯である。内外面には柿釉を施釉し、底部は幕筈底状を呈する。1249・1250は軟質施釉陶器小杯である。底部から大きく開いた後、口縁部は直立する。外面上半及び口縁部内面には柿釉を施し、底面には回転糸切り痕を認める。1251・1255は大谷焼瓶(森)である。口縁部は直立し、端部を外方へ小さく折り返す。体部下半には屈折点を認め、外面には鉄釉を施す。1252は焼結陶器壺である。口縁部は体部から「く」字形に屈曲し、内湾気味に開き、肩部には多条沈線を認める。1253・1254は施釉陶器瓶である。前者は鉄釉を施し、「森」の釘書きを認める。大谷焼か。1254は外面には緑灰色の色調を呈する灰釉を施し、端部及び文字には暗緑色の灰釉を用いる。1256は施釉陶器壺である。口縁部は短く直立し、端部を内側に小さく、外方へ強く拡張する。内外面には鉄釉を施す。1257は施釉陶器鉢である。北部



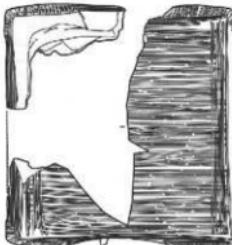
第237図 SKg831 出土遺物実測図（1）



1261



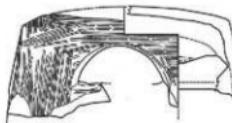
1260



1262



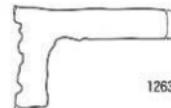
0
1 : 3
10cm



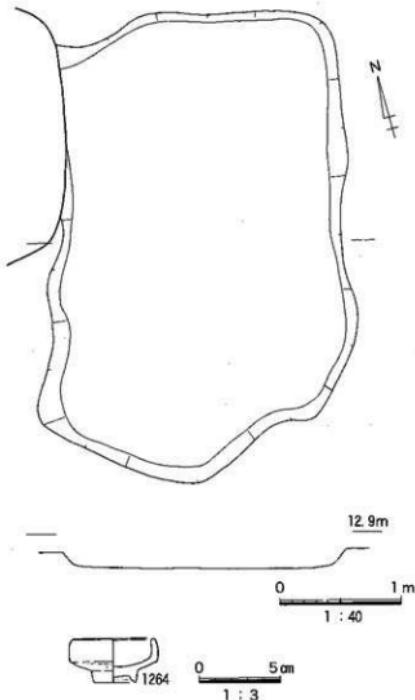
0
1 : 5
10cm



1263



第238図 SKg831 出土遺物実測図 (2)



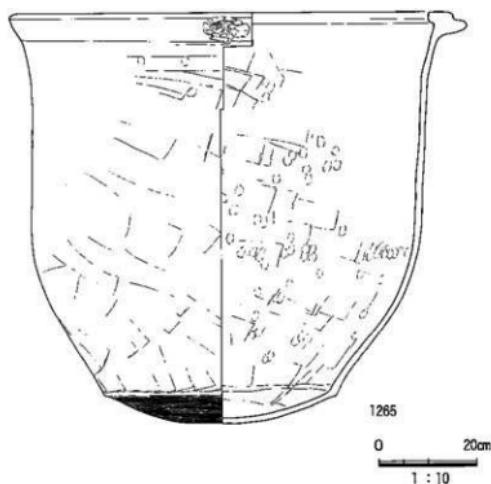
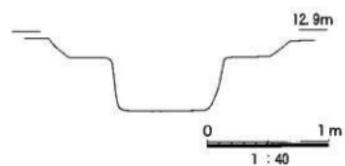
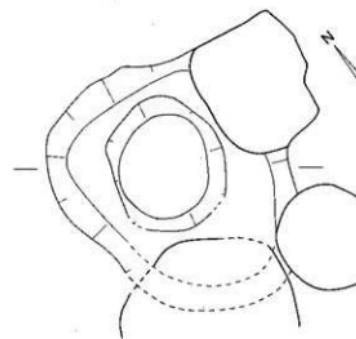
第239図 SKg833 平・断面図、出土遺物実測図

九州から中国地方産か。1258は瀬戸・美濃系陶器片口鉢である。口縁部は玉縁状に肥厚し、内外面には灰釉を施す。1259は京・信楽系陶器行平鍋である。片口・把手を有し、底部には痕跡的な三足を認める。1260は信楽焼壺である。底部には幅広で扁平な高台を有し、口縁部は短く直立した後、強く開く。内外面には鉄釉を施し、灰釉を流し掛けする。見込みには6個の胎目を認める。1261は施釉陶器壺である。底部はわずかに基筒底状を呈し、底部外縁には面を認める。肩部には張りを認め、口縁部は短く外傾する。口縁部内面及び外面には灰釉を施し、外面には青色絵巻の流し掛けを下絵として認める。端部は無脚となり、蓋付きである可能性が高い。1262は瓦質炬燵である。外面には入念なヘラミガキを施し、対方向の側縁には半月状の窓を有する。1263は軒棟瓦である。丸瓦部には巴文、平瓦部中心飾りには半截花菱文を認める。なお、凸面には斜格子状の割目を施す。

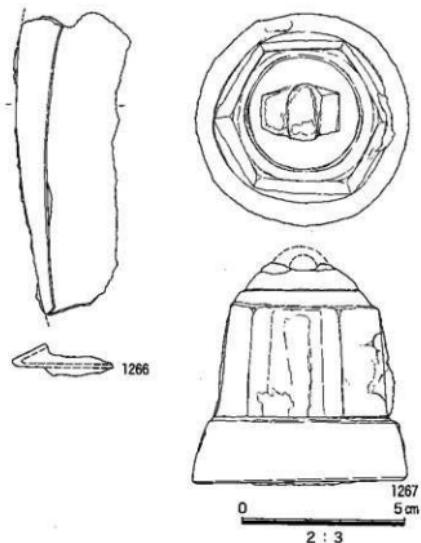
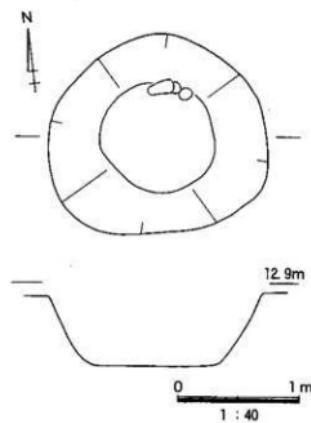
以上、SKg831出土遺物は型成形の熔接（1246）や軟質施釉陶器小杯（1249・1250）の存在から、明治期以降の所産と考えられる。

SKg833 (第239図)

ややいびつな方形の土坑で、皿状の断面を有する。1264は瀬戸・美濃系陶器小杯である。口縁部は短く直立し、内面及び口縁部外面には灰釉を施す。



第240図 SKg838 平・断面図、出土遺物実測図



第241図 SKg840 平・断面図、出土遺物実測図

S Kg 838 (第240図)

楕円形で二段掘りの土坑で、1265の掘り方である。1265は土師質土器大甕である。底部は丸みを有し、体部は緩やかに開いた後、直立する。口縁部はわずかに外傾し、端部を外方へ強く折り曲げ、さらにその上部は内側に突出する形態を呈する。胎土中には雲母・角閃石を多量に含有する。出土遺物からその年代を想定することは困難であるが、幕末前後の所産と考えておきたい。

S Kg 840 (第241図)

楕円形の土坑で、逆台形の断面を有する。1266は鉄製動先である。1267は釣り鐘状の形態を呈する鉄製品である。六面体となり、上端部には把手を認める。中空構造ではなく、天秤のおもりに用いられた可能性を想定しておきたい。

出土遺物からの年代観は不明であるが、鉄製動先はSKg812出土遺物に共通しており、幕末前後の所産になるかもしれない。

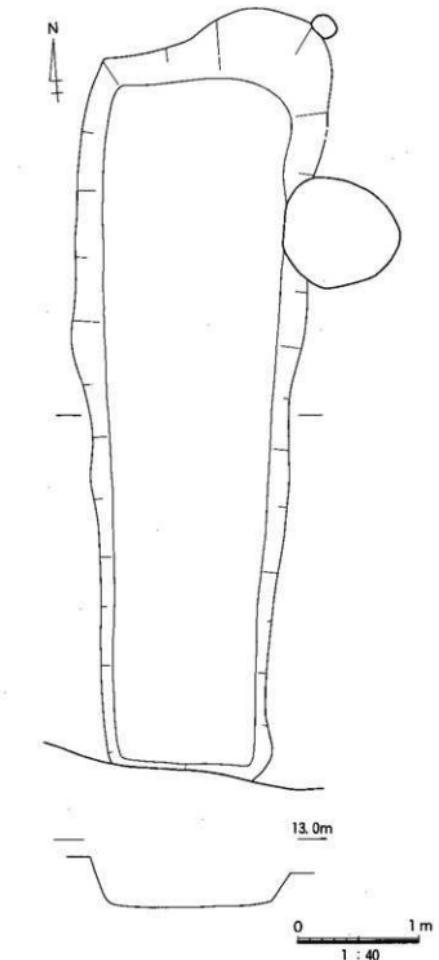
S Kg 843 (第242・243図)

長方形の土坑で、逆台形の断面を呈する。土坑中央に柱穴が見られるが性格は不明である。1268は肥前系磁器皿である。見込みには蛇の目釉剥ぎ→アルミナ砂の塗布を認め、口縁部内面には二重線による格子文を描く。1850~60年代。1269・1270は石臼である。前者は下臼、後者は上臼となる。後者の底面中央には下臼と組み合わせる崖みを認め、側面には横打込穴を認める。

以上、SKg843出土遺物の年代観は肥前系磁器皿の存在から幕末前後の所産と理解したい。

S Kg 870 (第244図)

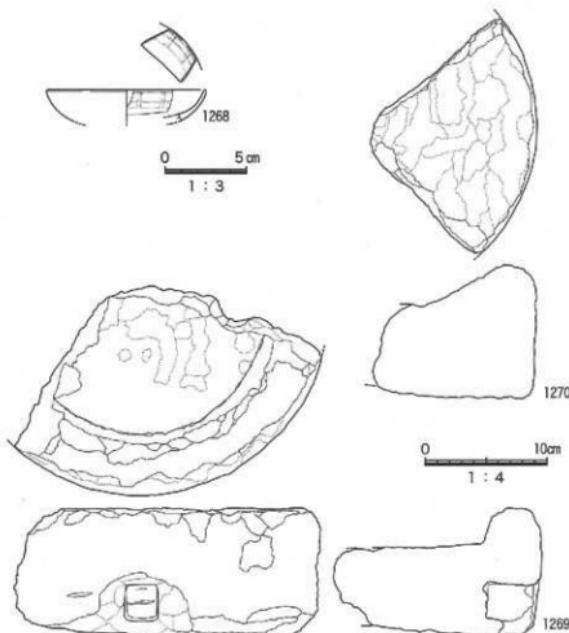
円形の土坑で、埋土中には磚が多く含まれる。1271-1は肥前系陶器碗である。内面には打ち刷毛、外面には直線的な刷毛目を認める。18世紀前半。1271-2・3は肥前系磁器印判による五弁花を押印する。1271-3は皿である。



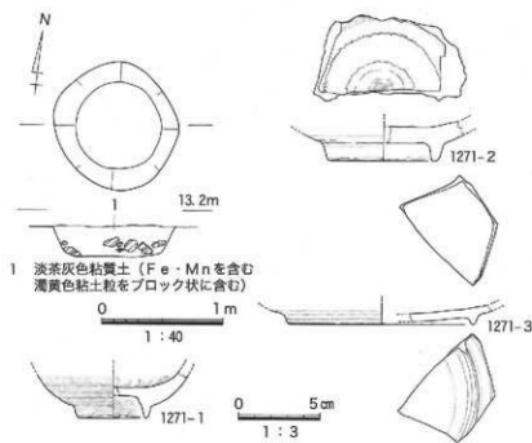
第242図 SKg843 平・断面図

である。1271-2は鉢である。見込みには蛇の目釉剥ぎを認め、印判による五弁花を押印する。1271-3は皿である。

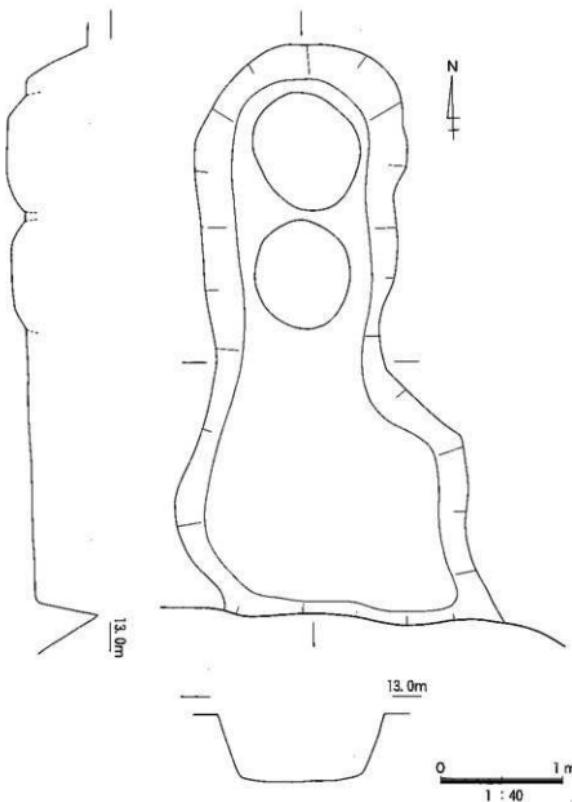
以上、SKg870の出土遺物は1271-1・2が18世紀前半、3は18世紀後半に位置付けられる。よって、おおむね18世紀第3四半期前後の埋没と理解しておきたい。



第243図 SKg843 出土遺物実測図



第244図 SKg870 平・断面図、出土遺物実測図

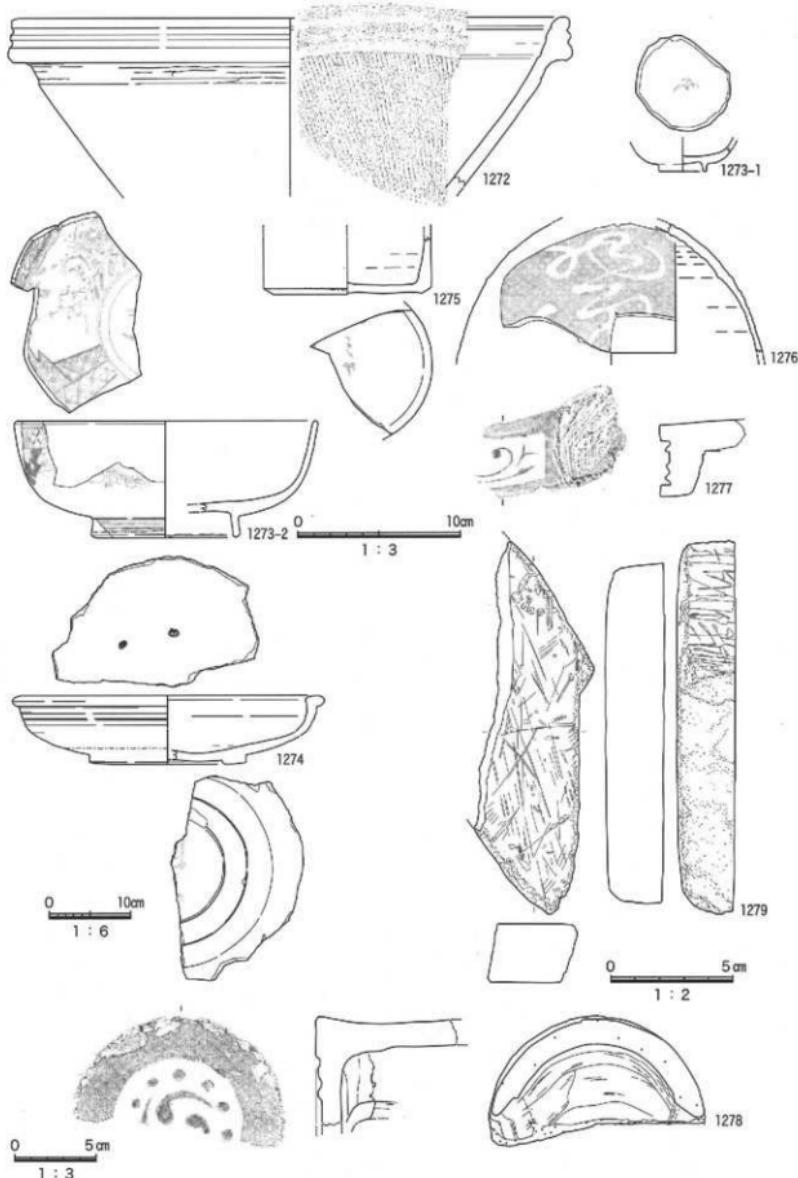


第245図 SKg885 平・断面図

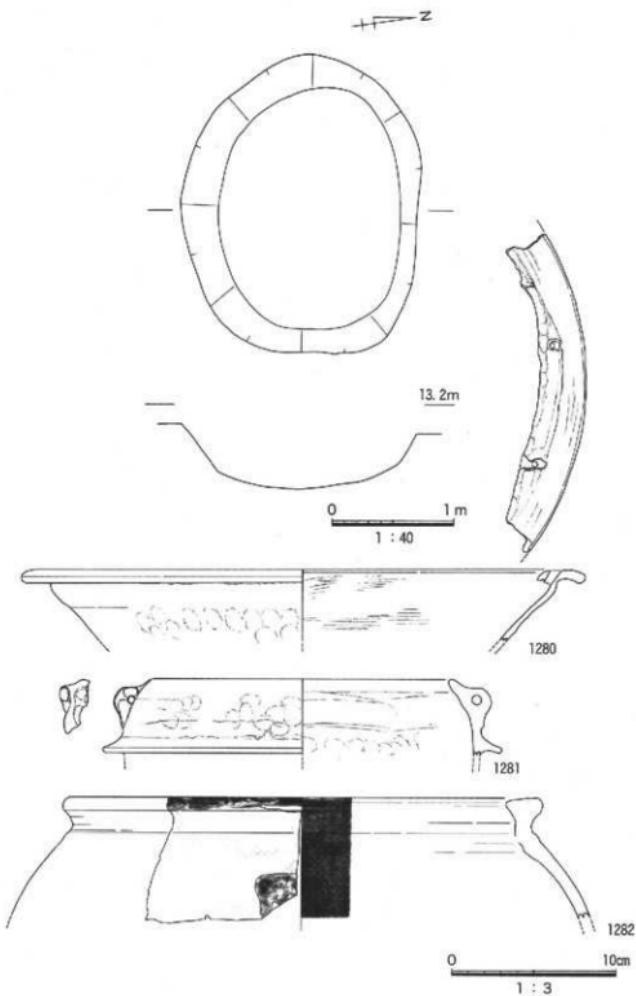
S Kg 8 8 5 (第245・246図)

不整形な土坑で、2箇所に柱穴が見られる。性格は不明である。断面は逆台形を示す。1272は堺・明石系摺鉢である。口縁部断面形状は三角形を呈し、内面には痕跡的な沈線を認める。白神編年Ⅲ型式の所産か。1273-1・2・1275は肥前系磁器である。1273-1は小碗である。幕末～明治期。1273-2は鉢である。口縁部内外面には四方籠文を縁文様として染め付け、内外面には赤・青・緑・黄・黒・金色絵薬による上絵付けを認める。内面には区画文と草花文、外面上には宝文を認める。明治・大正期の所産となり、671と同一個体の可能性が高い。1275は白磁火入れである。底面には「ミヤ」の墨書きを認める。江戸後期。1274は瀬戸・美濃系陶器浅鉢である。見込みには胎上目を認める。1276は施釉陶器徳利である。内外面には灰釉を施釉し、白泥により文字を表現する。1277は軒棟瓦である。丸瓦部が右に付く。1278は軒丸瓦である。瓦当面にはキラコの塗布を認める。1279は砥石である。上面には直線的な擦痕を認める。

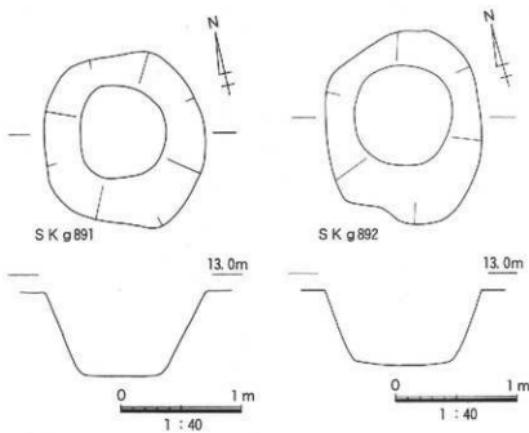
以上、SKg885出土遺物は明治・大正期に属する陶磁器が主体を占め、おおむね明治期の所産と理解できる。



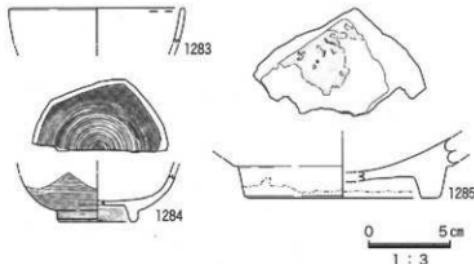
第246図 SKg885 出土遺物実測図



第247図 SKg888 平・断面図、出土遺物実測図



第248図 SKg891 平・断面図



第249図 SKg891 出土遺物実測図

S K g 8 8 8 (第247図)

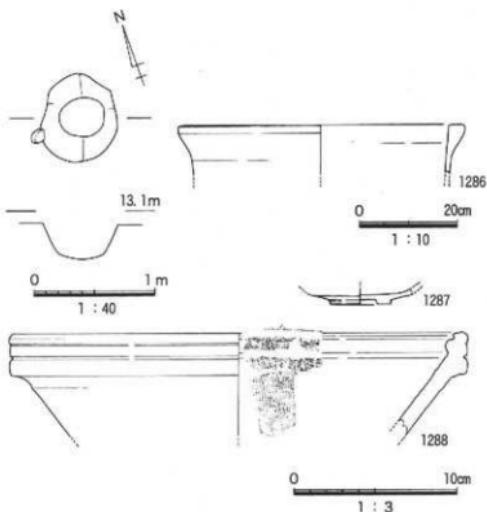
梢円形の土坑で、断面は皿状を呈する。1280は土師質土器熔融である。口縁部はわずかに直立し、大きく開く。内耳を有し、明瞭に貫通する穿孔を認める。佐藤編年A I - 2ないし3型式の所産である。1281は瓦質羽釜である。穿孔を認める縦方向の外耳を有するが、使用痕跡は確認できない。1282は信楽焼甕である。口縁部は短く直立し、内外面に拡張する。内面には灰釉、外面には鉄釉を施し、外面には灰釉の流し掛けを認める。

以上、SKg888は出土遺物の年代観より、18世紀末～19世紀第1四半期の所産であることが窺える。

S K g 8 9 1 (第248図)

円形の土坑で、断面は逆台形を呈する。土坑内からは、1283～1285が出土しており、いずれも肥前系陶器である。1283は呂器手碗であろう。17世紀後半～18世紀前半。1284は刷毛目碗である。内外面には直線的な刷毛目を認め、胎土は赤橙色の色調を呈する。1285は鉢である。内外面には鉄しょうを施し、見込みには砂目を認める。17世紀後半～。

以上、SKg891は出土遺物の年代観より、18世紀前半に位置付けられる。



第250図 SKg896 平・断面図、出土遺物実測図

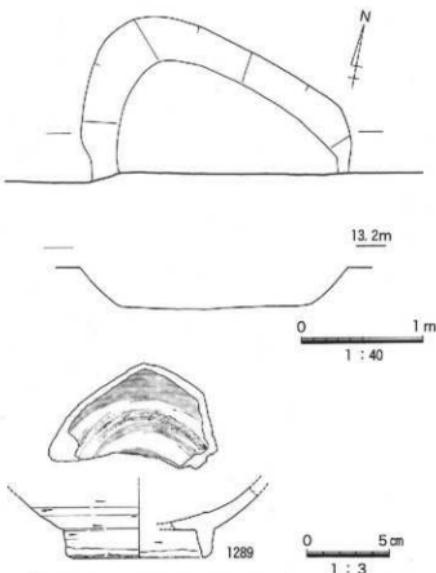
S K g 8 9 2 (第248・249図)
円形の土坑で、断面は逆台形を呈する。

S K g 8 9 6 (第250図)
円形の土坑で、断面は逆台形を呈する。1286は土師質土器甕である。内面には煤痕を認める。胎土中には雲母・角閃石を多量に含有する。1287は京・信楽系陶器碗である。高台は蛇の目高台状を呈し、内面には灰釉を施釉する。1288は堺・明石系摺鉢である。白神縄年II型式1段階の所産である。

以上、SKg896出土遺物は、土師質土器甕の年代観に問題を残すが、陶器の年代観より、18世紀後半に位置付けておきたい。

S K g 8 9 8 (第251図)

隅丸方形状の土坑で、南半は検出できていない。断面は皿状を呈する。1289は肥前系陶器刷毛目鉢である。見込みには蛇の目釉剥ぎ→アルミナ砂の塗布→重ね積みによる高台痕跡を認める。アルミナ砂は疊付にも認める。18世紀第2・3四半期の所産である。



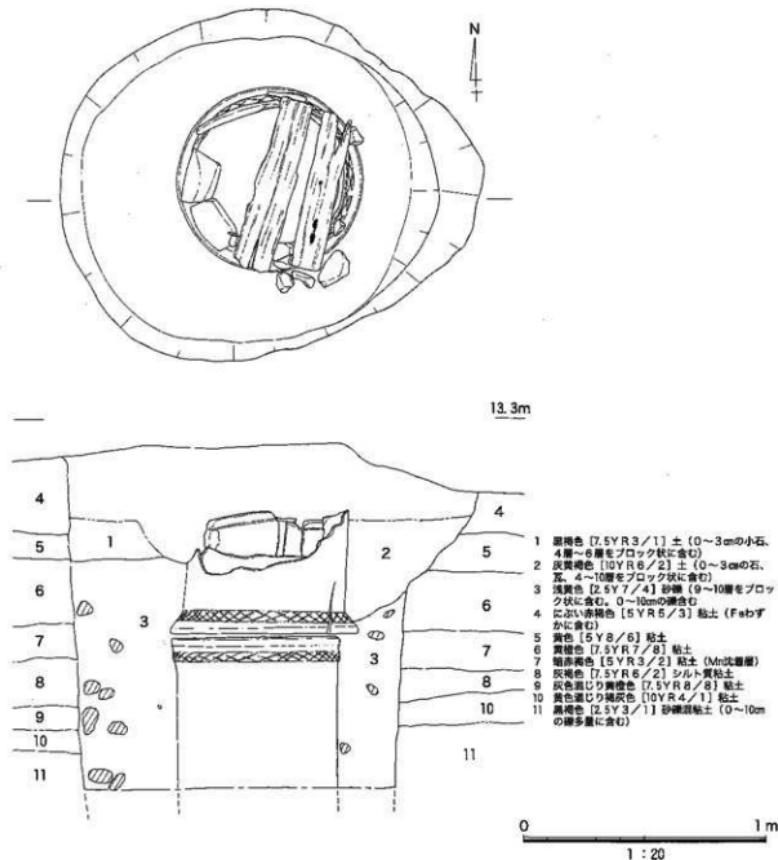
第251図 SKg898 平・断面図、出土遺物実測図

④ 井戸跡

S E g 01 (第252・253図)

弥生時代の堅穴住居跡SHg02を切って造られている。卵形の掘り方に土製の井筒を2本つないで井戸としている。最下層は検出できていないが、砂礫層まで掘りぬかれていると思われる。井筒の上部は破壊されているが、一部に板を用いた蓋と思われるものが遺存していた。埋土は下部から上部の井筒を越えて同一十層で、この上に更に一層確認できる。

1290は京・信楽系陶器壺反碗である。1291・1292は京・信楽系陶器灯明皿である。見込みには目跡を認める。1293は壠・明石系摺鉢である。白神覆年II型式2段階。1294は瓦質鍋である。型成形によるが、外面には板ナ



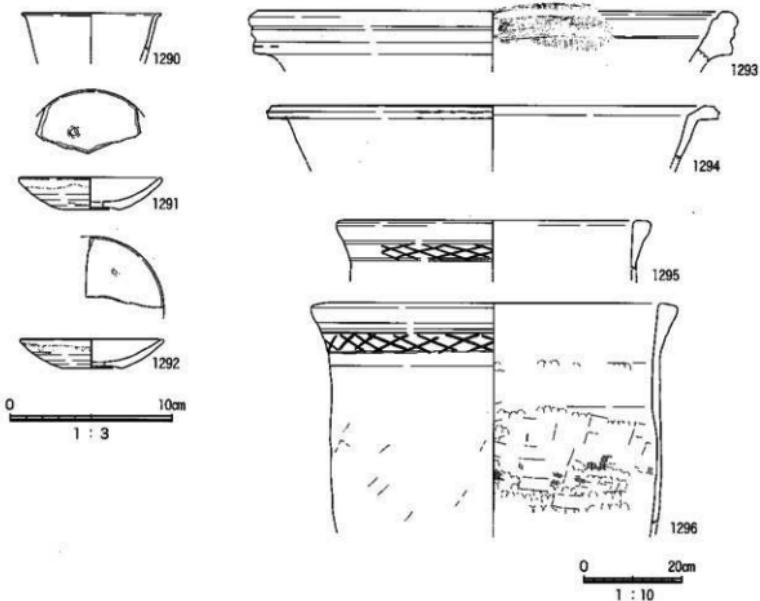
第252図 S E g 01 平・断面図

テ調整を認める。1295・1296は土師質土器井筒である。外面には扁平な突帯を有し、板材小口部を押し当てた斜格子文を認める。胎土中には多量の雲母と角閃石を有する。

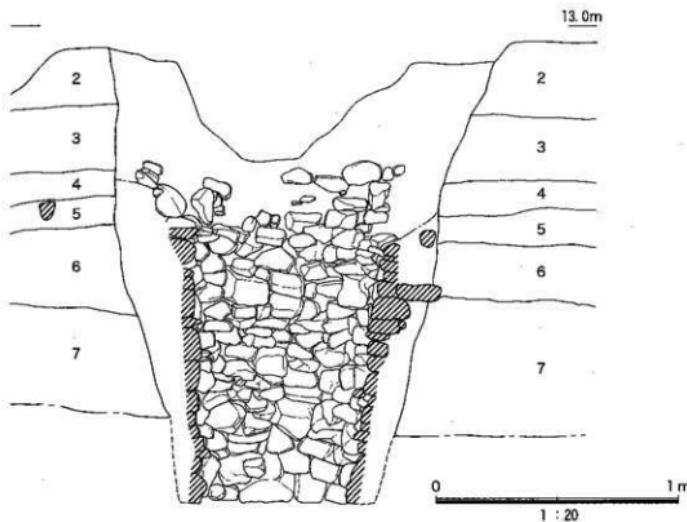
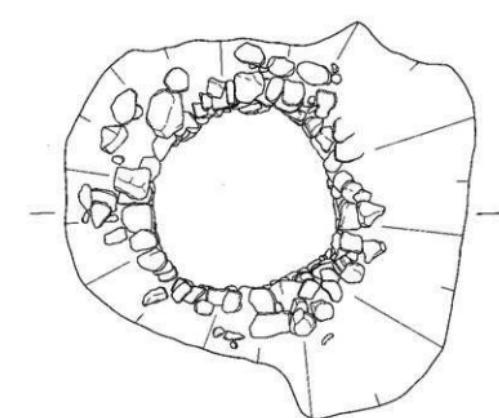
以上、SEg01出土遺物が示す年代觀は、陶器では19世紀第2・3四半期に位置付けられる。一方、在地產土器では、型成形の鍋（1194）が最も新しい様相を示し、幕末前後に位置付けられる。井筒の年代的な位置付けは不明であるが、幕末前後の所産と理解しておきたい。

SEg02 (第254図)

円形の石組み井戸である。SDg31を切っている。透水層（土層6・7）を掘りぬいている。石組みは底部からやや上方に広がるように組み上げられているが、ほぼ垂直に近い。断面図右側でも分かるように土層6と7の境部分に扁平な石が見られ、上部と下部に分けて築かれた可能性が高い。埋土は土層1で形成されており、掘削によって生じた土を用いている。状面はすり鉢状になっており、斜面部にも石を貼っていたと考えられる。

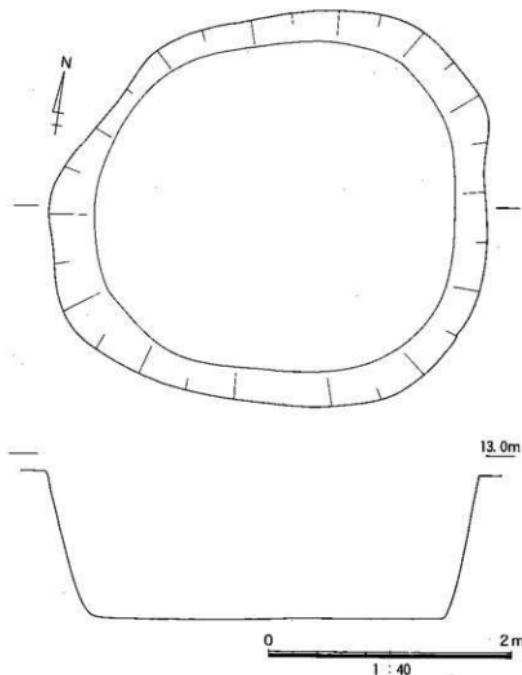


第253図 SEg01 出土遺物実測図



- 1 2～7層ブロック土(下層は裏辺石)
 2 にぶい赤褐色粘土〔5YR 5/3〕粘土
 3 黄色〔5Y 8/6〕粘土
 4 暗赤褐色〔5YR 3/2〕粘土(Mn沈着層)
 5 褐灰色〔10YR 4/1〕礫混粘土(0～5cmの礫含む)
 6 橙色〔7.5YR 6/8〕砂礫(0～10cmの礫多い)
 7 オリーブ黒色〔7.5Y 3/1〕砂礫(0～10cmの礫多い)透水層

第254図 SEg02 平・断面図



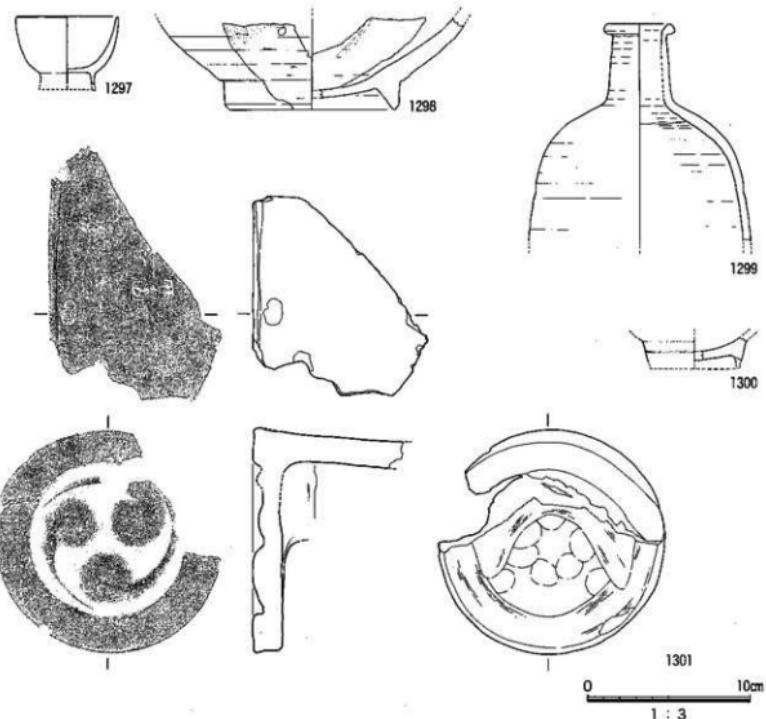
第255図 S E g 03 平・断面図

S E g 0 3 (第255・256図)

円形の素掘り井戸で、断面は逆台形を呈する。土坑の可能性もあるが、湧水状態から井戸と考えている。

1297は京・信楽系陶器鉢である。高台は高く、高台側面には疊付際までの施釉を認める。高台内には「寅山」の刻印を押印する。1298は施釉陶器鉢である。内外面には鉄釉ないし鉄しょうを施し、内面には灰釉の流しがけを認める。北部九州から中国地方產か。1299は大谷焼瓶である。1300は瀬戸・美濃系陶器広東碗である。太白手。1301は軒丸瓦である。瓦当文様は殊文のない巴文である。外面には「林善善」の刻印を認める。

以上、SEg03出土遺物は、陶器では19世紀第2・3四半期に位置付けられる。しかし、1301は刻印から、1890年頃～昭和19(1944)年の年代が想定されている(佐藤2000)。ここでは、陶器の年代観を考慮して、19世紀末～20世紀初頭の年代を想定しておきたい。

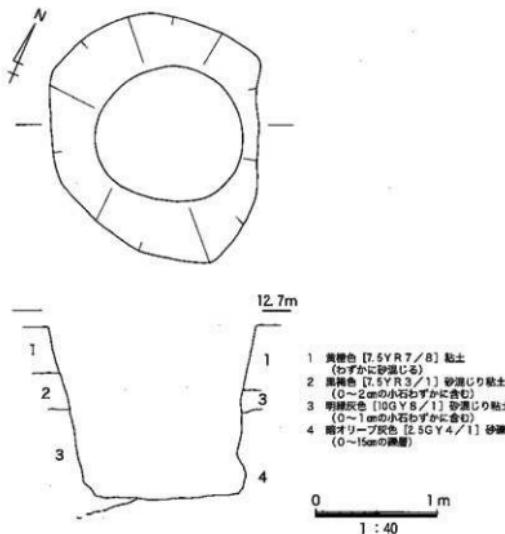


第256図 SEg03 出土遺物実測図

S E g 0 4 (第257・258図)

円形の素掘り井戸で、断面は逆台形を呈する。SDg75を切っている。土層4の砂礫層まで掘りこんでおり、井戸と判断している。

1302～1308・1311・1312は肥前系磁器である。1302は小碗である。外面には簡略化した草花文を認める。1303・1304は丸碗である。印判による絵付けを認める。18世紀前半。1305・1306は小杯である。前者には雨降り文を認める。いずれも18世紀前半に位置付けられる。1307・1308は皿である。1307は見込みに蛇の目凹形高台→アルミナ砂の塗布を認め、底部は無釉となる。口縁部内面には折枝文を描く。1680年代～1740年代の所産か。1311は瓶である。17世紀後半。1312は白磁仏手瓶である。肩部には菊花を貼付する。1309・1310・1313は肥前系陶器である。1309は刷毛目碗で、内面には打ち刷毛、外面には直線的な刷毛目を認める。18世紀前半。1310は銅線彫の皿である。見込みには蛇の目釉剥ぎを認める。内野山窯産。1313は鉢である。高台脇に比して、高台内抉り込みは深い。17世紀後半の所産か。1314は備前大平鉢の可能性が高い。17世紀前半。1315・1316は土師質土器焼である。口縁部は緩やかなカーブを描き、直立箇所は確認できない。18世紀前半の所産である（佐藤編年I群）。1317・1318は瓦質羽釜である。前者は内湾形態、後者は茶釜形の形態を呈する。18世紀第3四半期に属する茶釜形の形態を呈する羽釜は口縁部の直立傾向が弱く（松本・佐藤2001）、18世紀前半に位置付



第257図 SEg04 平・断面図

けられる。1319は土師質土器甕である。胎土中には雲母と角閃石を多量に含有する。

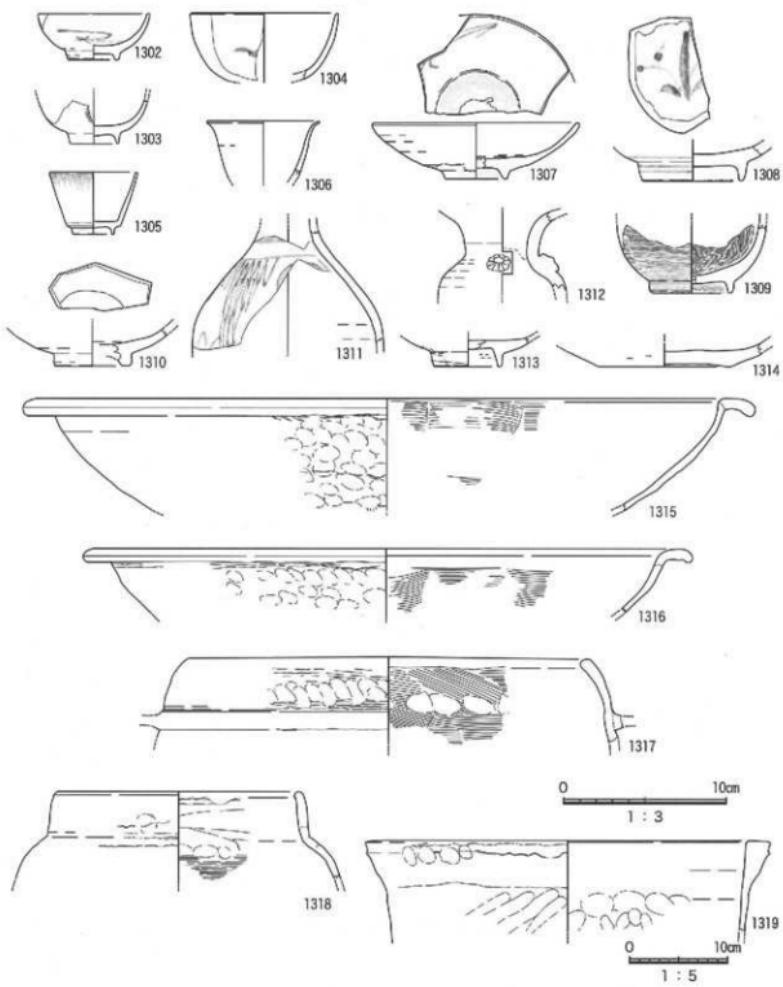
以上、SEg04出土遺物の年代観は、陶磁器では18世紀前半に属し、在地産土器もほぼ同時期に位置付けられる。ここでは、18世紀第2四半期の年代を想定しておきたい。

S E g 0 5 (第259・260図)

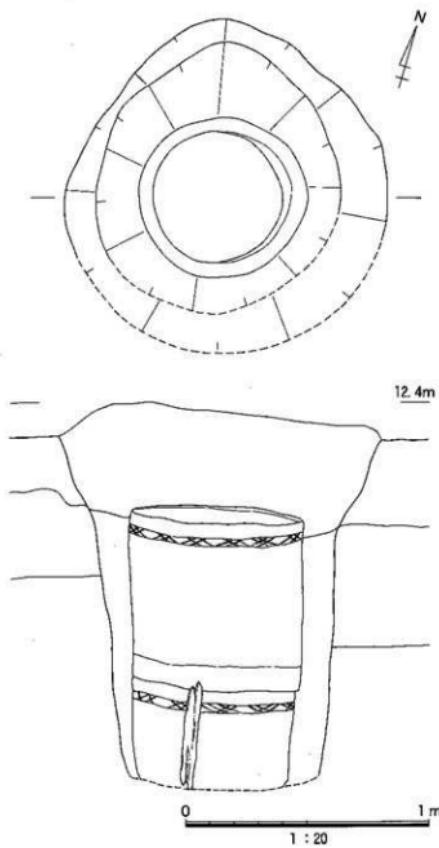
円形の井戸で、土師質の井筒を二段に積み重ねて用いている。掘り方は井筒上面ラインまではほぼ垂直に掘られ、井筒を据え付けた後や上方に聞くような形状を持つ。

1220・1221は土師質土器井筒である。筒状の形態を呈し、口縁部は三角形に肥厚する。外面には文様帯を創出し、斜格子文を施す。胎土中には多量の雲母と角閃石を含有する。1322は瀬戸・美濃系陶器鉢である。内外面には灰釉の施釉を認める。1323は軒平瓦である。唐草は2転し、中心飾りは半截菊花文である可能性が高い。

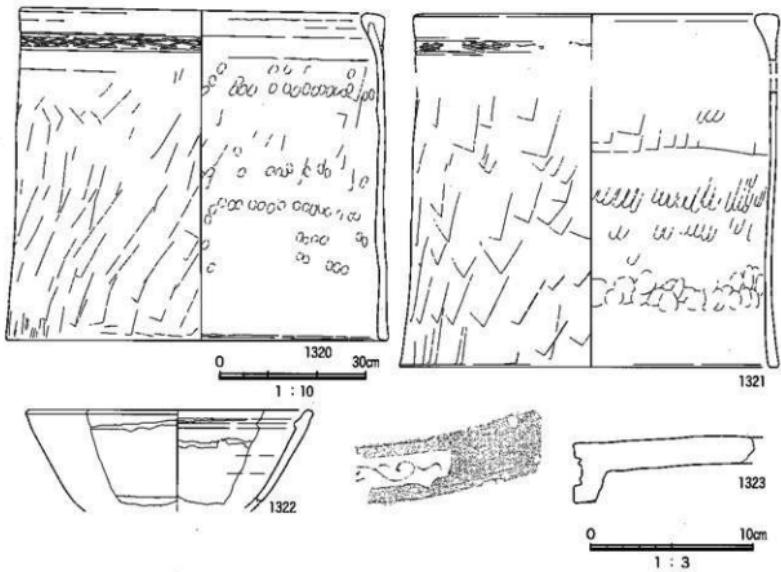
以上、SEg05は出土遺物からの年代決定に問題を残すが、1322の瀬戸・美濃系陶器鉢から、幕末前後の年代を想定しておきたい。



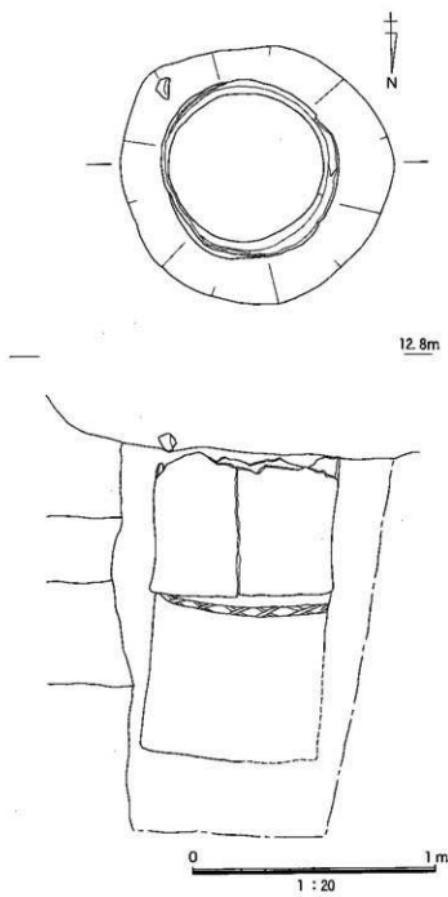
第258図 SEg04 出土遺物実測図



第259図 SEg05 平・断面図



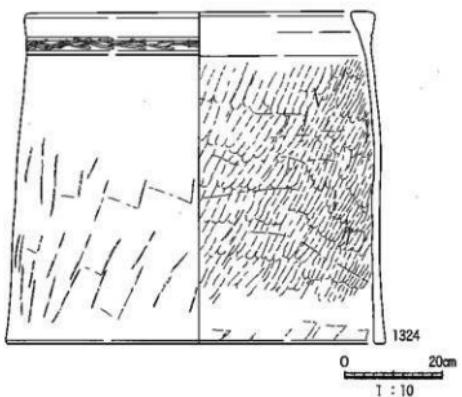
第260図 SEn03 出土遺物実測図



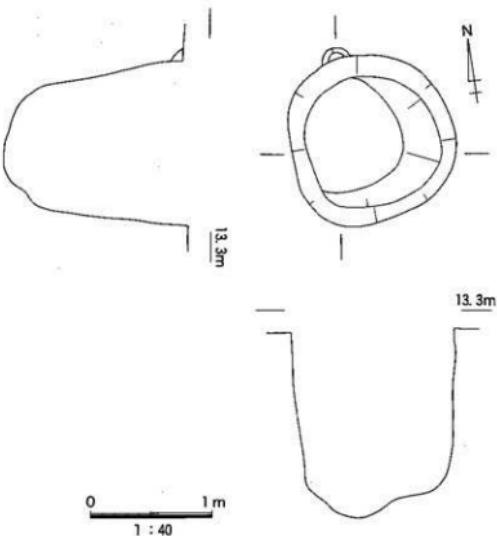
第261図 SEg04 平・断面図

SEg06 (第261・262図)

円形の井戸で、土師質の井筒を二段に積み重ねて用いている。掘り方はやや上部に広がる形で掘られ、少し埋めて井筒を設置している。1324はSEg05から出土した土師質土器井筒である。幕末頃に位置付けられる。



第262図 SEg06 出土遺物実測図



第263図 S E g 08 平・断面図

S E g 0 8 (第263図)

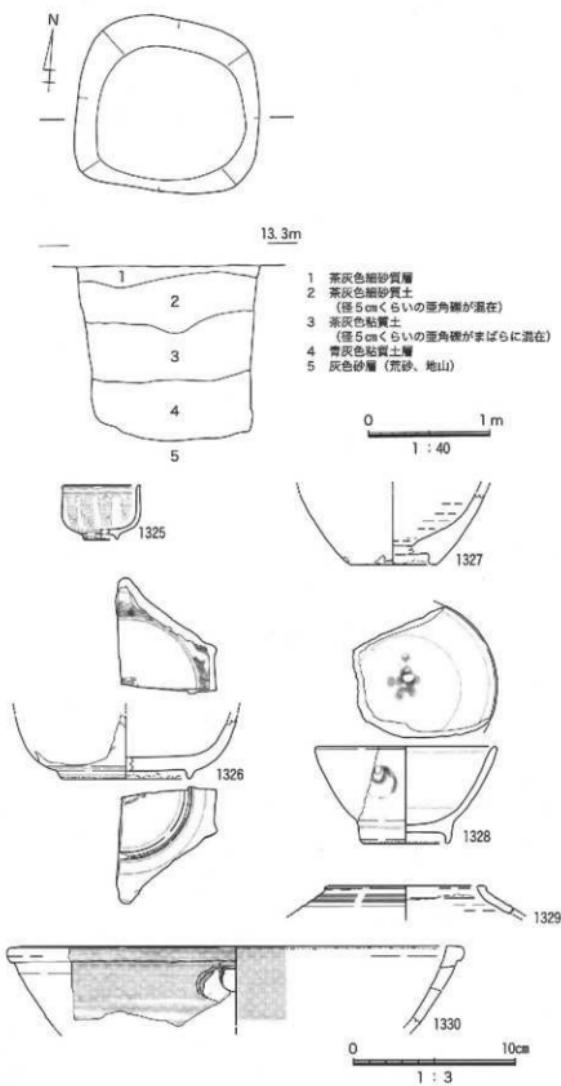
円形の素掘り井戸で、底面は皿状を呈する。やや開き気味ではあるが垂直に近い掘り方を有する。

S E g 0 9 (第264図)

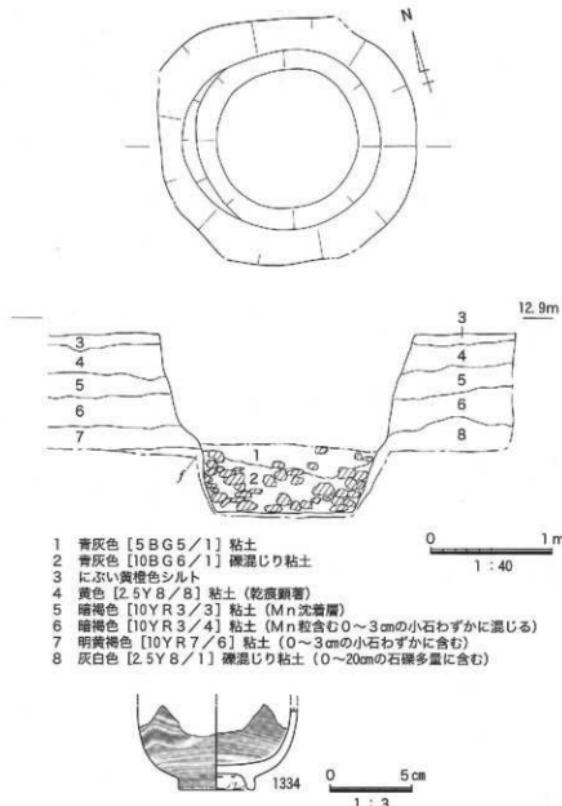
方形の素掘り井戸で、埋土は4層がほぼ水平に堆積しており、埋没状況が想定できない。土層5の砂層まで掘りこんでいる。

1325～1327は肥前系磁器である。1325は小碗である。外面文様には梵字文を認め、1770～1820年代に位置付けられよう。1326は皿である。見込み中央には印判による五弁花を認め、おおむね18世紀後半の所産となる。1327は瓶である。基筒底。18世紀後半～19世紀前半。1328は瀬戸・美濃系陶器広東碗である。太白手。1329は施釉陶器土瓶である。内外面には鉄釉の施釉を認める。1330は肥前系陶器片口鉢である。外面には直線的な刷毛目を認める。1780～1820年代。

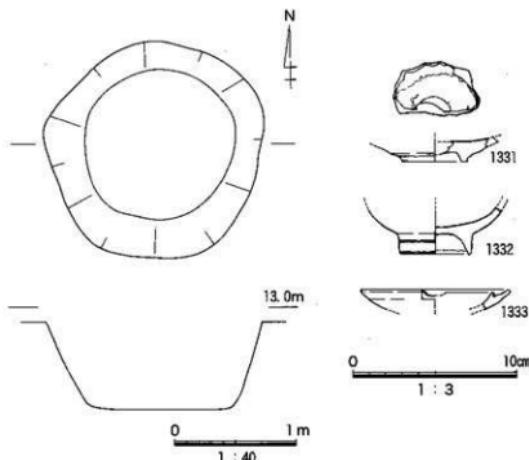
以上、SEg09出土遺物は、18世紀後半～19世紀前半に位置付けられ、ここでは瀬戸・美濃系陶器広東碗の存在から19世紀前半の年代を想定しておきたい。



第264図 SEn09 平・断面図、出土遺物実測図



第266図 SEg12 平・断面図、出土遺物実測図



第265図 S E g 11 平・断面図、出土遺物実測図

S E g 1 1 (第265図)

円形の素掘り井戸で、逆台形の断面を呈する。

1331・1332は肥前系陶器である。1331は見込みには蛇の目軸剥ぎを認め、底部は無釉となる。1332は呉器手碗である。1333は備前系陶器灯明皿である。

以上SEg11出土遺物は、18世紀代に位置付けられ、18世紀第2四半期前後の所産と考えておきたい。

S E g 1 2 (第266図)

円形の素掘り井戸で、上方に開き気味の断面形態を呈する。SDg47を切っている。埋土1・2には多数の螺殻を含んでおり、一種ろ過装置的な意味が考えられる。

1334は肥前系陶器刷毛目碗。内面及び外面下半には直線的な刷毛目、外面上半には波状刷毛目を認める。18世紀前半。

⑤ 不明遺構

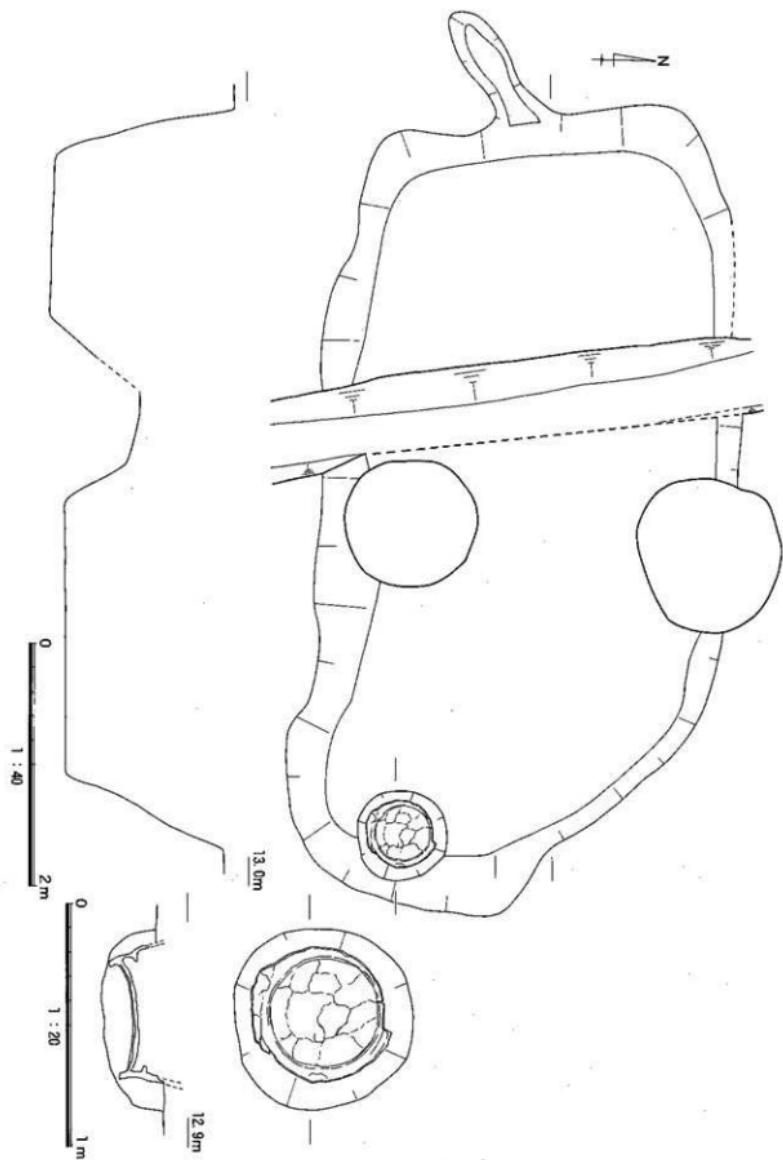
S X g 0 5 (第267~273図)

やや不整形な長方形を呈する。底面は平坦で、SEg05・06によって切られている。

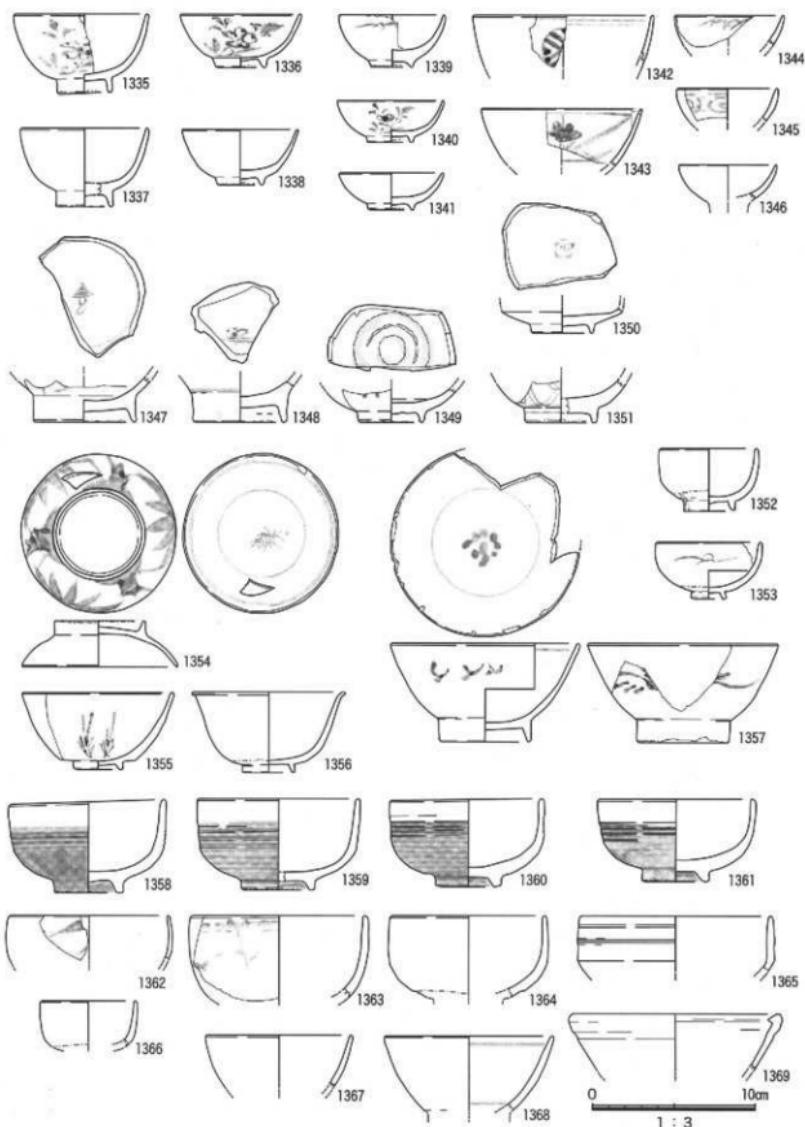
1335~1351・1354は肥前系磁器である。1335~1339は小碗である。1335・1336は外面に草花文を描き、口縁部はかすかに外反する。18世紀後半。1337は内外面に白磁輪を施釉し、高台断面形状はU字形を呈し、著しく高い。18世紀後半~19世紀前半。1340・1341・1344~1346は紅皿である。1340の外面には1335・1336に共通する草花文を認める。18世紀後半。1342・1343・1347~1351は碗である。1342・1343は小広東碗である可能性が高い。前者には丸文、後者は水仙文を認める。1770~1810年代。1347・1348は広東碗である。見込みには抽象的な文様を認める。1780~1820年代。1349は見込みに蛇の目凹形高台→アルミナ砂の塗布を認める。1350は筒形碗の可能性が高い。見込みには印判による五弁花を認める。1780~1810年代。1351は粗製の丸碗である。外面には二重網目文を認める。18世紀後半。1354は広東碗蓋である。外面及び見込みには蕉葉文を認める。

1780～1820年代。1352・1366・1364は瀬戸・美濃系陶器灰釉丸碗である。1353・1355・1356・1362・1367・1372は京・信楽系陶器碗である。1353の外面には錆絵による簡略化した草花文を認める。1355・1367は小杉碗である。外面には錆絵による若松文を認める。1356・1372は端反碗である。1362は色絵丸碗である。外面には緑色絵葉による笠葉文を認める。1357～1361・1368は瀬戸・美濃系陶器碗である。1357・1368は広東碗である。太白手。1358～1361は腰錆碗である。1363は陶胎染付碗である。外面には簡略化した草花文を認める。富田吉金窯産。1365は大谷焼碗である。せんじ碗状の形態を呈し、口縁部には突線を認める。1369は瀬戸・美濃系陶器鉢である。1370は瀬戸・美濃系陶器皿である。鉄絵により見込みには草花文、外面には圈線を描く。1373は軟質施釉陶器仏花瓶である。体部外面及び底部内面には灰釉、底部外面には緑釉を施釉する。胎土は灰白色の色調を呈する緻密な素地が選択され、胎土や釉薬は1154に共通する。1374は軟質施釉陶器土瓶である。1375・1379・1380は備前系陶器灯明皿である。1375の底部には回転糸切り痕を認める。18世紀末から19世紀初頭。1376～1378・1381は京・信楽系陶器灯明皿である。1376・1377・1381は見込みに日跡ないし拂描を認め、1378は仕切を有する。1382は大谷焼壺である。口縁部は短く外反する。1383は施釉陶器土瓶である。鉄釉を施釉し、灰釉の流し掛けを認める。1384は施釉陶器注口付き鉢である。口縁部内面及び外面には鉄釉を施す。1385は施釉陶器瓶である。外面には灰釉を施釉し、鉄絵により宝珠文を描く。1386～1388は肥前系陶器刷毛目鉢である。1386・1387は直線的な刷毛目、1388は波状刷毛目を施す。1388の見込みには蛇の目釉剥ぎ→アルミニナ砂の漬物を認める。1389は施釉陶器鉢である。北部九州から中国地方産。1390・1391は瀬戸・美濃系陶器鉢である。前者は口縁部が内湾し、端部に丸味を有する。後者は直線的に外傾し、端部を三角形に収める。いずれも内外面には灰釉の施釉を認める。1392は軟質施釉陶器鉢である。対方向に把手を有し、外面上半及び内面には灰釉を施釉する。1393・1394は信楽焼壺である。1393は内面に灰釉、外面に鉄釉を施釉し、灰釉の流し掛けを施す。1395・1396は堺・明石系摆件である。1396の見込みには「＊」字形にスリメを施す。白神編年II型式。1397～1400は土師質土器焰燈である。口縁部は短く直立した後、大きく開く。1397はわずかに突出する内耳にからうじて貫通する穿孔を認めるが、1398～1399の穿孔は貫通せず、1400には穿孔を認めない。佐藤編年との対比では、1397がA I - 3型式、1398・1399がA I - 4型式、1400がA I - 4～5型式に該当する。401は土師質土器風呂釜である。底部を有し、内面底部付近には突帶を有し、その上位に突起を認める。さらに、底部に連続する高台には穿孔を認める。胎土中には雲母・角閃石を含有する。底部を除く外面には、煤の付着を認める。1402・1406は土師質土器ないし瓦質土器甕（おくど）である。前者の上位には円孔を認める。ほぼ全面に煤の付着を認め、胎土中には多量の雲母・角閃石を含有する。1406は外外面に煤の付着を認めるが、底部には確認できず、土中に埋没していた状況が確認できる。1403は土師質土器小皿である。底部には回転糸切り痕を認める。1404は瓦質羽釜である。口縁部はわずかに内湾する。1405～1408は土師質土器甕である。1407は緩やかに口縁部が外反し、端部は三角形に肥厚する。胎土中には多量の雲母と角閃石を含有する。1408は底部から肩部にわずかに丸味を有し、口縁部は内傾する。外側肩部には1条沈線による波状文を認める。1410は軒半瓦である。1410は中心飾りに下向きの半截花菱文を認め、瓦当面にはキラコの塗布を認める。1411～1416は軒丸瓦である。

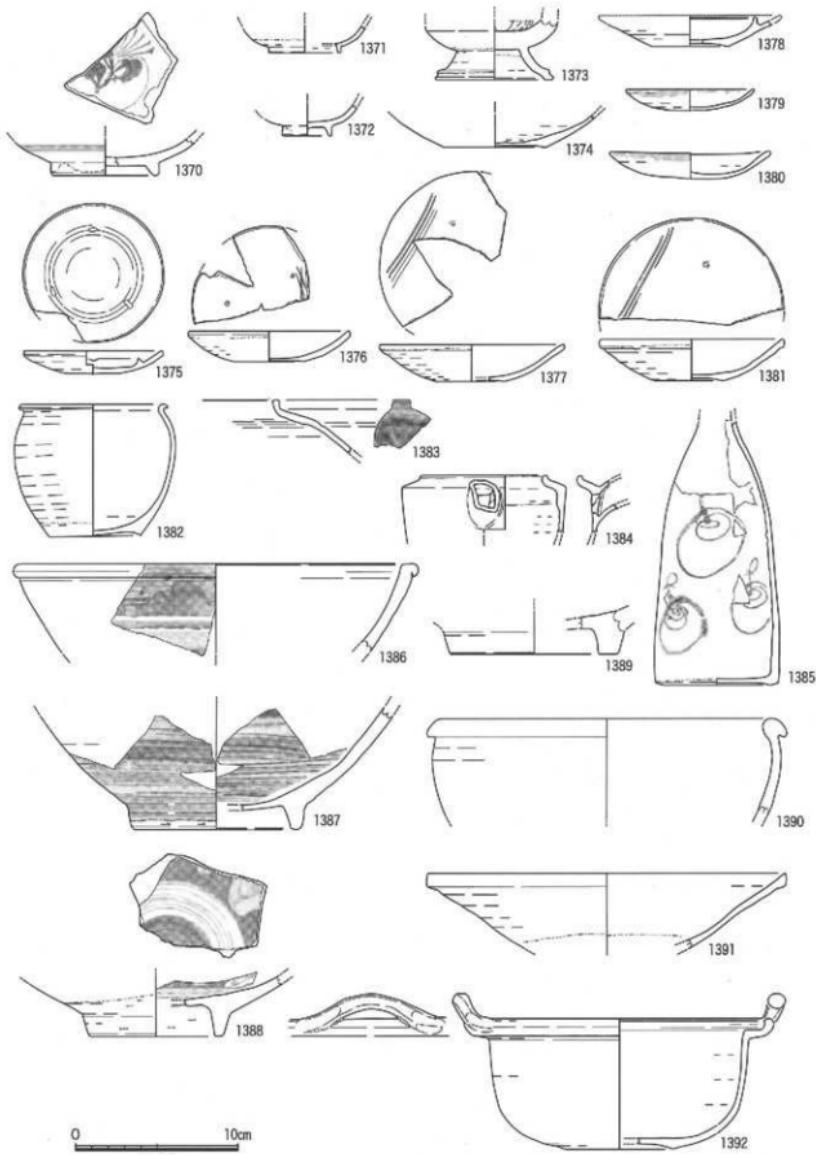
以上、SXg05出土遺物は陶器では、京・信楽系陶器端反碗（1356）、灯明皿（1376～1378・1381）、大谷焼（1365・1382）、施釉陶器（1384・1385）が19世紀前半に位置付けられる。肥前系磁器では端反碗が未確認であり、おおむね18世紀後半～19世紀第1四半期の所産で構成され、さらに瀬戸・美濃系磁器は未確認である。一方、在地産土器焰燈では、内耳を認めるが、穿孔が未貫通である個体が主体を占め、一部には貫通を認めないものも存在する。瓦質の羽釜も型成形によるものではない。こうした点から、19世紀第2四半期～第3四半期前半の年代を付与することができよう。



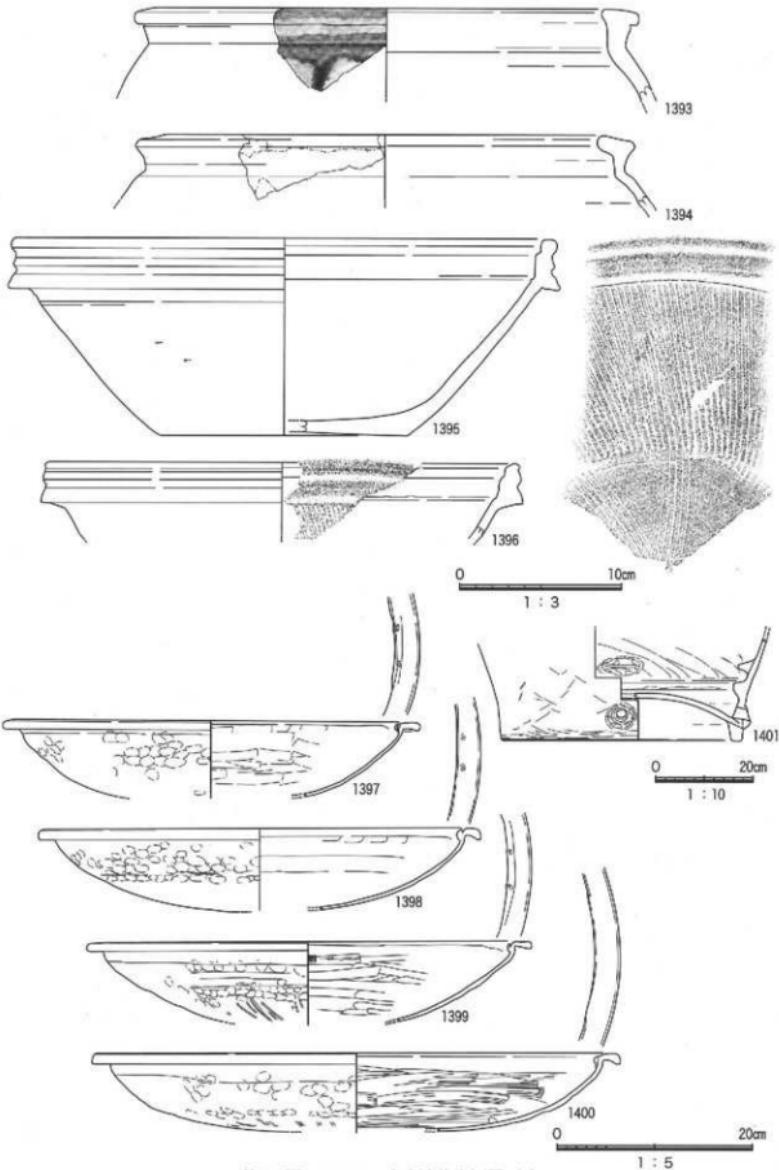
第267図 SXg05 平・断面図



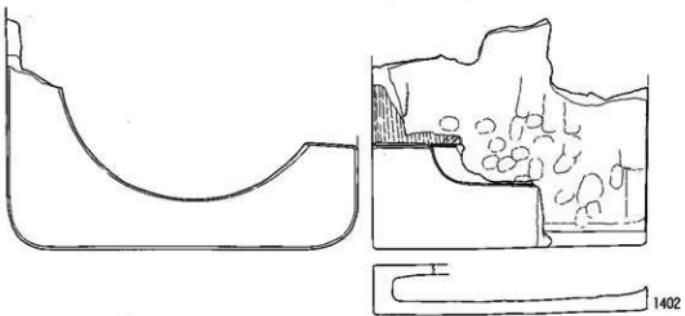
第268図 SXg05 出土遺物実測図(1)



第269図 SXg05 出土遺物実測図 (2)



第270図 SXg05 出土遺物実測図 (3)

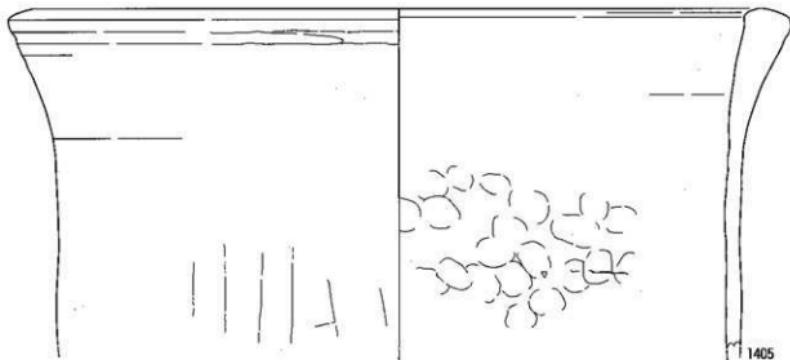


0 10cm
1 : 5

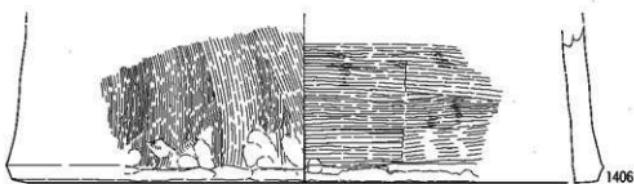


1404

1402



1405



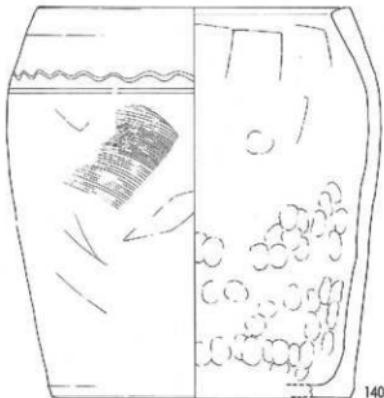
1406

0 10cm
1 : 3

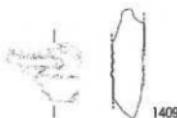
第271図 SXg05 出土遺物実測図 (4)



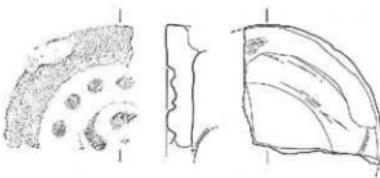
1407



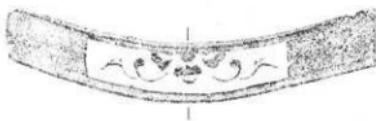
1408



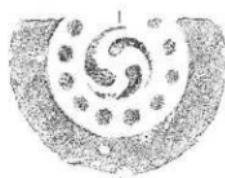
1409



1411



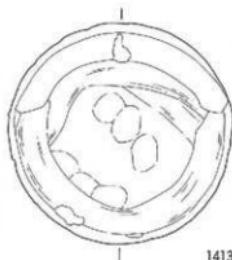
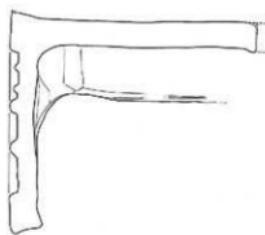
1410



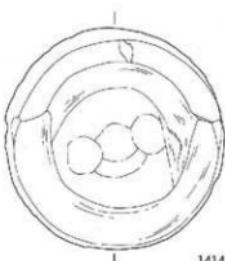
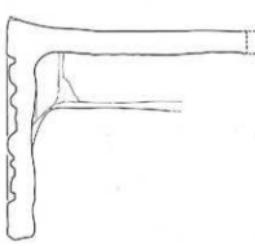
1412

0 10cm
1 : 3

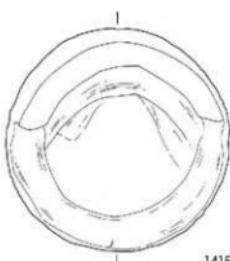
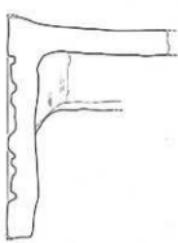
第272図 SXg05 出土遺物実測図 (5)



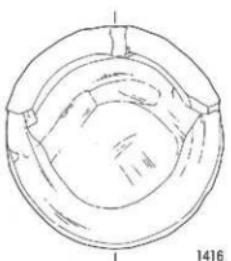
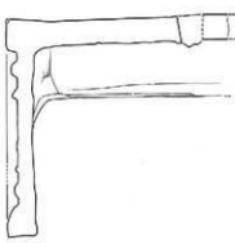
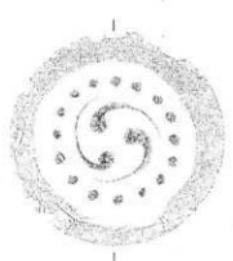
1413



1414



1415



1416

0 10cm
1 : 3

第273図 SXg05 出土遺物実測図 (6)

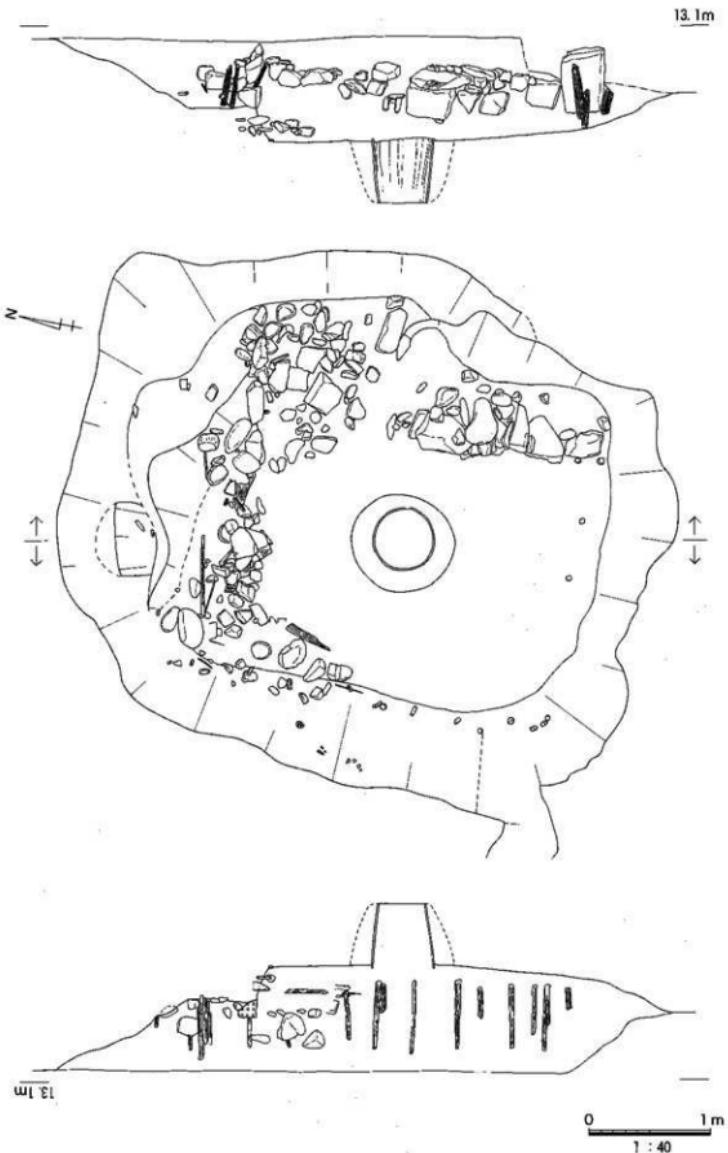
S X g 0 6 (第274~283回)

方形の土坑の中央に木製の井筒を設置している。土坑下場には杭列が見られ、帯状に襷を配している。杭列は一部掘りこみ斜面にも認められ、崩壊を防ぐ設備であった可能性が高い。形状からは出水の可能性が高い。SDg86を切り込んでいる。

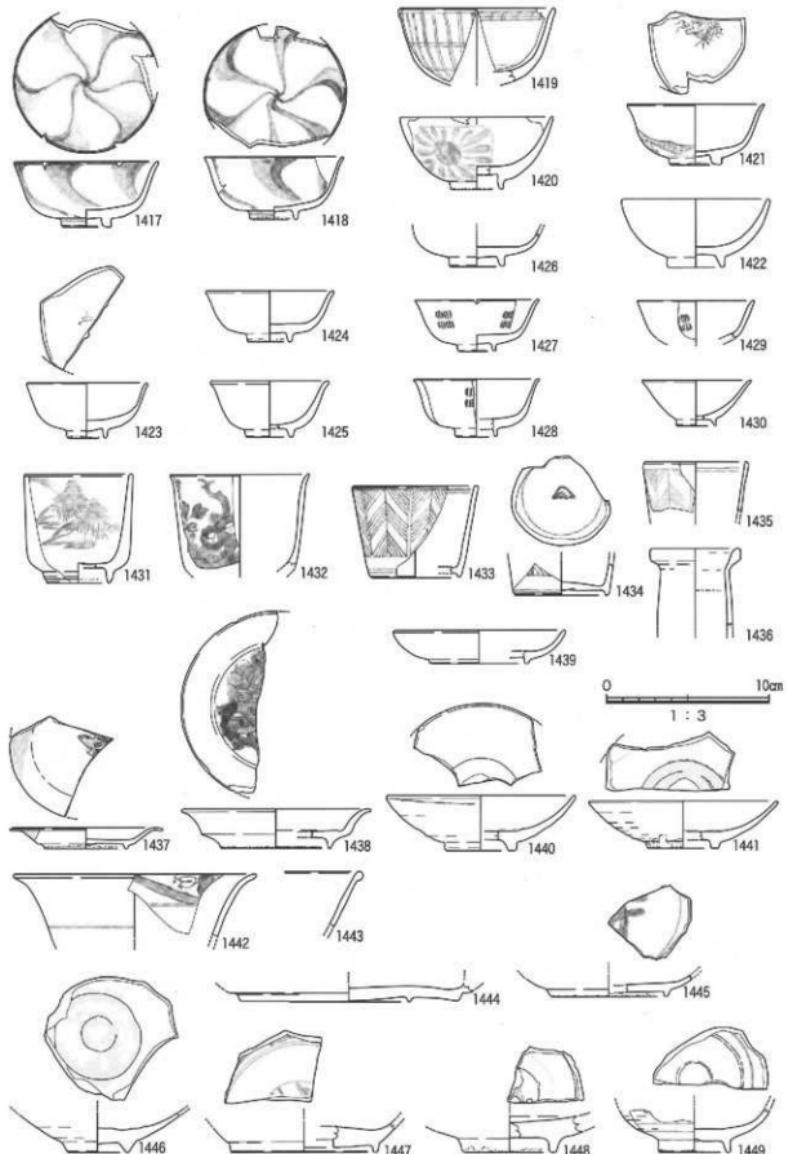
1417・1418・1420~1431・1437・1438・1451・1453・1454は瀬戸・美濃系磁器である。碗・小碗では、端反碗形態が主体を占める。1417・1418は外面には捺り文を認める。1420は外面に赤・緑色絵薬を用いた上絵を認め、花文を描く。1421は見込み及び外面に銅板転写による絵付けを認める。明治・大正期。1422も消失するが、上絵を認める。1423は口銘となる。1424~1426は白磁碗である。1427~1429は口縁部口銘を呈し、外面には抽象的な文様を認める。1430は薄手酒杯である。高台は径が小さく、低い。1431は湯呑碗である。外面には上絵を認める。昭和。1437・1438は皿である。底口縁部境には明瞭な屈曲点を認め、口縁部は大きく外反する。見込みには陰刻S線を認め、薄グミを施す。1451・1453は同一個体と考えられる瓶である。鶴首形態を呈し、外面には赤・青・緑・茶色絵薬による草花文の上絵付けを認める。明治・大正期。1454は水滴である。中央及び隅に円孔を認め、外面には赤・青・緑・黄・茶色絵薬による上絵付けを認める。19世紀。1419・1432~1435・1436・1439・1441~1450・1452・1455は肥前系磁器である。1419は端反碗である。外面には二重線による格子文を認める。1422は碗である。1432~1435・1474は小杯である。1433・1435に外面には欠管文を認める。1434は蛇の目凹形高台となる。波佐見窯産。18世紀代。1436は白磁瓶である。19世紀初頭~暮末。1439~1440・1445~1448は皿である。1441・1446は見込みに蛇の目釉剥ぎ→アルミニナ砂の塗布を認め、高台底も付着する。底部無釉。1447は蛇の目凹形高台となる。1448は見込みに印判による五弁花を押印し、蛇の目釉剥ぎ→アルミニナ砂の塗布を認める。1442・1443は鉢である。口縁部は大きく外反し、1443は端部が肥厚する。1442は19世紀初頭~暮末に位置付けられる地方窯産製品である。1444は段重である。体口縁部境の段にアルミニナ砂の塗布ではなく、最下段であることが窺える。1450は瓶である。外面には「〇町」と描かれた染付を認める。1455は白磁火入れである。底部無釉となる。19世紀代。1440は肥前系陶器銅綱輪皿である。見込みには蛇の目釉剥ぎを認め、底部は無釉となる。内野山窯産。1445は中国産青花皿の可能性が高い。高台内には鉢痕を認める。1456~1463は瀬戸・美濃系磁器人形である。1464のみ錫込成形であるが、他は前後型合せとなる。1456は鶴を持つ稚児である。1457は鷹持ち人である。1458は軍人である。1459はショールを巻いた人である。赤色絵薬の上絵付けを認める。1460は子供を背負う婦人である。黄・緑色絵薬による上絵付けを認める。肥前系磁器の可能性も残る。1461は獅子舞像である。赤・緑色絵薬の上絵付けを認め、口には「金」を使用する。1462は着物人である。1463は駒駆に乗る人である。1464は招き猫である。赤色絵薬の上絵付けを認める。1465は瀬戸・美濃系陶器皿である。太白手。1466は京・信楽系陶器皿である。高台は蛇の目高台となる。1467は瀬戸・美濃系陶器皿である。1468~1470は京・信楽系陶器灯明皿である。見込みには目跡を認める。1471・1472は施釉陶器鉢である。口縁部外表面及び内面には灰釉を施釉する。明治期以降の所産か。1473・1475・1515は軟質施釉陶器小杯である。底部には回転糸切り痕を認め、口縁部及び外面上に柿釉を施す。1476は軟質施釉陶器鉢である。高台風を呈し、口縁部内外面には柿釉を施釉する。1477は瀬戸・美濃系陶器土瓶蓋である。外面上には灰釉を施す。1479~1482は施釉陶器瓶である。1478は施釉陶器蓋である。外面には白泥を塗布し、青・緑色の下絵による草花文を認める。1479・1480には瑠璃釉、1481・1482は緑釉を施釉する。明治期以降の所産である。1483は信楽焼徳利である。白泥塗布後に灰釉を施し、邊い釉調の灰釉により「焼〇」・「〇酒」の文字を描く。1484・1485は土師質土器小皿である。いずれも底部には回転糸切り痕を認める。1486は大谷焼瓶である。体部下半に屈曲点を認め、臺と呼ばれる。1487は軟質施釉陶器鉢である。柿釉。1488・1489は偏前浅鉢である。内面には煤の付着を認める。1490は土師質土器小斎である。1491~1493は堺・明石系摺鉢である。白神福年との対比では、1491がⅡ型式、1492・1493がⅡ型式1段階に相当する。1494は瓦質羽釜である。口縁部外面には型成形による凹線を3条認める。1495は施釉陶器蓋である。かろうじて高台を留め、見込みには胎十日ないし重ね積み痕を認める。1496・1497・1502は肥前系陶器鉢である。内外面には灰釉を施釉する。1498は施釉陶器鉢である。灰釉と綠釉の掛け分けを認め、高台脇には「未廣山」の刻印を押印する。1499は施釉陶器瓶ないし壺である。内外面には

鉄釉を施す。1500は瀬戸・美濃系陶器甕である。内外面には鉄釉を施釉する。1501は施釉陶器瓶である。把手を有し、外面には鉄絵と白泥のイッチン掛けを認める。明治期以降の所産か。1503は焼締陶器鉢である。見込みには複数の砂目を認め、内外面には塗土を施す。備前系陶器か。1504は施釉陶器鉢である。灰釉。1505は信楽焼甕である。口縁部は短く直立し、端部を内外面に拡張する。外面には櫛描沈線を認め、鈎釉を施す。1506・1507は施釉陶器甕である。口縁部形状は1505に共通する。1506は灰釉を施釉し、釉調の濃い灰釉の流し掛けを認める。1507は内外面に鉄釉を施釉する。1508は施釉陶器壺鉢である。口縁部は丸く肥厚し、内外面には鉄釉（鈎釉）を施す。1509は施釉陶器土瓶である。白泥を塗布した後、灰釉を施釉する。1510～1513は京・信楽系陶器灯明皿である。脚部を有する。1514は土師質土器小皿である。底部には回転糸切り痕を認める。1516は瓦質深鉢である。外面には入念なハラミガキ調整を認める。内面には煤が付着し、火鉢としての使用が窺える。1517は土師質土器火消蓋である。胎土中には多量の雲母・角閃石を含有する。1518・1519は土師質土器七厘である。1518は三脚を有し、底面には型成形に起因したパリ痕跡を認める。1519の脚部は波状を呈する。いずれも胎土中には雲母・角閃石を多量に含有する。1520は瓦質土器浅鉢である。口縁部は短く外傾し、口縁部内面に粘土紐を貼付し、断面三角形に肥厚させる。1521は土師質土器風呂釜である。口縁部内面には突帯を巡らす。胎土中には多量の雲母・角閃石を含有する。1522は瓦質土器炬錠である。上面には円孔が多く認め、側面は二重構造になり、「丸に千」の刻印を認める。1523は瓦質土器甕（おくど）である。上面には円孔を認める。胎土中には多量の雲母・角閃石を含有する。1524・1526～1528は軒棟瓦である。瓦当面にはキラコの塗布を認め、丸瓦部は右、平部は左に位置する。1528の平瓦部中心飾りは半裁花菱文である。1525は軒込瓦である。小菊瓦。1529丸瓦である。外面には「林善○」の刻印を認める。1890年頃～1944年（佐藤2000）。1530～1535は軒丸瓦である。1530～1532は珠文を認め、1533～1535は巴文のみで構成される。1535の丸瓦部凹面には打ち叩きを認める。1536は石臼である。上臼。横打込穴を認め、底面には放射状に溝を彫り込む。砂岩製。1537は硯である。上面には墨の付着を認める。1538～1546は砥石である。いずれも各面には線状の擦痕や凹線状の抉れを認める。1543・1544は砂岩製、1546は角砾凝灰岩製である。

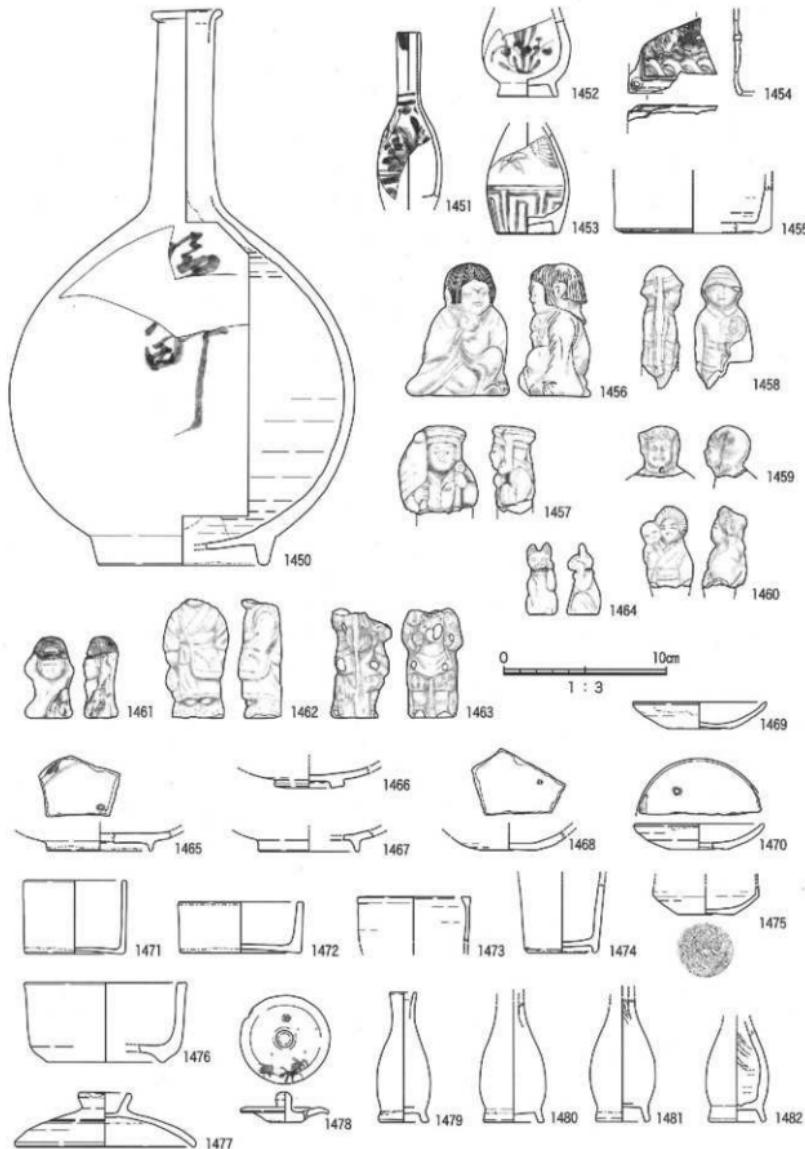
以上、SXg06の出土遺物は、陶磁器では18世紀後半、1820～60年代、明治・大正期（、昭和）の所産が混在した状況が確認できる。なかでも19世紀第2・3四半期に属する陶磁器が主体を占める。貯水池としての性格上長期間の使用が想定でき、廃棄状況も一括性を欠く。推測の域を出ないが、幕末頃に機能を停止するが、明治期以降にも継続的に土器・陶磁器を廃棄したものと理解できる。



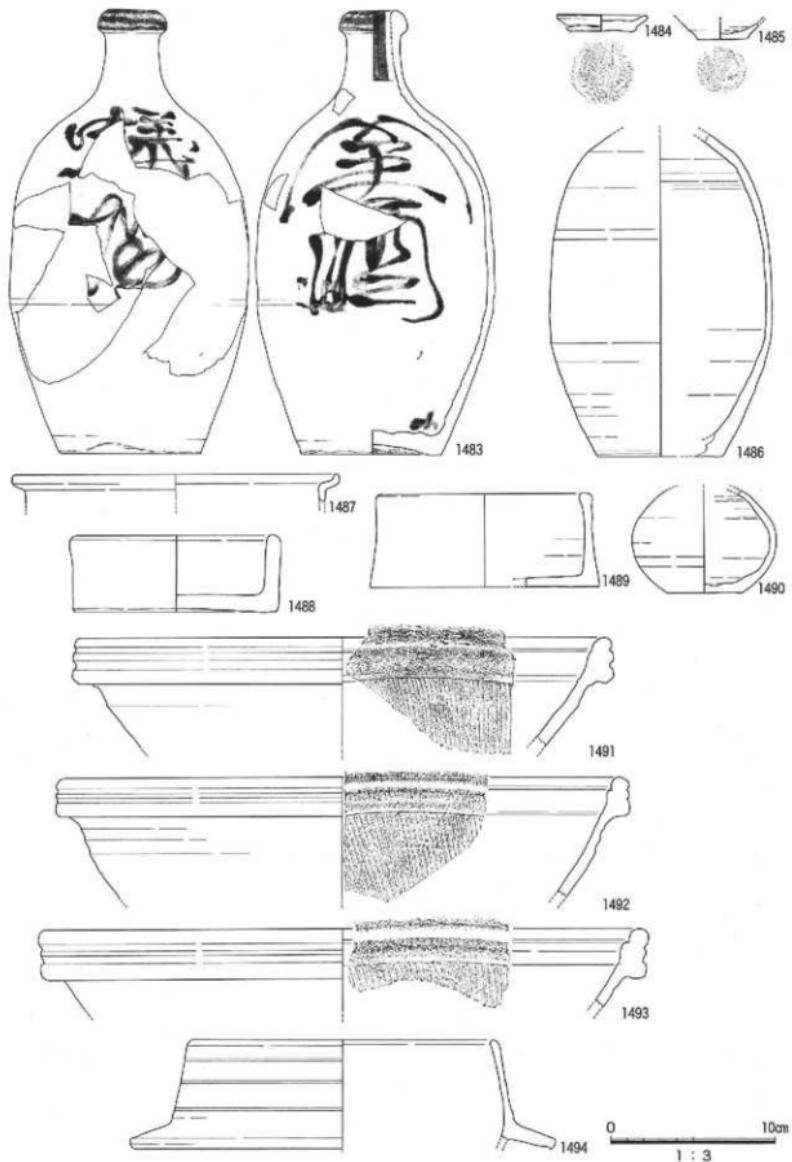
第274図 SXg06 平・断面図



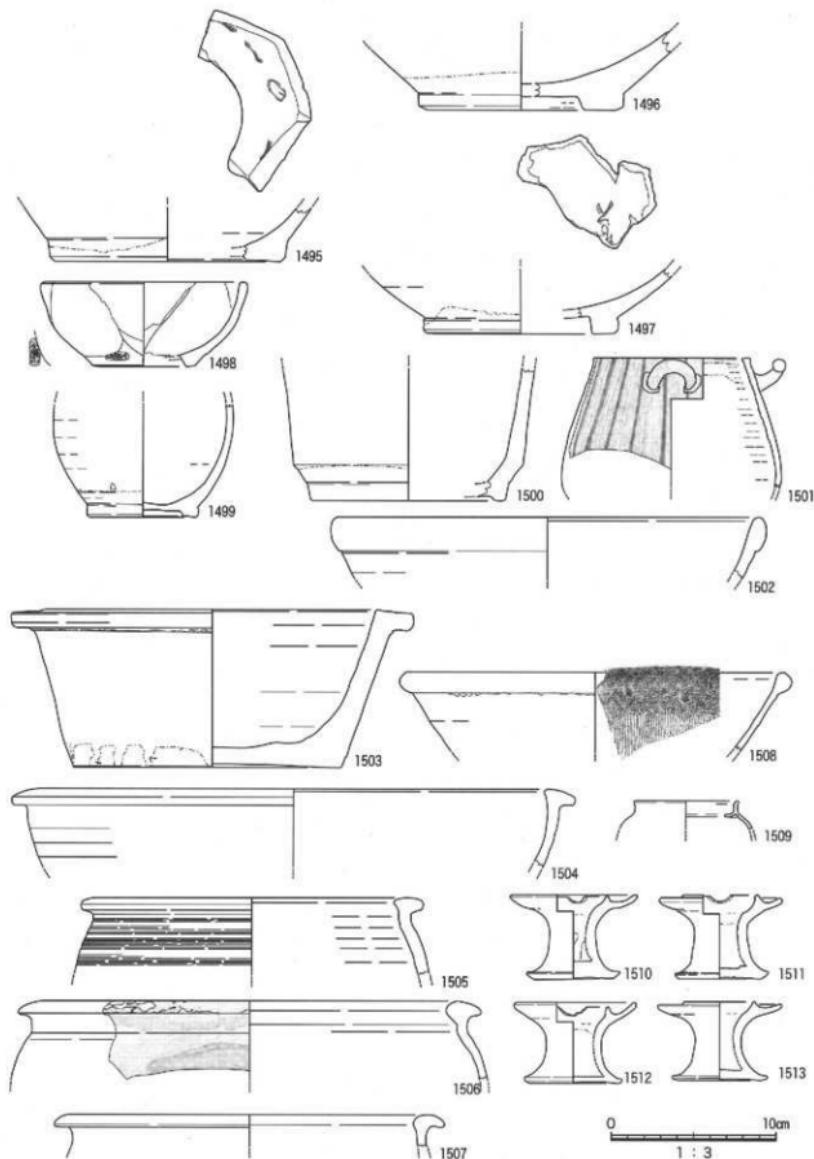
第275図 SXg06 出土遺物実測図(1)



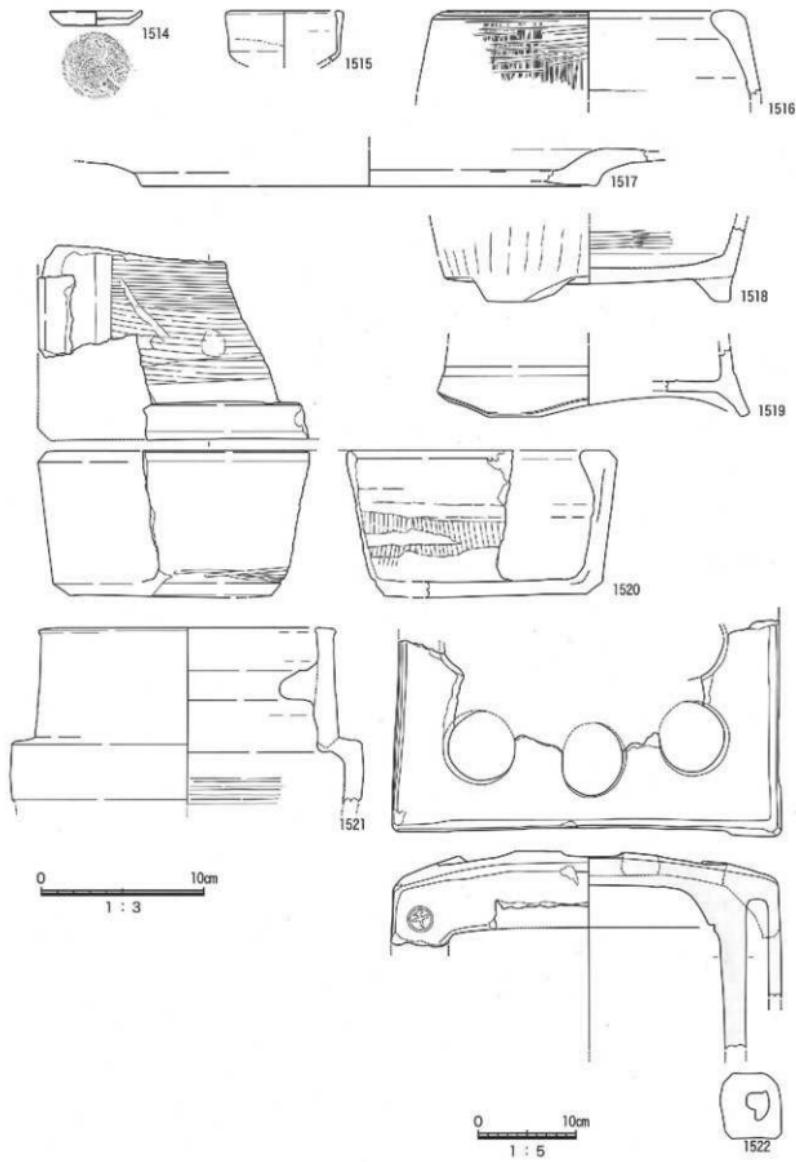
第276図 SXg06 出土遺物実測図(2)



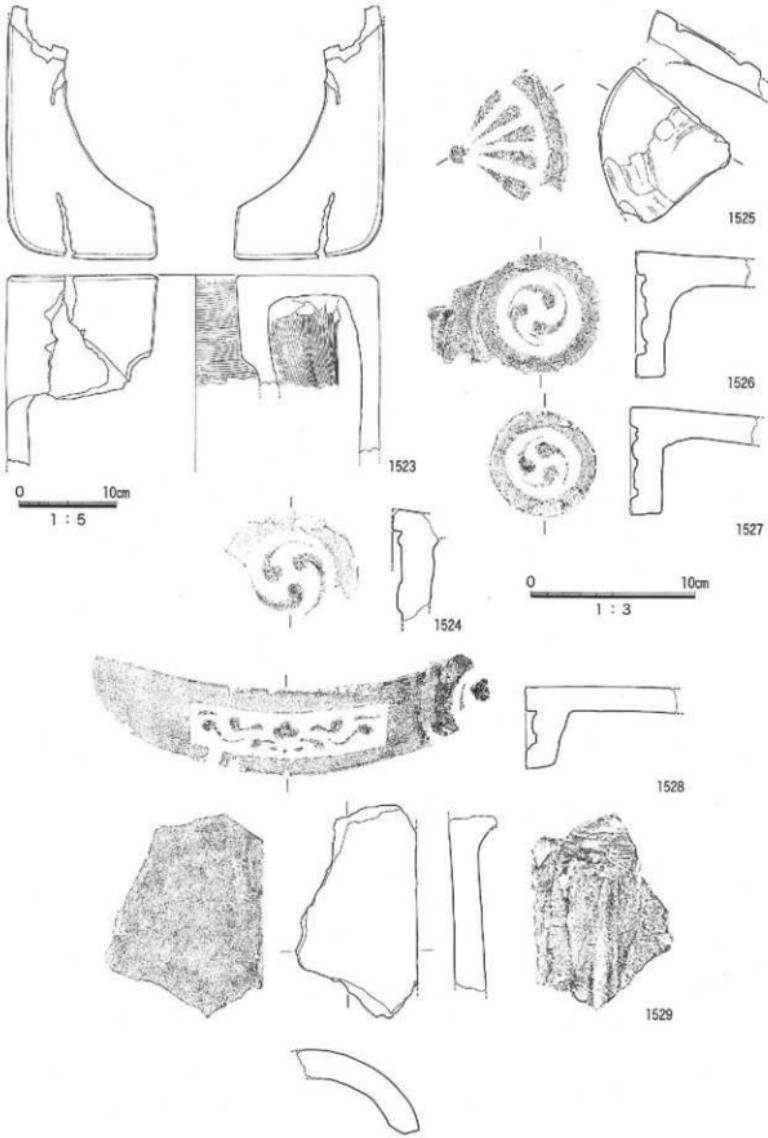
第277図 SXg06 出土遺物実測図 (3)



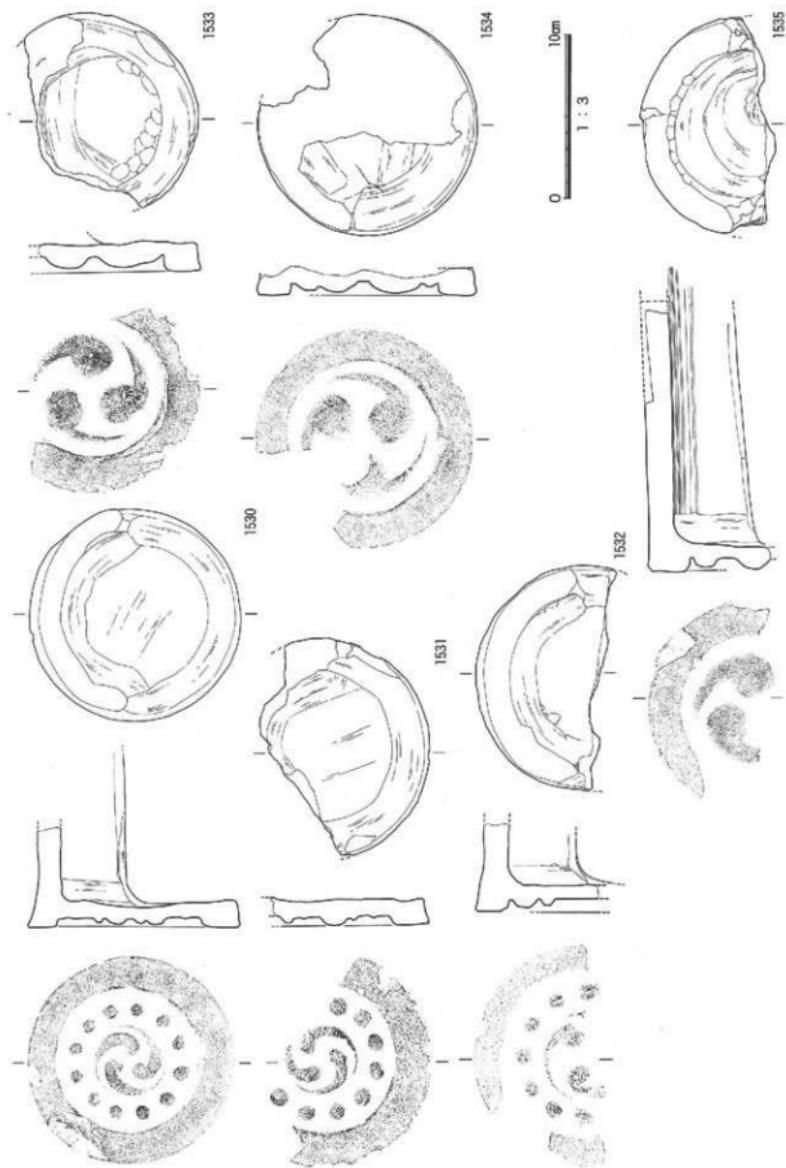
第278図 SXg06 出土遺物実測図 (4)



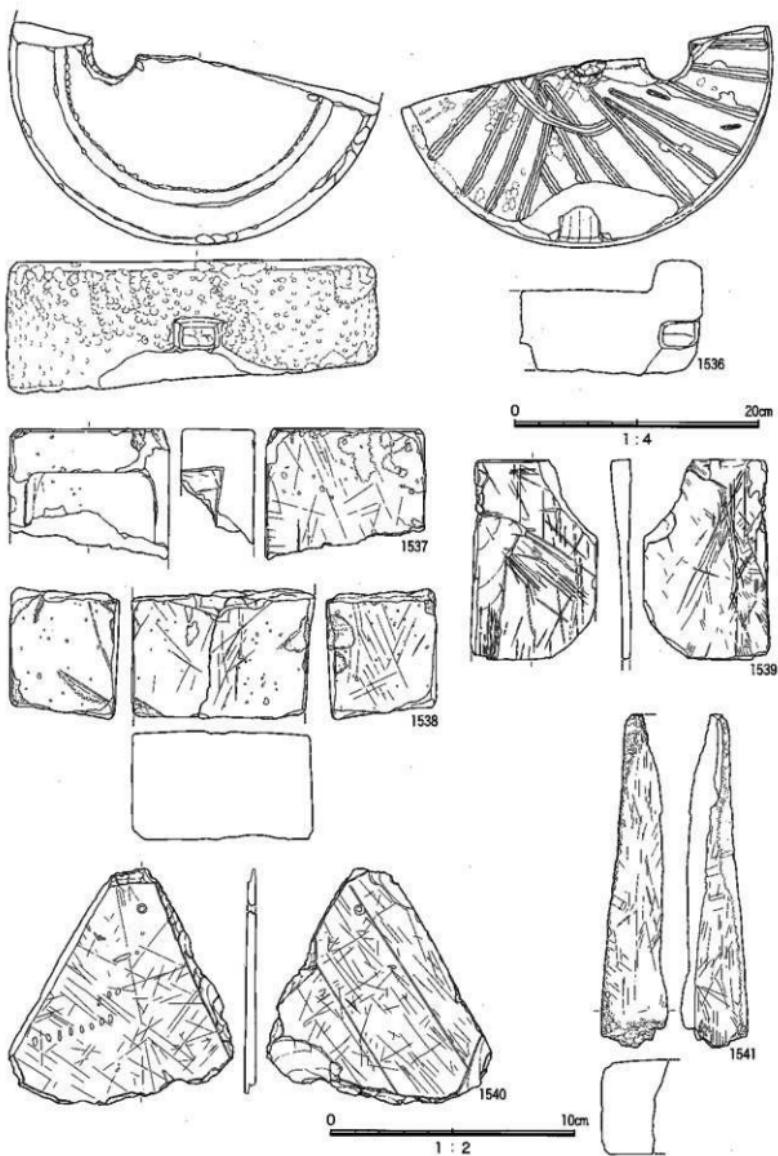
第279図 SXg06 出土遺物実測図 (5)



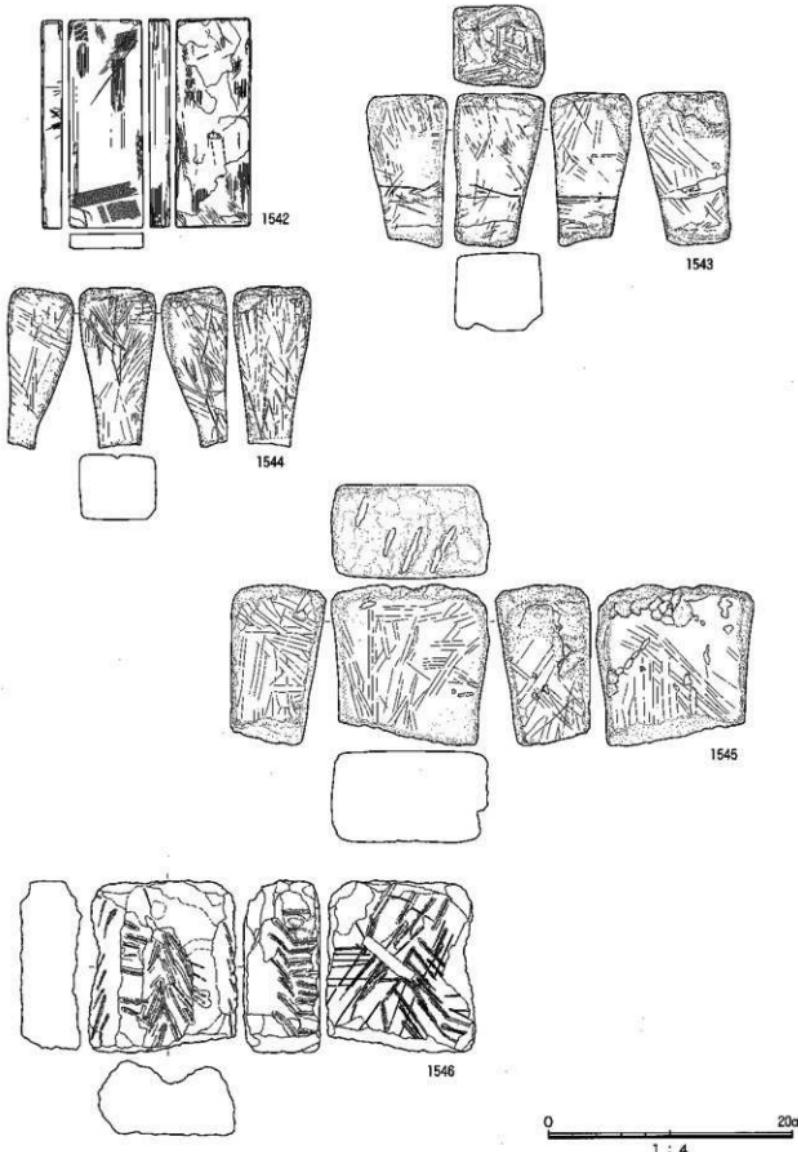
第280図 SXg06 出土遺物実測図 (6)



第281図 SXg06 出土遺物実測図 (7)



第282図 SXg06 出土遺物実測図 (8)



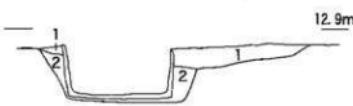
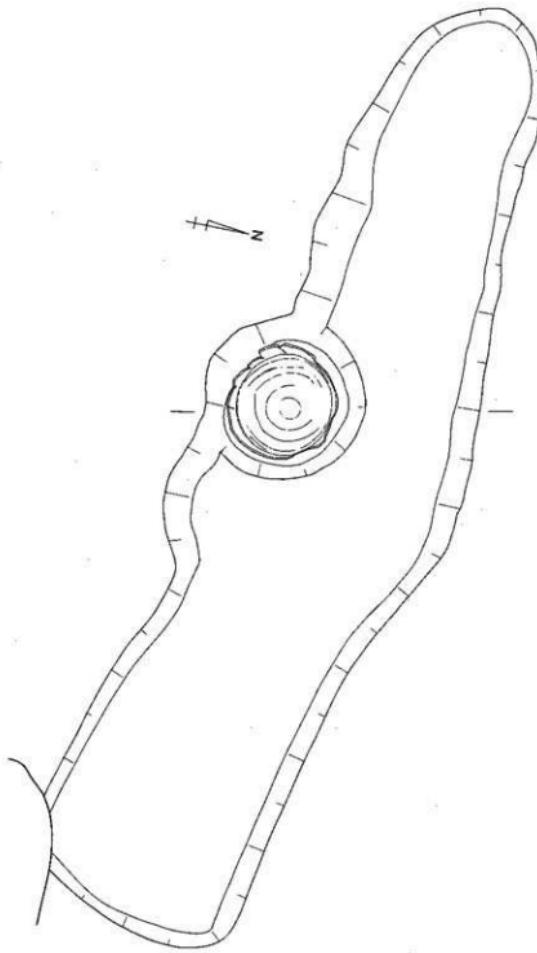
第283図 SXg06 出土遺物実測図 (9)

S X g 1 0 (第284~286図)

SDg47により方形に区画された中央部に存在し、長方形の土坑の中央部に埋め甕が見られる。埋め甕は据え付けられて痕跡が明瞭である。

1547・1548・1550・1552は肥前系磁器である。1547は薄手の半球形碗である。高台径は小さく、低い。18世紀後半。1548は小碗である。口縁部外面には雨降り文を認める。18世紀前半。1550は皿である。見込みには蛇の目釉剥ぎ→アルミナ砂の漬布を認め、重ね積みによる高台痕が付着する。口縁部内面には二重線による斜格子文を認める。高台内には施釉を認める。1552は瓶である。1549は京・信楽系陶器端反碗である。1551は瀬戸・美濃系陶器灰釉丸碗である。1553・1554は陶胎染付碗である。18世紀前半。1555は瀬戸・美濃系陶器壓絞碗である。18世紀後半。1556は肥前系陶器刷毛目碗である。内面には打ち刷毛、外面には波状刷毛目を認める。18世紀前半。1557は肥前系陶器刷毛目鉢である。口縁部は大きく開き、端部はさらに小さく外反する。外面には直線的な刷毛目、内面には波状刷毛目を認める。18世紀第2・3四半期。1558は瀬戸・美濃系陶器鉢であろう。見込みには煤の付着を認める。1559は備前系陶器浅鉢である。1560は備前系陶器灯明皿である。端部には煤の付着を認める。1561・1562は壺・明石系摺鉢である。白神編年II型式。1563・1564は瓦質羽釜である。口縁部は内済し、外耳を有する。1565・1566は土師質土器焼烙である。内耳は確認できないが、口縁部にはわずかに直立傾向を認める。1567は土師質土器甕である。内面には煤の付着を認める。胎土中には多量の雲母・角閃石を含有する。

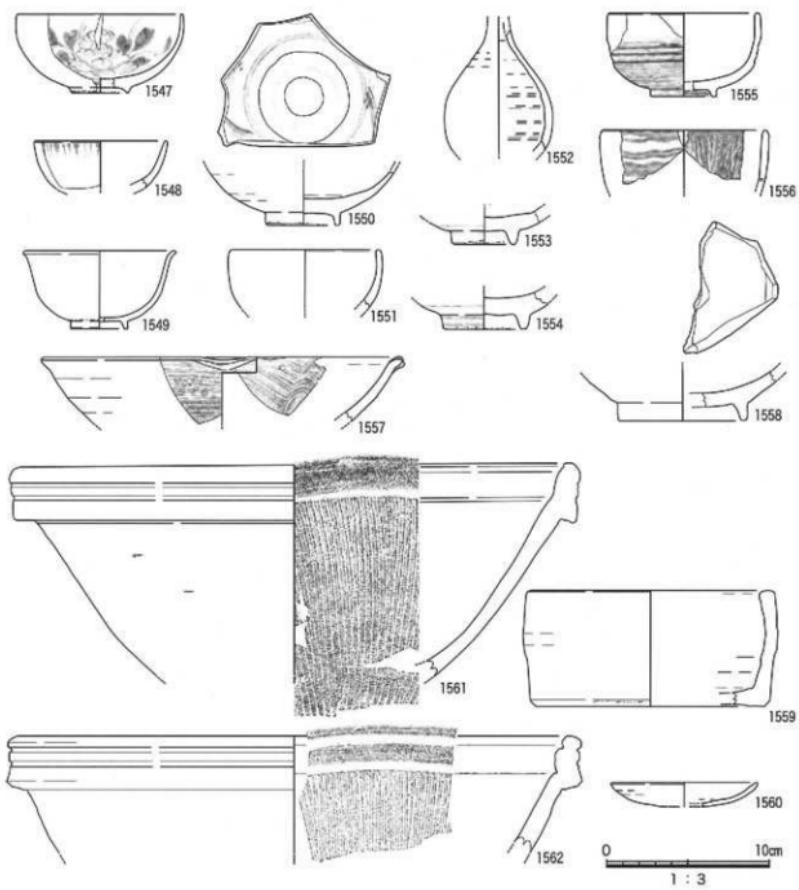
以上、SXg10出土遺物は、最も新しい製作年代を示すものとして、京・信楽系陶器端反碗がある（1549）。19世紀代。これを除くと、18世紀前半代に属する肥前系磁器小碗（1548）、肥前系陶器刷毛目碗（1556）、陶胎染付碗（1553・1554）と18世紀後半に属する肥前系磁器碗（1547）、肥前系陶器鉢（1557）、瀬戸・美濃系陶器碗（1551・1555）、壺・明石系摺鉢（1562・1563）に大別できる。在地產土器では、焼烙において、内耳は確認できないが、口縁部がわずかに直立する傾向を認め、18世紀第4四半期に位置付けられる。よって、京・信楽系陶器端反碗を混入と理解し、18世紀第4四半期の年代観を付与しておきたい。



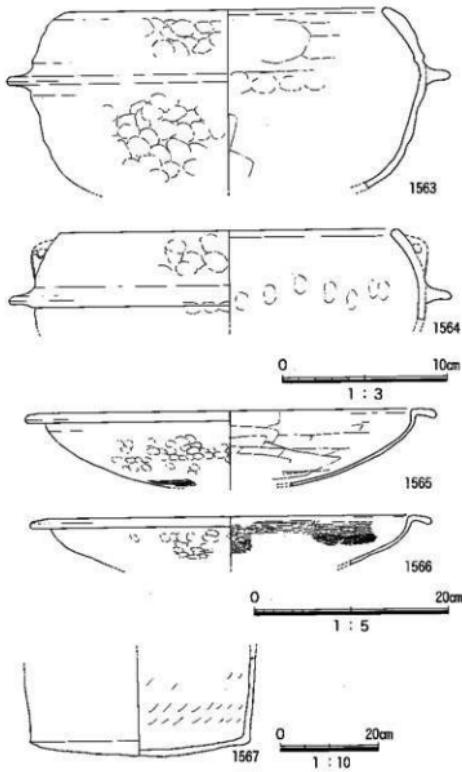
1 濁灰色礫混り土 (0.2~10cmの小石を大量に含む)
2 濁灰色砂混り粘土 (炭・0.2~5cmの小石含む)

0 1 m
1 : 20

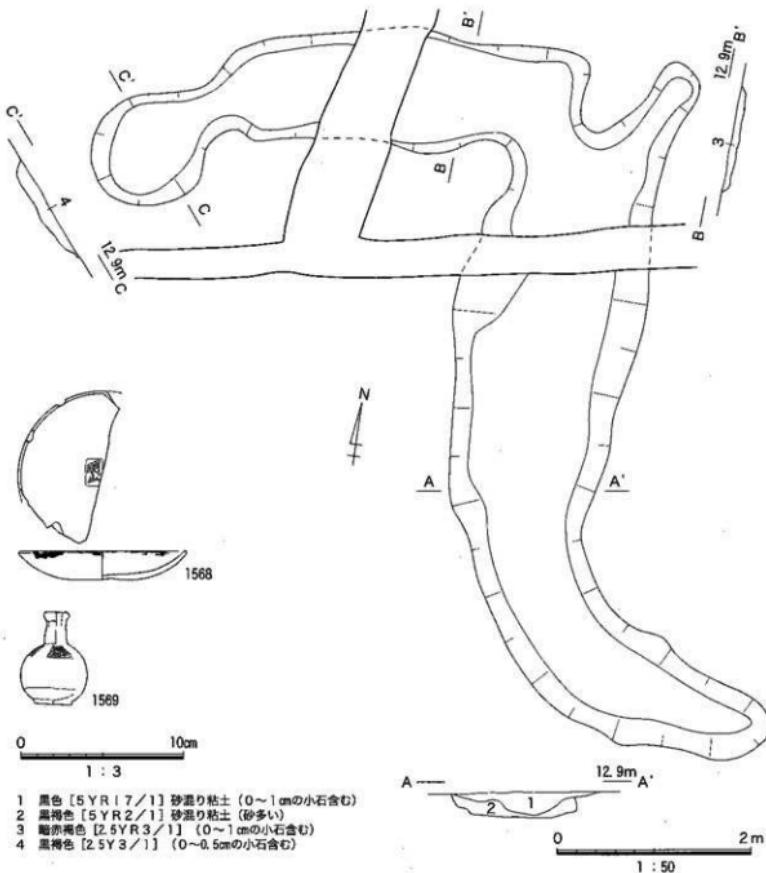
第284図 SXg10 平・断面図



第285図 SXg10 出土遺物実測図 (1)



第286図 SXg10 出土遺物実測図 (2)



第287図 SXg17 平・断面図、出土遺物実測図

S X g 1 7 (第287図)

「7」の字形の土坑で、底部は皿状を呈する。

1568は土師質土器小皿である。底面には回転糸切り痕を認めるが、外面には入念な回転ヘラケズリ調整がなされる。見込みには「明山」の刻印を押印する。端部には煤が付着し、灯明具としての使用が窺える。1569は軟質施釉陶器ミニチュア瓶である。底部外面は無釉となるが、口縁部ないし体部外面には緑釉を施す。肩部には櫛描文を認める。底部にはバリ痕跡を認め、前後型合せによる製作が窺える。

以上、SXg17出土遺物の年代的位置付けは不明であるが、19世紀代の所産と理解しておきたい。

⑥ 柱穴跡

SPg 475 (第288図)

1570は瀬戸・美濃系陶器灰釉丸碗である。18世紀後半頃。

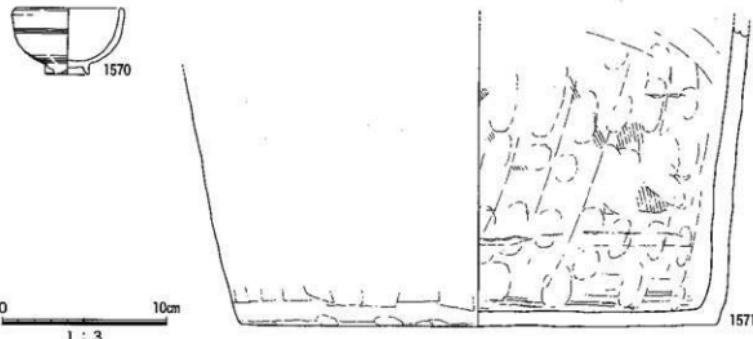
SPg 550 (第288図)

1571は土師質土器壺である。内面には煤の付着を認める。胎土中には多量の雲母、角閃石を含有する。出土遺物が示す年代観は土師質土器壺の位置付けが困難なため不明であるが、幕末前後に位置付けておきたい。

以上、近世遺構について、その概要を述べた。その際、各遺構別にその埋没年代を想定したが、ここでは比較的一括りの高いと考える遺構について、第5表に提示した在地産土器・陶磁器の器種構成に基づき、その年代的位置付けの根拠を提示しておきたい。なお、個々の項目については紙幅の都合上割愛するが、陶磁器は東大分類（堀内1997・2000）、在地産土器は佐藤2001を参考とした。

SKg816は出土遺物点数が稀薄で、提示した遺物も6点に留まる。しかし、1700～50年代に属する肥前系磁器碗、陶胎染付碗を認め、備前系陶器灯明皿も底部の回転ヘラケズリ調整が入念に行われており、高松城跡（西の丸町地区）における成果を参考にすると（松本・佐藤2001、松本2002）、18世紀前半～第3四半期の所産となる。さらに、在地産土器・熔塔は佐藤編年A I - 1型式に該当し、18世紀前半の年代となる。よって、SKg816には18世紀前半の年代を与えた。SKg891も出土点数は少ないが、17世紀後半～18世紀前半に属する肥前系陶器碗や内外面に直線的な刷毛目を施す碗を認め、18世紀前半の埋没を想定した。

SEg04は外面にコンニャク印判による装飾や雨降り文を認める肥前系磁器碗、肥前系陶器刷毛目碗は大橋編年のIV期の指標となる（大橋2000、1690～1740年代）。見込みに蛇の目剥ぎを認める底部無釉皿も17世紀後半～18世紀前半の所産となり、肥前系磁器銅線釉皿も17世紀後半に位置付けられる。在地産土器では、内耳は確認できないが、口縁部が緩やかにカーブし、わずかに直立傾向を認める熔塔は、佐藤編年A I - 1ないし2型式の所産となろう。茶釜形の形態を呈する羽釜では、球形に内湾する体部上半から、比較的明瞭に屈曲する口縁部形態は、高松城跡（西の丸町地区）では様相5に認める形態である（1718～1747年）。続く、様相6ではその屈曲は鈍く、1318の口縁部形態とは異なる。よって、SEg04は18世紀前半の所産と理解でき、さらに熔塔の口縁部形態にわずかではあるが直立傾向を認め、前記したSKg816出土の1240に後出する可能性が高い。ここでは、18世紀第2四半期の所産と理解したい。ここで注意すべきは、土師質土器壺の存在である（1319）。胎土中には多量の雲母粒と一定量の角閃石を含有し、御殿村で生産された土器の可能性が高く、今回報告する近世遺



第288図 SPg475・550 出土遺物実測図

構のなかでは最も古く位置付けられる。なお、京・信楽系陶器端反碗は19世紀代に位置付けられ（1306）、混入遺物と理解した。

SXg870は肥前系陶器刷毛目碗やU字形高台皿は18世紀前半に位置付けられるが、1271-2の見込みに蛇の目釉剥ぎを認め、中央にコンニャク印判を押印する鉢は18世紀後半まで下る可能性が高い。出土遺物点数は少ないが、18世紀第3四半期の所産と理解したい。

SXg10は18世紀前半代に属する薄手の半球形碗（1547）、雨降り文を描く小碗（1548）、肥前系陶器刷毛目碗（1556）を認めるが、見込みを蛇の目釉剥ぎし、口縁部内面に斜格子文を描く皿は18世紀後半（1550）、肥前系陶器刷毛目鉢は18世紀の第2・3四半期に位置付けられる（1557）。さらに、瀬戸・美濃系陶器腰錦碗は藤澤編年第8小期（藤澤1987、18世紀第4四半期）、堺・明石系摺鉢は白神編年II型式の所産となる（18世紀後半）。在地産土器では、内湾形態の羽釜は高松城様相把握では、様相6に多く認め（18世紀第3四半期）、熔塔は内耳を確認できないが、短く直立する口縁部を認め、佐藤編年A I-3型式の所産となる（高松城様相把握様相7併行、18世紀第4四半期～文政4（1821）年）。こうした土器・陶磁器の年代観から、SXg10の埋没を18世紀第4四半期に想定することができる。

SXg888では出土点数は甚薄である。1282は内面に灰釉、外面に鉄釉を施施する信楽壺となり、西の丸町地区では様相7から出現する（18世紀第4四半期～文政4（1821）年）。熔塔は佐藤編年A I-2ないし3型式に該当し、18世紀中葉前後に位置付けられる。高松城様相把握との対応から、18世紀第4四半期～19世紀第1四半期の年代を想定することができる。

SXg785は肥前系磁器では青磁染付碗（18世紀後半）、広東碗（1780～1820年代）、肥前系陶器では刷毛目鉢を認める。瀬戸・美濃系陶器では、藤澤編年第8小期の所産である腰錦碗（18世紀第4四半期）、太白手の広東碗（19世紀前半）、富田吉金窯の可能性のある小杉碗・皿を認める（1079・1084）。陶磁器では、18世紀第4四半期～19世紀第1四半期の製作年代が想定できるものが主体を占める。在地産土器では、矮小化した内耳に貫通しない穿孔を認める熔塔（佐藤編年A I-3ないし4型式）は19世紀第1四半期～第2四半期前半後に位置付けられる。雲母・角閃石を含有する御殿系土器では、体部に庇付きの窓を有する七匣や口縁部が大きく外反する鉢を認める。土器・陶磁器の様相から、19世紀第1四半期～第2四半期に位置付けられよう。

SXg05は一定量の出土遺物を認め、その結果陶磁器の器種構成は豊富となる。肥前系陶器は碗形態では粗製の碗、小広東碗、広東碗、筒形碗を認め、18世紀後半～19世紀第1四半期に属するものが主体を占める。肥前系陶器では、陶胎染付碗、刷毛目鉢を認める。京・信楽系陶器では、小杉碗、丸碗が主体を占め、農村部では出土点数が少ない色絵丸碗も確認できる。さらに、これ以前には認められない端反碗と灯明皿が出現する。瀬戸・美濃系陶器では腰錦碗（藤澤編年第8～9小期）、灰釉丸碗、太白手の広東碗（19世紀前半）、皿、灰釉鉢を認める。備前系陶器では灯明皿、信楽焼では壺を認める。堺・明石系摺鉢は白神編年II型式の所産となる。陶磁器構成において注意すべきは、大谷焼が確認できる点である（1365）。半筒形の形態を呈する碗ないし鉢で、口縁部には2条突線を認める。在地産土器は出土点数が多いことに起因して多様である。熔塔は短く直立する口縁部内面には矮小化が著しい内耳を認め、貫通しない痕跡的な穿孔を認める。佐藤編年A I-4型式が主体を占め、内耳を有するが、穿孔を認めないA I-5型式まで下る可能性のある熔塔も存在する（1400）。一方、型成形の製品は未確認であり（佐藤編年A II型式）、羽釜にも型成形は確認できない。その他、口縁部が短く内湾する火消壺や壺、甕（おくど）を認め、いずれも胎土中に多量の雲母粒と角閃石を含有する。上記した器種構成は、陶磁器では、肥前系磁器端反碗及び瀬戸・美濃系磁器は未確認であるが、京・信楽系陶器端反碗・灯明皿は存在する。さらに、大谷焼を認め、19世紀第2四半期以降であることが窺える。陶磁器の年代観は高松城様相把握の様相8（文政4（1821）年～明治5（1872）年）におおむね対応するが、肥前系磁器端反碗や瀬戸・美濃系磁器は確認できず、城下と農村部の陶磁器搬入状況の差異とすべきか、京・信楽系陶器端反碗が肥前系磁器端反碗や瀬戸・美濃系磁器に先行して搬入される状況を想定するかは現時点では判断できない。ここでは在地産土器熔塔の年代観と京・信楽系陶器端反碗・灯明皿と大谷焼の存在から、おおむね19世紀第2四半期～第3四半期前半の所産と考えておきたい。

SKg783は土器・陶磁器とともに多量の出土を認める。肥前系磁器では、広東碗、丸碗、朝顔形碗に加え、端反碗を認める。その出土量は多く、愛媛県砥部焼と考えられる製品も存在する(969)。皿では見込みを蛇の目釉剥ぎし、口縁部内面に二重格子文を描く皿を認める(984・985、1850~60年代)。京・信楽系陶器では、小杉碗、端反碗、灯明皿、火入れを認める。瀬戸・美濃系陶器では、太白手の広東碗、腰錫碗、灰釉丸碗、灰釉鉢、馬目皿、水壺、磁器では端反碗を認める。後者には関西系磁器の可能性が高い製品も含む(959)。大谷焼では、蓋、火入れ、鉢、大壺を認め、器種構成が豊富となる。1036~1038は屋島焼と考えられる柿釉土瓶である。焼締陶器では、備前系陶器浅鉢・灯明皿、堺・明石系摺鉢を認める。白神編年II・III型式の所産を認め、わずかに後者の比率が高い。陶磁器構成では、大谷焼の存在や肥前系磁器端反碗、瀬戸・美濃系磁器端反碗の存在から、19世紀第2四半期以降、幕末までの年代観を想定することができる(瀬戸・美濃系磁器端反碗965は混入の可能性が高い)。一方、在地産土器では、瓦質浅鉢、火消壺・蓋、焰烙、羽釜、壺、風呂釜を認める。焰烙や羽釜には型成形が確認できる状況にあるなかで、瓦質浅鉢に型成形を認める(1051)。波状文を認め、キラコを塗布したもので、初現的な例であろう。焰烙では、前記したように型成形の製品は認められず、佐藤編年AI~4ないし5型式の所産を認める。こうした在地産土器の様相を考慮すると、おおむね幕末前後の年代を想定することができ、比較的一括性の高い土器・陶磁器群と理解できる。

SKg812は土器・陶磁器構成において、SKg783に共通性を認める。肥前系磁器では、広東碗、印判を認める丸碗、青磁染付丸碗蓋、端反碗、見込みに一枚絵を描く皿等を認める。陶器では直線的な刷毛目を施す鉢がある。京・信楽系陶器では、鑄絵小碗、小杉碗、端反碗、灯明皿を認める。瀬戸・美濃系磁器は確認できないが、陶器では腰錫碗(藤澤編年第8小期、18世紀第4四半期)、灰釉丸碗、太白手の広東碗を認める。堺・明石系摺鉢では口縁部断面形状が三角形を呈し、内面に明瞭な段を認める白神編年II型式の所産を認める。その他として、施釉陶器鉢(灰釉)を認め、イッチン掛けによる装飾を施す。陶磁器構成では、肥前系磁器端反碗、京・信楽系陶器端反碗、瀬戸・美濃系陶器太白手の広東碗、イッチン掛けを認める施釉陶器鉢の存在から、19世紀第2・3四半期の年代観を付与することができる。一方、在地産土器では焰烙、羽釜には型成形を認めず、前者は佐藤編年AI~5型式の所産となる(1192)。火消壺(1188)、壺(1190)のほか、土師質土器五徳、土管を新たに認め、瓦質鍋も存在する(1191)。鍋はボール状の体部から口縁部は「く」字形に扁曲し、外面上には型成形による草花文を認める。焰烙や羽釜への型成形の導入に先行して、瓦質鍋、SKg783の瓦質浅鉢(1051)に型成形が用いられる可能性を示す。SKg812出土遺物は、在地産土器の様相を考慮すると、幕末前後の年代観を想定しておきたい。

SKg795は一定量の土器・陶磁器の出土を認める。肥前系磁器では、底部焼製品を含む端反碗、蛇の目凹形高台(高)の八角鉢(1118)、紅皿、蛇の目凹形高台(低)の皿を主要器種構成とし、紅皿(1115)は1850年代以降の所産となり、1099にはコバルト呉須の使用を認める。瀬戸・美濃系磁器では端反碗、木型打込皿、水壺等を認め、1105・1108・1110にはコバルト呉須が用いられる。陶器では直線的な刷毛目端反碗、灰釉端反碗、蓋水入れ、カンテラ等を認める。京・信楽系陶器は端反碗、灯明皿のみとなる。堺・明石系摺鉢は、白神編年II型式の所産となる。大谷焼では瓶(1149)、仏花瓶(1153)を認める。また、屋島焼の可能性が高い柿釉を施釉した把手付き鉢(1146)、土瓶蓋(1135)や產地不明の施釉陶器を多く認める(1136・1141・1143・1147ほか)。こうした陶磁器構成は、19世紀第2・3四半期に位置付けられる製品に加え、明治・大正期まで下る製品を少量であるが、一定量認める。在地産土器では、火消壺・蓋、瓦質方形浅鉢、土管に加え、型成形の焰烙(1164)、鍋(1165)、羽釜(1160・1162・1163)、壺(1161)、さなが一体化した七匣を認める(1157)。幕末前後に埋没したSKg783・812には、型成形製品を認めるが、鍋・浅鉢に限られ、焰烙や羽釜には認められない。1164は口縁部がやや肥厚しており、佐藤編年AI~2型式の所産となろう。周辺における消費地遺跡の一括遺物を参考にすると、薬王寺遺跡SE04(廣瀬・西村1994)、高松城跡(西の丸町B地区)SXb01・02とはほぼ等しい内容となる(松本・佐藤2001)。前者は井戸資料で、陶磁器からの年代を想定することはできないが(堺・明石系摺鉢には白神編年III型式の所産)、多量の在地産土器を認める。焰烙は紐作り成形と型成形が共存し、佐藤編年AI~5型式とAII型式となる。羽釜も紐作り成形と型成形が共存し、前者は横方向の外耳に2対の穿孔を穿ち、後

者は口縁部に凹線状の多余沈線や草花文を認める。さらに、さなが一体化した七厘を認め、外面には型成形により草花文を表現する。西の丸町B地区SXb01・02は肥前系磁器端反碗、型紙摺りの丸碗を認め、在地産土器焼成にも組作り成形と型成形が混在する状況が窺える。明治26(1893)年銘の木札が共伴する。SKg975は萬上寺SE04の陶磁器構成、在地産土器の様相に酷似し、西の丸町B地区SXb01・02の年代観を考慮すると、おおむね19世紀末前後の年代観を導くことができる。

以上、比較的一括性の高いと考える土坑・不明遺構を抽出し、その年代的な位置付けについて筆者が考える根拠を示した。18世紀前半に属する遺構からの出土遺物は稀薄であり、土器・陶磁器構成について、言及することはできない。しかし、18世紀後半～19世紀末に属する遺構からは一定量の土器・陶磁器が出土しており、その動向を窺うことができる。以下、高松城跡(西の丸町地区)における様相と対比しつつ(松本・佐藤2001、松本2002)、土器・陶磁器の消長について検討し、城下と農村部との比較を行いたい。産地別器種構成では、端反碗の動向が注目できる。肥前系磁器、瀬戸・美濃系磁器、京・信楽系陶器端反碗を認め、京・信楽系陶器端反碗が最も早く出現する(SXg05、19世紀第2～3四半期前半)。肥前系磁器端反碗や瀬戸・美濃系磁器は確認できないが、大谷焼を認め、19世紀第2四半期以降の所産であることは明白である。西の丸町地区では、文政4(1821)年の大火に伴う廃棄土坑には、京・信楽系陶器端反碗は認められず、瀬戸・美濃系磁器も確認できない(様相7)。それに後続する1821～1872年の実年代を想定する様相8では、肥前系磁器端反碗、瀬戸・美濃系磁器(端反碗)、京・信楽系陶器端反碗を認める。西の丸町地区では、これを細分する良好な一括資料は確認できず、これらが共伴する状況となり、それぞれの仔細な搬入状況は不明である。SXg05に一括性を認めるならば、空港跡地遺跡では、肥前系磁器、瀬戸・美濃系磁器端反碗に先行して、京・信楽系陶器端反碗が出現することになる。さらに、灯明皿も確認できる。SXg05出土遺物の年代観を19世紀第2～3四半期前半と想定したが、この段階において肥前系磁器端反碗、瀬戸・美濃系磁器(端反碗)は確認できないことになり、西の丸町地区との搬入状況の差異を示す可能性が残る。この三者が共伴する遺構にはSKg783、SKg812、SKg795があり、幕末前後ないし19世紀末の年代観を示す。遺構の埋没状況にも起因すると考えられるが、当遺跡出土遺物からはこうした器種構成が指摘できる。また、西の丸町地区との器種構成の差異として、京・信楽系陶器色絵碗を挙げておきたい。西の丸町地区では、18世紀第3四半期～文政4(1821)年までの遺構には、多量の京・信楽系陶器色絵碗を認め、その組成は全陶磁器組成の10～20%を数える。空港跡地遺跡VIでは、色絵碗(薄手の半球形碗)の出土は極めて稀薄であり、SXg05・1362を認めるに過ぎない。

一方、製作年代を比較的規定できる肥前系磁器広東碗や肥前系陶器刷毛目鉢が、19世紀代を通じて確認でき、城下に位置する西の丸町地区に比して、長期間に及ぶ使用の結果、廃棄された可能性が容易に想定できる。こうした状況は、陶磁器の器種構成に立脚した年代決定の危険性を示す。これを打破する方法として、耐久性を欠く在地産土器を主眼に据えた年代決定が重要となる。当遺跡では、型成形の導入過程を示す興味深い動向が確認できる。当遺跡における在地産土器への型成形の導入は、SKg783出土の瓦質方形浅鉢(1051)とSKg812から出土した瓦質鍋(1191)から確認でき、19世紀中葉～幕末までの年代観を与えた。兩遺構出土の焙烙・羽釜には型成形は確認できず、19世紀末の埋没を想定したSKg795において出現する。焙烙は佐藤編年A-II-2型式、羽釜では口縁部に数条の突線を認める形態(1160)、列点文を配するものを認める(1163)。さらに、鍋にも焙烙との製作技法に共通する型成形製品を認め(1165)、前段階に確認した体部に草花文を施す形態とは一線を画する(1191)。さらに、1167は龜を型成形で製作したもので、七厘に貼付する形態となる(863・864)。19世紀以降、各生産地端反碗が陶磁器構成の主体を占め、年代的位置付けが困難となるが、こうした在地産土器の動向を踏まえて年代決定をする必要があり、当遺跡ではそれを考える指標となる変遷を確認し、提示したと考える。

<参考・引用文献>

大橋康二2000「九州陶磁概論」「九州陶磁の編年」九州近世陶磁学会10周年記念 九州陶磁学会

小野正敏1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」「貿易陶磁研究No.2」日本貿易陶磁研究会

- 九州近世陶磁学会2000「九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念」
- 木戸雅寿1995「石鍋」「概説 中世の土器・陶磁器」中世土器研究会編 真陽社
- 北山健一郎1999「香川県立博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡」(財)香川県埋蔵文化財調査センターほか
- 日下正剛2000「大谷焼・源内焼」『第2回徳島城下町研究会 四国・淡路の陶磁器-生産と流通I-』
- 日下正剛2002「徳島城下町出土の用途不明箱形土器」「江戸在地系土器研究会通信』No81
- 佐藤竜馬2000「空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 空港跡地遺跡IV」(財)香川県埋蔵文化財調査センターほか
- 佐藤竜馬2001「瀬戸内沿岸地域からみた讃岐の焰」「第3回国四国徳島城下町研究会 四国と周辺の土器-炮烙の生産と流通-」
- 白神典之1992「堺摺鉢考」「東洋陶磁」第19号
- 新宿区内藤町遺跡調査会1992『東京都新宿区 内藤町遺跡』
- 中野雄二2001「智恵院跡」長崎県波佐見町教育委員会
- 乗岡 実1999「近世備前焼の摺鉢」「関西近世考古学研究 VI特集上方と江戸」関西近世考古学研究会
- 乗岡 実2000「備前焼摺鉢の編年について」「第3回中近世備前焼研究会資料」中近世備前焼研究会
- 廣瀬常雄・西村尋文1994「保造山崎御殿線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 正箱遺跡・薬王寺遺跡」(財)香川県埋蔵文化財調査センターほか
- 藤澤良祐1993『瀬戸市史 陶磁史篇』瀬戸市
- 藤澤良祐1987「本業焼の変遷(1)」「瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要 VI」瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤良祐1998「近世瀬戸磁器編年の再検討-磁器端反碗を中心に-」「横崎彰一先生古希記念論文集」
- 堀内秀樹1997「東京大学本郷校内の遺跡における年代的考察」「東京大学校内遺跡調査研究年報 I 1996年度」東京大学埋蔵文化財調査室
- 堀内秀樹2000「江戸遺跡出土陶磁器の段階設定とその画期」「竹石健二先生・澤田大多郎先生還暉記念論文集」
- 松本和彦2002「四国地方-香川県-」「第12回九州近世陶磁学会 国内出土の肥前陶磁 西日本の流通をさぐる」九州近世陶磁学会
- 松本和彦・佐藤竜馬2001「高松城出土土器・陶磁器の変遷 様相の把握」「第3回国四国徳島城下町研究会 四国と周辺の土器-炮烙の生産と流通- 佐藤発表追加資料」
- 森下友子1998「まとめ」「空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 空港跡地遺跡III」香川県教育委員会ほか
- 森下友子2000「富田-吉金窯跡-出土の様相」「第2回徳島城下町研究会 四国・淡路の陶磁器-生産と流通I-」
- 横田賢次郎・森田勉1978「大宰府出土の貿易陶磁」「九州歴史資料館研究論集 4」

第4章 まとめ

本報告で扱ったG地区の調査成果をまとめておく。

本地区で検出された遺構は、大きくは弥生時代後期後半、古代～中世（7世紀、11世紀～13世紀）、近世～近現代の3期に区分される。個別遺構の全てから遺物が出土しているわけではなく、同種の遺構は同時期と考えて時代区分したものもある。なお、掘立柱建物跡の時期については、第3章でも述べたように、出土遺物の有無と後述する「3. 近世～近現代」の松本の記述に従って区分している。以下、この地区の時代変遷を述べてまとめてかえたい。

1. 弥生時代後期後半

この時期の集落は、調査区中央部から東部にかけて存在するSHg01～04と、竪穴住居跡の可能性を考えたSDg71を含めた5棟の竪穴住居跡からなる。若干時期がずれるものもあり、同時期に併存していたかどうかは不明である。また、円形・方形住居が見られ、時期差と認識すべきかもしれない。SDg71を除き、調査区の北側で確認されているものが多いが、この地域の微地形の復元では弥生土坑群の存在する部分が微高地にあたると考えられ、調査区北側・東側に下がることが考えられることから、微高地の縁辺部に散在する集落の可能性が高い。

溝状遺構は錯綜しており、灌漑用水路や生活用水などその目的性は不明である。

調査区西部には、粘土抜き取り穴と考えられる土坑群が検出されている。前章でも触れたが、SDg01を境に北側に大形土坑、南側に小形土坑が集中している。すべて粘土抜き取り穴と断定してよいかどうかは疑問の残るところではあるが、不定形で、規則性がなく、一定地域に集中しており、切り合い関係も多々見られることからすれば、意識された遺構と考えるよりも結果として認識すべきものであろう。全体の分布を見ると、今回検出された範囲外は徐々に分布が希薄となること、周囲に向かって微地形が下がる傾向にあることから、ほぼこの範囲に集中すると考えて問題ない。今回検出した竪穴住居跡群を居住区、この土坑群を生産域と考えるには周辺の同時期の遺構群の分布を考え合わせなければならない問題なので即断できない。ただし、SDg01・14を考慮すれば、なんら関係のない遺構分布とも言いがたく、空港跡地遺跡全体と周辺部の遺跡動向を踏まえて将来検討する必要がある。

2. 古代～中世

今回検出した掘立柱建物跡30棟中、21棟を中世に位置づけている。この地区的条里型地割は、SDg09の存在はあるものの、11世紀以降の段階で整備されたことが伺われる。また、重複する位置で近世段階の溝状遺構が検出されていることから、中～近世の掘立柱建物跡が方向を主眼とした場合に混在する状況にあることから、柱穴から近世遺物が出土しているSBg15・17は当然のこととして、先にも触れたように、松本の指摘に従いSBg02・03・11・12・13・14・16を含めた9棟を近世に分類し、他の掘立柱建物跡を古代～中世に分類している。この内、SBg05・21・22・23・26の5棟の柱穴からは中世遺物のみが出土していることから、出土遺物の無い他の16棟については他の時期に分類される可能性も残されている。

古代～中世の掘立柱建物跡の分布は、SDg04以西の弥生土坑群と重複する位置に、SBg01・04・05の3棟と土坑が6基確認されており、これを西グループと仮称しておく。次にSDg09の西側に隣接する位置にSBg06、SDg09とSDg28に挟まれた位置にSBg07～10の5棟、ただし08～10の3棟は重複しており建て替えの可能性が高いことから、同時期併存は最大で3棟。これを中央西グループと仮称する。次にSDg28と平行して延びるSDg30の東側にSBg24～30の7棟、ただしこれも建て替え等の重複があるため同時併存は最大で5棟である。両者を合わせて中央東グループと仮称する。調査区東端で検出されたSBg18～23の6棟を東グループと仮称する。

この時期の遺構は、4つの小期に区分することができる。

第1小期は、7世紀後半頃に比定されるSDg09である。条里型地割と同一方向を持ちながら、明らかに位置的に異なる単独の溝で、この地域の開発に大きな意味を持つものと考えられる。南に隣接するH地区でも延長

が確認されていることから、この溝の評価はこの地区的整理にゆだねたい。

第2小期は、11世紀末～12世紀初頭に位置づけられるSBg01・04・05の西グループ及びSBg06～10の中央西グループに分類した掘立柱建物跡や、SDg04・28・30など条里型地割を構成する溝状造構群、土坑である。掘立柱建物跡は、屋敷地を想定するには散漫な検出状態にあるが、SBg06を除いていずれも条里型地割に規制された方向性を持つ。

第3小期は、12世紀～13世紀に位置づけられる中央東グループに分類した掘立柱建物跡や周辺の溝状造構がこれに該当する。SDg41・43が北辺を画している。近世のSDg86が横断しているが、周辺に柱穴群が見られず、集落としては現在確認している7棟よりも南側に展開するものと考えられる。

第4小期は、13世紀代に位置づけられる東グループの掘立柱建物群を中心とした造構群である。このグループ内にはSEg07も見られ、屋敷地と考えた場合のまとまりを持つが、西側を画する溝状造構などの施設が確認されておらず、この時期の屋敷のあり方など今後検討を要する問題がある。

以上、古代～中世段階の造構配置について概述したが、条里型地割の施工時期と集落の形成時期、後述する近世以降の居住区との住み分けなど今後検討すべき課題が数多くあることが判明した。また、出土遺物の多くが埋没段階での魔棄と考えられることから、第2～4小期の造構群が同時期に併存する可能性を排除するものではなく、上記のような区分で明確に変遷するかどうかは不明である。

3. 近世～近現代

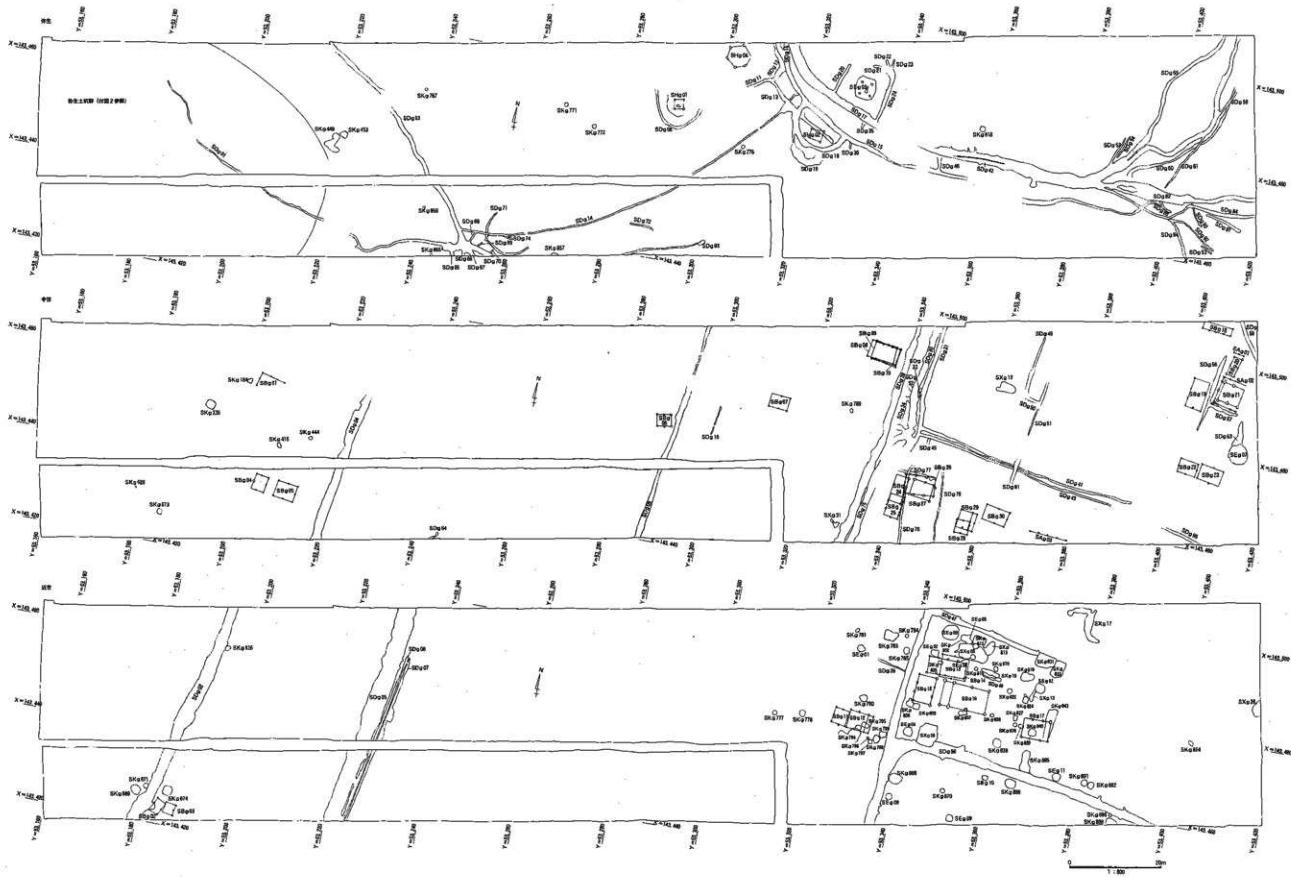
第290図に近世～近現代に属する造構の配置図を示した。各造構に関しては、第4章においてそれぞれ出土遺物が示す年代観を提示し、最終埋没時期を詳述した。①18世紀前半、②18世紀後半～19世紀第1四半期、③19世紀第2・3四半期、④幕末前後、⑤19世紀末前後の5段階の設定が可能となる。しかし、陶磁器の耐久性に起因した長期使用後の魔棄といった魔棄パターンもあり、稀薄な出土遺物に立脚した時期設定には問題を残す。そこで、既に報告書が刊行された南東に隣接する調査区の状況との整合性を持たすため、①18世紀前半、②18世紀後半～幕末、③明治時代～大正時代という時期区分に基づき（森下1998）、第290図に造構変遷図を提示した。なお、造構配置図には当該期以外の造構を薄く表現した。

以下、これに基づき近世～近現代の状況を概観する。

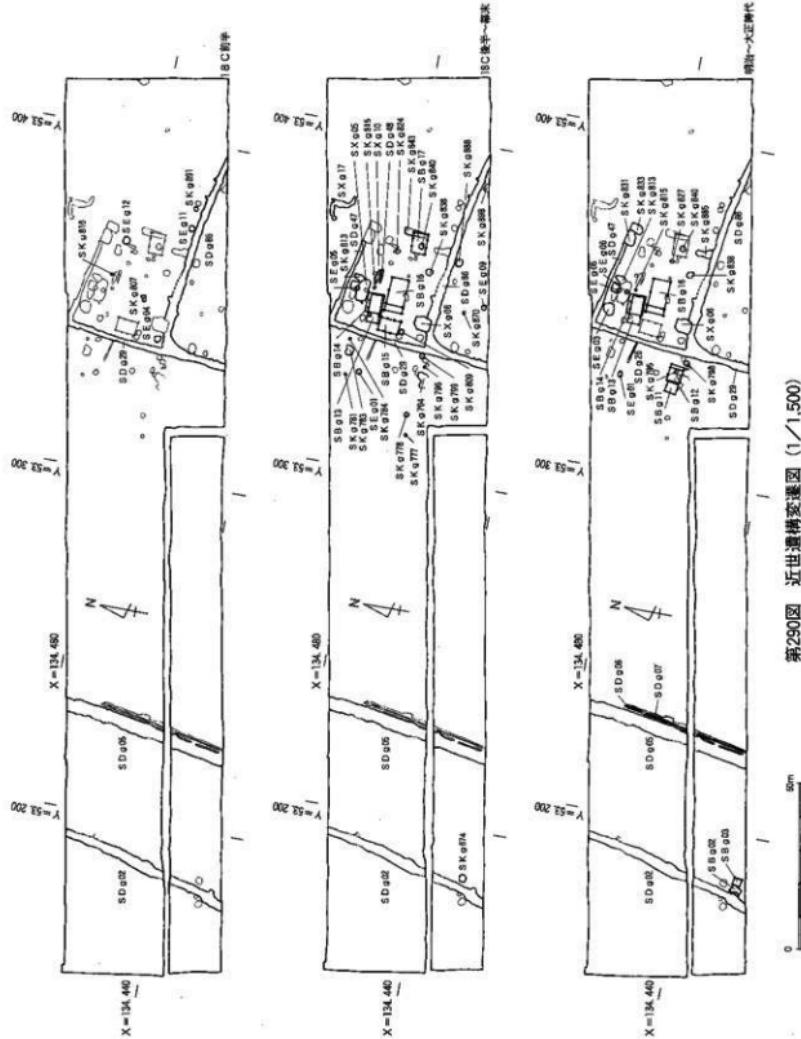
各時期の状況について言及する前に、条理型地割の坪境線に合致するSDg05・29・86と1町四方の方格地割を3分割した位置に南北に延びるSDg02の所属時期について述べておく必要がある。いずれも明治・大正時代の所産となる土器・陶磁器を含み、昭和19年の陸軍飛行場造成により埋没した溝である。しかし、再掘削や清さらえの痕跡を示す埋土を認め、明治・大正時代以前に製作された土器・陶磁器も多量に出土しており、その開削時期が問題となる。

SDg05は18世紀末～幕末ないし明治・大正時代に属する土器・陶磁器が主体を占めるが、18世紀前半まで遡る陶磁器を認める。SDg29もほぼSDg05と同様の器種構成を示す。両溝は109m間隔を測る条理型地割に合致した南北主軸の溝である。両者は出土遺物からは18世紀段階にしか通り得ない。東西主軸の条理型地割に合致したSDg86もほぼ同様の内容を示す。しかし、SDg05は11世紀末～12世紀初頭に埋没したSDg04に重複し、それに後出する。同様にSDg29も11世紀前半後には開削されたSDg28・30・31に重複する位置関係となる。つまり、SDg05・29といった条理型地割に合致する溝の開削時期は当遺跡の検出状況からは11世紀まで遡り、基幹水路として明治・大正時代まで機能し、最終的に昭和19年に埋没したと考えられる。SDg05は南接する調査区でも確認され（空港跡地遺跡Ⅳ、佐藤2000）、13世紀代のSDf16東辺部がほぼ同位置で、近世～近現代に属するSDf109によって踏襲されている。

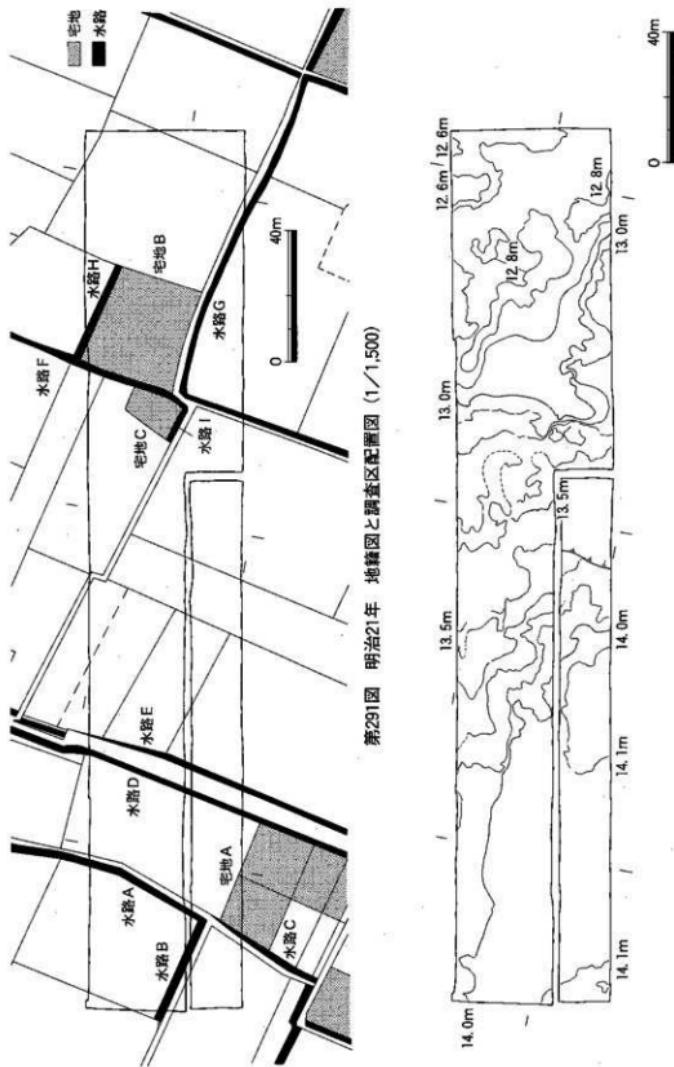
また、南接する空港跡地遺跡ⅢではSDi41が当調査区SDg05の2町東に位置する坪界溝となり、その出土遺物の大多数は18世紀～19世紀代に属し、最終埋没は昭和19年となる。それに先行する中世段階の埋土は確認できないが、出土遺物には17世紀前半に属する肥前系陶器砂目皿も確認でき、17世紀代には開削されていた可能性が極めて高い。さらに、混入の可能性も否めないが、中国産白磁片も認め、12世紀後半～13世紀前半代まで遡る可能性が指摘されている（森下1998）。



第289図 遺構変遷図



第290回 近世遺構変遷図(1/1,500)



第291図 明治21年 地籍図と調査区配置図 (1/1500)

第292図 進跡検出面 地形図 (1/1500、10cmコンター)

一方、1町四方を南北に3分割した箇所で検出したSDg02は18世紀末～19世紀前半の土器・陶磁器が主体を占めるが、16世紀末～17世紀初頭に位置付けられる中国産青花皿（517・518）、17世紀前半の肥前系陶器砂目皿（521）を認め、開削時期は17世紀初頭ないし前半まで遡る可能性が高い。当遺跡においても、南接する空港跡地遺跡Ⅳにおいても当該箇所における先行する溝が確認できない点もこれを補強する。よって、その開削は近世初頭と判断できる。

こうした状況を考慮すると、条理型地割の坪界線に合致したSDg05・29・86は11世紀以降、継続的に機能した基幹水路であり、近世～近現代を経て、最終的に陸軍飛行場造成により昭和19年に埋没するものと考える。また、一坪を3分割した箇所に位置するSDg02は近世以降に開削された溝であり、その開削時期を17世紀前半に求めておきたい。よって、ここで提示した3時期の遺構変遷図のすべてにこれらの溝を配置した。

① 18世紀前半

当該期に帰属する遺構は極めて稀薄であり、SDg86の北側、SDg29の東側における数基の土坑と井戸の確認に留まる。井戸は石組の下位に曲物を埋置したと考えるが井戸枠は確認できず、SEg12最下層埋土において、拳大からその2倍程度の石材の集中層を認めるが、石組石材か否かの判断はできない。土坑では3基提示したが、その遺物出土量は極めて低いといった特徴が指摘でき、掘立柱建物等の居住施設が確認できない点に呼応する。SDg86の南側には当該期に属する遺構は確認できない。南接する空港跡地遺跡Ⅲでは17世紀後半～18世紀前半に属する掘立柱建物群を数群認める（森下1998）。しかし、当調査区に隣接する掘立柱建物群（SBi14～19）は埋土の特徴と同示し得ないほどの細片からの時期比定であり、中世段階まで遡る可能性も考慮する必要がある。提示された17世紀から18世紀前半に属する建物群の多寡に対応する数量の廃棄土坑・井戸といった施設が確認できず、当該期に属する土器・陶磁器の稀薄な出土量といった問題を残し、その年代的位置付けの再検討も必要である。一方、当調査区SBg24～30が近世段階まで下る可能性も想定しておかなければならぬ。当調査区では周辺遺構配置と後述する明治21年の地籍図との対応関係から、中世前半期への位置付けを行ったが、必ずしも出土遺物による比定ではないことを付け加えておく。

② 18世紀後半～幕末

当該期には前段階に分布が集中したSDg86の北側、SDg29の東側に継続して遺構を認め、SDg29の西側、SDg86の南側及び調査区西部のSDg02の東にも遺構は展開する。こうした遺構の拡がりに比例して検出遺構数や出土遺物量も大幅に増加する。

掘立柱建物ではSBg15・17を出土遺物の年代観により、出土遺物が確認できないSBg13・14・16に関してはSBg15・17間の空隙地の存在とその周間に展開する当該期に属する遺構の分布から、当該期ないし明治～大正時代へ位置付けた。なお、隣接する調査地点を整理した森下氏によると、18世紀後半を境として掘立柱建物から掘り込みを持たない石場建て建物へ移行する可能性が指摘されており（森下1998）、SBg15・17の空隙地には石場建て建物が存在していた可能性も考慮しておく必要があろう。SBg13～17は、条理型地割に合致するSDg29とSDg86のそれぞれ東ないし北に位置し、その北限はSDg47であったと理解できる。屋敷地東端については、明瞭な区画施設は確認できないが、当該期の遺構分布や周辺地割に合致した方位に細長く延びるSKg843の存在から、おむねSKg843の東側付近であったと考えられる。よって、屋敷地の規模は南北長30m、東西町35m前後に復元できる。便宜上、復元した屋敷地を屋敷地Aと仮称しておく。次に、屋敷地Aにおける空間構成について言及すべきであるが、掘立柱建物の主軸方位に微細なずれを認めるように、設定時期幅が長いため、第290図から仔細な遺跡の変遷を読み取ることは困難である。居住施設の年代的位置付けも流動的な状況であり、屋敷地内の空間構成に踏み込むことは避けるが、出土遺物による限り18世紀後半に属する遺構は少なく、19世紀代に急激な増加傾向を認める。ここで提示した18世紀後半～幕末までの遺構の大多数が19世紀第2・3四半期に位置付けることを指摘するに留める。また、注目すべきはSXg06である。東西方向の条理型地割に合致するSDg86に接する大型土坑で、南北長約5m、東西長約4mを測る。SDg86に接する箇所を除き、掘方下場形状に沿って内側に面を描いた石材を「コ」字形に配し、一部にはそれを補強する杭列も認める。中央には木組による井戸枠を認め、出水状施設であった可能性が高い。SDg86との接点に取水口は認められないが、屋敷地にお

ける洗い場であるのと同時に、SDg86への導水を行う施設と評価できる。明治・大正時代に属する土器・陶磁器も一定量認め、その継続性が窺える。18世紀前半ないしそれ以前に製作された陶磁器もごく少量認めるが、積極的に評価することは困難である。

当該期の遺構はSDg29の西側ないしSDg86の南側にも展開する。SDg86の南側で検出した遺構は土坑2基と井戸1基に留まり、その出土遺物も極めて稀薄である。さらに南接する空港跡地遺跡IIIでは当該期の遺構は確認できず、積極的に屋敷地であったと評価するには困難な状況であり、耕作域としての性格を付与することができよう。同様に、屋敷地Aの北ないし東側も耕作域であったと考えられる。一方、SDg29西側で検出した遺構は、SKg777-778を除くとSDg29から西へ15mの箇所を西限とし、南限はSDg86を西へ延伸した範囲に収まる。居住施設が未確認であり、屋敷地としての位置付けには問題を残すが、食器類（調理具）・灯明具・暖具・風呂釜・瓦といったあらゆる生活残渣が投棄されたSKg783出土遺物の器種構成が示すように、屋敷地ないしそれに類する空間であり、その西は耕作域であったと理解できる。また、ここで留意すべきはSDg86を西へ延伸した箇所に溝が認められない点である。前段階の古代・中世にも溝は確認できず、元來存在しない状況が窺える。前述したように、SDg86は条理型地割に合致する東西主軸の溝であり、基幹水路となる。空港跡地遺跡における条理型地割に合致した溝の施行状況を見ると、南北坪境には例外なく溝を認めるが、東西坪境には確認できない箇所も認める。その開削時期は条理型地割が施行された古代に遡るものではなく、当遺跡においてもその上限は11世紀前半に求められる（SDg04・28・30）。当該箇所においてそれを通る遺物や先行する埋土は確認できず、7~8世紀に埋没したSDg09の存在が示すように、主軸方位は地割に合致するが、現地割から復元できる条理型地割の坪界線には呼応しない遺構が確認できる。こうした内容は11世紀前半における条理型地割の再整備を示し、その要因を古代末の河床低下に求めることができる。これにより、それ以前の灌漑水路網から新たな灌漑水路へ移行したものと理解できる。こうした変化を認めながらも、古代・中世ないし近世段階にもSDg29の西において、SDg86を延伸する溝が認められない点は、旧地形に反映するものと理解したい。第292図に遺構検出面の地形測量図を掲載した。10cmセンターによる旧地形の復元を試みたが、検出面の標高であるため、やや正確性を欠く。大局的には北東方向へ緩やかに傾斜する地形が復元でき、近世～近現代の遺構を検出した調査区東部は比較的平坦な地形を示す。東西方向の条理型地割に合致したSDg86地点ではそれに平行した周辺地形を認め、SDg29を越えて延伸した箇所では、緩やかな斜面地形となり、SDg29を延伸しても、SDg29からの水量の供給は不可能となる。それに呼応するように、第291図に示した明治21年の地籍図では、当該箇所に認める水路Iは極めて短い。こうした旧地形を考慮すると、SDg29より西に位置する坪には、より地形の高い箇所、つまりはSDg05ないし南からの田渡しによる水量の供給を想定することができる。

③ 明治時代～大正時代

第290図最下段には明治時代～大正時代の遺構配置図を示した。遺構分布は前記した屋敷地A部分、SDg29の西側の一角、SDg02の東側の一角の3箇所に分かれる。それぞれ比較的高い密度で掘立柱建物を含む遺構を検出しておらず、屋敷地としての評価が可能である。これを除く箇所には遺構は確認できず、耕作域であった可能性は極めて高い。ここではSDg29西側の一角を屋敷地B、SDg02東の一角を屋敷地Cと仮称しておく。

屋敷地Aは前段階と同様に、SDg29を西限、SDg86を南限、SDg47を北限とし、東限はSKg833東端とSKg885を結んだ箇所に求めることができる。南北長約30m、東西長約33mを測る。東側において遺構が分布しない箇所を認め、屋敷地への入り口となろう。屋敷地内の空間配置では、ほぼ中央に建物があり（SBg13・14・16）、その周囲を井戸や風呂釜、廐棄土坑が取り巻く。掘立柱建物は年代的な位置付けに問題を残すが、周辺遺構の配置から屋敷地Aの中央部に居住施設が展開していた蓋然性は高く、仮にSBg13・14・16が当該期に属さない建物であっても、基礎が削平により失われて痕跡を留めない石垣建て建物の存在を想定することができる。屋敷地Aの北西隅には3基の井戸が集中し、井戸枠が遺存しないSEg03と土師質土器井筒を利用したSEg05-06を認める。北西隅には報文番号1231として図化した風呂釜を掘えたSKg815も確認できる。正円形の掘方を掘削し、その底面に風呂釜を据え、その周間に埋め土を設置する状況が窺える。また、土師質土器壺を埋置した遺構は屋敷地南東部に集中する傾向を認める。

屋敷地BはSDg26を北限とし、SDg86を西へ延伸した箇所を南限とする。東端部はSDg29となるが、西端を画する施設は確認できない。屋敷地規模は南北長18m前後、東西長15m前後に復元できる。居住施設として2棟の掘立柱建物を帰属させたが（SBg11・12）、出土遺物による所属時期の特定ではなく、後述する明治21年地籍図との関連から、当該期への位置付けを行った。屋敷地内の南端部に主軸方位を描えた配置となり、その東側には土師質土器甕を埋置したSKg798を認める。また、復元した屋敷地からわずかに外れる位置に井戸を1基検出した（SEg01）。土師質土器甕を井戸枠とし、出土遺物の年代観から幕末前後に位置付けた。屋敷地の北端を画するSDg26に接する位置関係となるが、巨視的には屋敷地の北西部に位置する。

屋敷地Cは調査区西部、SDg02の東側にからうじて確認できる。2棟の掘立柱建物を帰属させたが（SBg02・03）、出土遺物による位置付けではなく、前段階からの継続性や明治21年地籍図に記載された宅地を重視して設定した。

以上、近世～近現代を3時期に大別してそれぞれの動向について述べた。次に、明治21年の地籍図に基づく検討を行いたい。第291図に明治21年地籍図のトレース図を示した（高松法務局所蔵）。森下氏によって提示された地籍図をトレースし、当調査区において検出した遺構と地籍図に記載された水路の位置関係から、地籍図に調査区の位置を示し、遺構変遷図と同じく1/1,500のスケールで提示した。宅地部分にはトーンを掛け、水路を黒塗りで表現し、便宜上アルファベットによる仮称を行った。以下、これに基づき、検出した明治～大正時代の遺構との対比を試み、18世紀後半～幕末、18世紀前半の遺構について、地籍図から復元できる近代の景観との関係について検討する。

地籍図と第290図下段に配置した明治～大正時代の遺構配置図を比較すると、極めて酷似した内容であることが窺える。水路と検出した清との対比では、水路A・C～SDg02、水路DないしE～SDg05～07、水路F～SDg29、水路G～SDg86、水路H～SDg47がそれぞれ合致する。一方、地籍図に記載された水路B・Iは遺構としては確認できず、削平により失われた規模・深度の水路であった可能性が想定できる。SDg29は発掘調査で検出した限りでは直線的に延びるが、地籍図ではL字形を呈する溝が交わることなく表現されている。しかし、第292図の地形図が示すように、水路Iの西側は旧地形が高い箇所となり、取水源を設定することは困難である（水路Iに接するSKg794の出水状施設としての性格も想定したが、規模・深度・形状といった点からは肯定することはできない）。こうした状況を考慮すると、耕作域と推測した調査区中央部への用水の供給は、地籍図の水路F・G・Iからではなく、水路D・Eからであったと想定できる。つまり、旧地形の起伏に伴う坪単位での灌漑水路網と評価でき、前記したように、その施行時期は11世紀前半となり、その灌漑水路網は明治期まで継続した状況が窺える。

一方、居住域では宅地A～屋敷地C、宅地B～屋敷地A、宅地C～屋敷地Bがほぼ対応し、宅地A・Cに位置する時期不詳の掘立柱建物を明治～大正時代へ位置付けた経緯はあるが、地籍図に記載された宅地のすべてを当調査区では確認したことになる。第290図に示した近世段階の変遷図では、地籍図の宅地部分にのみ居住施設を含む遺構を検出しており、明治21年の状況は18世紀ないし17世紀まで遡及させることができ、近世段階における宅地の固定化が窺える。しかし、第289図の中世段階の遺構配置図が示すように、居住域は地籍図の宅地とは必ずしも合致しない。近世～近現代まで踏襲される条理型地割に沿った溝は開削されるが、居住域は近世とは異なり、中世段階と近世段階にはヒアタスを認めることになる。その要因は明らかではないが、近世段階に新たに開削されたSDg02が示すように、少なくとも灌漑水路の再整備と宅地の固定化といった現象を伴うものであったと理解することができる。

表成構種器器の土器・陶磁第5表

第6表 土坑一覧表(1)

新遺構名	旧遺構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg001	III 33区SK336	弥生	粘土探査坑	* 2.8	1.7	0.35
SKg002	III 33区SK337	弥生	粘土探査坑	4.4	* 0.8	0.17
SKg003	III 33区SK338	弥生	粘土探査坑	1.25	0.8	0.2
SKg004	III 33区SK339	弥生	粘土探査坑	0.85	0.7	0.31
SKg005	III 33区	弥生	粘土探査坑	* 0.8	* 0.3	0.1
SKg006	III 33区	弥生	粘土探査坑	* 0.5	* 0.2	0.1
SKg007	III 33区	弥生	粘土探査坑	* 1.0	* 0.3	0.22
SKg008	III 33区SK346	弥生	粘土探査坑	* 1.7	* 0.8	0.33
SKg009	III 33区SK321	弥生	粘土探査坑	0.9	0.5	0.19
SKg010	III 33区SK315	弥生	粘土探査坑	* 0.78	* 0.64	0.05
SKg011	III 33区SK317	弥生	粘土探査坑	1.1	* 0.6	0.22
SKg012	III 33区SK318	弥生	粘土探査坑	* 1.51	1.54	0.22
SKg013	III 33区SK316	弥生	粘土探査坑	* 2.1	* 1.25	0.25
SKg014	III 33区	弥生	粘土探査坑	0.5	0.3	0.68
SKg015	III 33区SK319	弥生	粘土探査坑	* 1.35	1.15	0.23
SKg016	III 33区SK320	弥生	粘土探査坑	0.95	0.6	0.3
SKg017	III 33区SK325	弥生	粘土探査坑	1.2	* 0.7	0.22
SKg018	III 33区	弥生	粘土探査坑	0.65	0.55	0.22
SKg019	III 33区SK324	弥生	粘土探査坑	0.8	0.65	0.26
SKg020	III 33区SK322	弥生	粘土探査坑	0.95	0.75	0.17
SKg021	III 33区SK01	弥生	粘土探査坑	0.5	0.45	0.09
SKg022	III 33区SK02	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.16
SKg023	III 33区SK03	弥生	粘土探査坑	1.35	0.9	0.28
SKg024	III 33区	弥生	粘土探査坑	0.45	0.45	0.19
SKg025	III 33区SK323	弥生	粘土探査坑	* 1.0	0.75	0.28
SKg026	III 33区	弥生	粘土探査坑	0.9	0.5	0.19
SKg027	III 33区SK326	弥生	粘土探査坑	1.95	* 1.25	0.25
SKg028	III 33区SK327・SK33	弥生	粘土探査坑	1.5	0.75	0.11
SKg029	III 33区SK37	弥生	粘土探査坑	1.4	0.75	0.26
SKg030	III 33区SK31	弥生	粘土探査坑	0.65	0.35	0.06
SKg031	III 33区SK32	弥生	粘土探査坑	0.75	0.7	0.13
SKg032	III 33区SK34	弥生	粘土探査坑	0.5	0.5	0.26
SKg033	III 33区	弥生	粘土探査坑	0.55	0.3	0.06
SKg034	III 33区SK22	弥生	粘土探査坑	* 1.3	0.7	0.22
SKg035	III 33区SK35	弥生	粘土探査坑	1.65	1.45	0.24
SKg036	III 33区SK21	弥生	粘土探査坑	1.3	0.65	0.19
SKg037	III 33区SK04	弥生	粘土探査坑	0.5	0.4	0.98
SKg038	III 33区SK07	弥生	粘土探査坑	0.8	0.5	0.36
SKg039	III 33区SK05	弥生	粘土探査坑	1.1	1.05	0.17
SKg040	III 33区SK09	弥生	粘土探査坑	5.1	2.75	0.57
SKg041	III 33区SK20	弥生	粘土探査坑	1.4	0.7	0.2
SKg042	III 33区SK19	弥生	粘土探査坑	* 1.3	0.8	0.12
SKg043	III 33区SK08	弥生	粘土探査坑	0.65	0.55	0.3
SKg044	III 33区SK06	弥生	粘土探査坑	1.05	0.9	0.38
SKg045	III 33区SK17	弥生	粘土探査坑	1.3	1	0.19
SKg046	III 33区SK18A・SK18B	弥生	粘土探査坑	2.45	1.55	0.23
SKg047	III 33区SK29	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.96
SKg048	III 33区	弥生	粘土探査坑	1.25	1.2	0.21
SKg049	III 33区	弥生	粘土探査坑	2.4	1	0.18
SKg050	III 33区	弥生	粘土探査坑	1.85	1.35	0.14
SKg051	III 33区SK28	弥生	粘土探査坑	0.35	0.35	0.15
SKg052	III 33区SK11	弥生	粘土探査坑	* 0.65	0.4	0.15
SKg053	III 33区SK23	弥生	粘土探査坑	* 0.9	* 0.75	0.14
SKg053	III 33区SK10・a・b・c・d	弥生	粘土探査坑	1.0	0.85	0.14
SKg054	III 33区SK50	弥生	粘土探査坑	0.45	0.35	0.2
SKg055	III 33区SK15	弥生	粘土探査坑	1.1	0.95	0.18
SKg056	III 33区SK16	弥生	粘土探査坑	1.55	* 1.05	0.17

第6表 土坑一覧表(2)

新造構名	旧遺構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg057	III3区SK24	弥生	粘土探査坑	0.65	* 0.45	0.11
SKg058	III3区SK27	弥生	粘土探査坑	0.55	0.5	0.09
SKg059	III3区SK13	弥生	粘土探査坑	* 1.2	* 0.3	0.14
SKg060	III3区SK49	弥生	粘土探査坑	0.5	0.45	0.14
SKg061	III3区SK12	弥生	粘土探査坑	0.75	0.65	0.12
SKg062	III3区SK14	弥生	粘土探査坑	* 1.75	* 1.1	0.13
SKg063	III3区SK26	弥生	粘土探査坑	0.8	0.6	0.08
SKg064	III3区SK25	弥生	粘土探査坑	* 1.55	* 0.75	0.17
SKg065	III3区SK340B	弥生	粘土探査坑	1.3	0.85	0.25
SKg066	III3区SK340A	弥生	粘土探査坑	1.5	1.25	0.31
SKg067	III3区SK343	弥生	粘土探査坑	* 1.75	* 1.2	0.11
SKg068	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.7	* 0.25	0.03
SKg069	III3区SK363	弥生	粘土探査坑	1.35	0.6	0.2
SKg070	III3区SK363	弥生	粘土探査坑	* 1.8	* 0.7	0.12
SKg071	III3区	弥生	粘土探査坑	0.5	0.4	0.08
SKg072	III3区SK354	弥生	粘土探査坑	* 1.7	1.3	0.18
SKg073	III3区SK356	弥生	粘土探査坑	* 1.3	* 0.8	0.08
SKg074	III3区	弥生	粘土探査坑	0.65	0.35	0.07
SKg075	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.5	* 0.2	0.08
SKg076	III3区SK357	弥生	粘土探査坑	1.15	0.9	0.12
SKg077	III3区SK342	弥生	粘土探査坑	* 0.7	* 0.7	0.22
SKg078	III3区SK341	弥生	粘土探査坑	3.3	2.75	0.24
SKg079	III3区SK344	弥生	粘土探査坑	0.85	* 0.75	0.15
SKg080	III3区SK348	弥生	粘土探査坑	4.75	2.35	0.29
SKg081	III3区SK351	弥生	粘土探査坑	2.5	1.6	0.16
SKg082	III3区SK352	弥生	粘土探査坑	* 0.8	* 0.45	0.2
SKg083	III3区	弥生	粘土探査坑	0.3	0.3	0.06
SKg084	III3区	弥生	粘土探査坑	* 1.0	* 0.35	0.07
SKg085	III3区SK355	弥生	粘土探査坑	1.4	1.05	0.11
SKg086	III3区	弥生	粘土探査坑	0.4	0.3	0.09
SKg087	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.45	* 0.25	0.07
SKg088	III3区SK358	弥生	粘土探査坑	0.5	0.4	0.11
SKg089	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.6	* 0.3	0.14
SKg090	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.8	* 0.3	0.08
SKg091	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.85	* 0.3	0.18
SKg092	III3区SK345	弥生	粘土探査坑	* 1.6	* 1.15	0.19
SKg093	III3区	弥生	粘土探査坑	* 1.7	* 0.25	0.12
SKg094	III3区SK347	弥生	粘土探査坑	* 1.28	1.04	0.24
SKg095	III3区SK349	弥生	粘土探査坑	* 0.75	0.7	0.11
SKg096	III3区SK350	弥生	粘土探査坑	1	* 0.8	0.1
SKg097	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.8	* 0.3	0.31
SKg098	III3区SK360	弥生	粘土探査坑	* 1.2	* 0.75	0.14
SKg099	III3区SK359	弥生	粘土探査坑	* 1.0	* 0.5	0.18
SKg100	III3区SK361	弥生	粘土探査坑	0.8	0.65	0.09
SKg101	III3区SK362	弥生	粘土探査坑	* 0.8	0.7	0.22
SKg102	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.75	* 0.25	0.24
SKg103	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.8	* 0.7	0.1
SKg104	III3区SK328	弥生	粘土探査坑	* 0.65	* 0.55	0.19
SKg105	III3区SK330	弥生	粘土探査坑	0.95	0.8	0.18
SKg106	III3区SK329	弥生	粘土探査坑	1.3	1.05	0.19
SKg107	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.5	* 0.15	0.11
SKg108	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.65	* 0.2	0.09
SKg109	III3区	弥生	粘土探査坑	0.65	0.55	0.13
SKg110	III3区SK331	弥生	粘土探査坑	1.75	1.5	0.26
SKg111	III3区SK381	弥生	粘土探査坑	* 1.35	* 1.15	0.24
SKg112	III3区SK364	弥生	粘土探査坑	* 1.7	* 1.2	0.36
SKg113	III3区	弥生	粘土探査坑	* 0.6	* 0.15	0.02

第6表 土坑一覧表(3)

新造構名	旧造構名	時期	造構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg114	III3区SK365	弥生	粘土探査坑	0.75	0.65	0.09
SKg115	III3区SK366	弥生	粘土探査坑	0.65	0.55	0.1
SKg116	III3区	弥生	粘土探査坑	* 1.25	0.5	0.15
SKg117	III3区SK367	弥生	粘土探査坑	* 1.15	0.75	0.07
SKg118	III3区SK368	弥生	粘土探査坑	* 3.5	1.5	0.28
SKg119	III3区SK369	弥生	粘土探査坑	* 1.5	1.5	0.2
SKg120	III3区SK370	弥生	粘土探査坑	* 1.2	* 0.3	?
SKg121	III3区SK371	弥生	粘土探査坑	1	* 0.6	0.11
SKg122	III3区	弥生	粘土探査坑	* 1.2	* 0.65	0.26
SKg123	III3区SK372	弥生	粘土探査坑	* 1.2	* 0.7	0.34
SKg124	III3区SK373	弥生	粘土探査坑	* 1.0	* 0.9	0.08
SKg125	III3区SK388	弥生	粘土探査坑	* 1.3	* 0.8	0.16
SKg126	III3区SK393	弥生	粘土探査坑	* 0.5	0.35	0.38
SKg127	III3区SK389	弥生	粘土探査坑	1.15	0.75	0.27
SKg128	III3区SK390	弥生	粘土探査坑	* 3.5	* 0.7	0.15
SKg129	III3区	弥生	粘土探査坑	* 1	* 0.45	0.26
SKg130	III3区SK391	弥生	粘土探査坑	* 1.2	* 0.7	0.14
SKg131	III3区SK392	弥生	粘土探査坑	* 1.3	0.8	0.32
SKg132	III4区	弥生	粘土探査坑	* 0.85	0.75	0.21
SKg133	III3区SK332	弥生	粘土探査坑	0.75	0.55	0.16
SKg134	III3区SK333	弥生	粘土探査坑	0.85	0.75	0.26
SKg135	III3区SK104	弥生	粘土探査坑	0.4	0.35	0.1
SKg136	III3区SK105	弥生	粘土探査坑	0.75	0.7	0.24
SKg137	III3区SK108	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.13
SKg138	III3区SK109	弥生	粘土探査坑	1.15	0.8	0.15
SKg139	III3区	弥生	粘土探査坑	0.35	0.3	0.1
SKg140	III3区SK334	弥生	粘土探査坑	* 1.9	* 1.2	0.19
SKg141	III3区SK111	弥生	粘土探査坑	1.2	0.9	0.09
SKg142	III3区SK335	弥生	粘土探査坑	1.25	* 0.8	0.12
SKg143	III3区SK110	弥生	粘土探査坑	1.15	1	0.26
SKg144	III3区SK112	弥生	粘土探査坑	0.6	0.55	0.24
SKg145	III3区SK107	弥生	粘土探査坑	1.1	0.6	0.2
SKg146	III3区SK97	弥生	粘土探査坑	1.05	0.75	0.07
SKg147	III3区SK95	弥生	粘土探査坑	0.35	* 0.3	0.12
SKg148	III3区SK96	弥生	粘土探査坑	0.65	0.5	0.08
SKg149	III3区SK380	弥生	粘土探査坑	* 2.3	* 1.85	0.37
SKg150	III3区SK379	弥生	粘土探査坑	1.25	0.8	0.31
SKg151	III3区SK165・SK382	弥生	粘土探査坑	1.27	1.14	0.45
SKg152	III3区SK164・SK182	弥生	粘土探査坑	1.5	1.15	0.25
SKg153	III3区SK163	弥生	粘土探査坑	0.35	0.35	0.07
SKg154	III3区SK162	弥生	粘土探査坑	0.75	0.6	0.18
SKg155	III3区SK154	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.37
SKg156	III3区SK155	弥生	粘土探査坑	1	0.75	0.25
SKg157	III3区SK153	弥生	粘土探査坑	* 2.05	* 0.7	0.11
SKg158	III3区SK152	弥生	粘土探査坑	0.5	0.35	0.23
SKg159	III3区SK156	弥生	粘土探査坑	1.2	1.1	0.06
SKg160	III3区SK157	弥生	粘土探査坑	0.75	0.5	0.11
SKg161	III3区SK158	弥生	粘土探査坑	1.4	1	0.24
SKg162	III3区SK377	弥生	粘土探査坑	0.75	0.6	0.18
SKg163	III3区SK378	弥生	粘土探査坑	0.78	0.64	0.3
SKg164	III3区SK161	弥生	粘土探査坑	1.3	1	1.6
SKg165	III3区SK159	弥生	粘土探査坑	2.2	1.3	0.32
SKg166	III3区	弥生	粘土探査坑	* 1.6	* 0.45	0.09
SKg167	III3区SK374	弥生	粘土探査坑	2.15	0.35	0.25
SKg168	III3区SK160・SK180	弥生	粘土探査坑	1.75	1.5	0.3
SKg169	III3区SK375	弥生	粘土探査坑	* 1.2	1.05	0.13
SKg170	III3区SK376	弥生	粘土探査坑	* 1.1	* 1.0	0.22

第6表 土坑一覧表(4)

新造構名	旧造構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg171	III33区SK179	弥生	粘土探掘坑	* 2. 4	* 1. 7	0. 3
SKg172	III33区SK178	弥生	粘土探掘坑	* 2. 4	1. 5	0. 23
SKg173	III33区SK190・SK191	弥生	粘土探掘坑	* 4. 3	* 2. 1	0. 25
SKg174	III33区SK189	弥生	粘土探掘坑	0. 5	0. 4	0. 99
SKg175	III33区SK188	弥生	粘土探掘坑	1. 25	* 1. 0	0. 1
SKg176	III33区SK192	弥生	粘土探掘坑	2. 1	1. 45	0. 19
SKg177	III33区SK205	弥生	粘土探掘坑	* 4. 12	2. 82	0. 27
SKg178	III33区SK383	弥生	粘土探掘坑	* 1. 1	0. 6	0. 17
SKg179	III33区SK187	弥生	粘土探掘坑	0. 85	0. 7	0. 31
SKg180	III33区SK204	弥生	粘土探掘坑	0. 65	0. 55	0. 2
SKg181	III33区SK203	弥生	粘土探掘坑	3. 05	2. 55	0. 17
SKg182	III33区SK384	弥生	粘土探掘坑	1	0. 9	0. 23
SKg183	III33区SK386	弥生	粘土探掘坑	0. 55	0. 45	0. 23
SKg184	III33区SK385	中世	粘土探掘坑	* 1. 33	0. 99	0. 22
SKg185	III33区SK387	中世	粘土探掘坑	1. 15	1. 05	0. 24
SKg186	III33区SK287	弥生	粘土探掘坑	0. 85	0. 75	0. 24
SKg187	III33区SK288	弥生	粘土探掘坑	1. 15	0. 8	0. 19
SKg188	III33区SK289	弥生	粘土探掘坑	0. 6	0. 45	0. 2
SKg189	III33区	弥生	粘土探掘坑	0. 5	0. 4	0. 16
SKg190	III33区SK290	弥生	粘土探掘坑	0. 5	0. 45	0. 2
SKg191	III33区SK291	弥生	粘土探掘坑	0. 65	0. 55	0. 16
SKg192	III33区SK314	弥生	粘土探掘坑	4. 47	1. 64	0. 2
SKg193	III33区・III34区SK11	弥生	粘土探掘坑	0. 8	0. 5	0. 23
SKg194	III34区SK04	弥生	粘土探掘坑	0. 8	* 0. 65	0. 15
SKg195	III34区	弥生	粘土探掘坑	* 0. 7	* 0. 35	0. 27
SKg196	III33区SK106	弥生	粘土探掘坑	0. 6	0. 5	0. 22
SKg197	III33区SK98	弥生	粘土探掘坑	0. 95	0. 75	0. 14
SKg198	III33区SK99	弥生	粘土探掘坑	0. 7	0. 5	0. 06
SKg199	III33区SK100	弥生	粘土探掘坑	0. 35	0. 3	0. 16
SKg200	III33区	弥生	粘土探掘坑	0. 4	0. 4	0. 16
SKg201	III33区	弥生	粘土探掘坑	0. 3	0. 15	0. 1
SKg202	III33区SK39	弥生	粘土探掘坑	1. 05	0. 6	0. 2
SKg203	III33区	弥生	粘土探掘坑	0. 8	0. 65	0. 11
SKg204	III33区SK40	弥生	粘土探掘坑	1. 35	0. 95	0. 17
SKg205	III33区SK86	弥生	粘土探掘坑	1. 05	0. 75	0. 18
SKg206	III33区SK89	弥生	粘土探掘坑	1. 45	1. 45	0. 19
SKg207	III33区SK90	弥生	粘土探掘坑	0. 9	0. 75	0. 16
SKg208	III33区SK91	弥生	粘土探掘坑	1. 35	1. 35	0. 16
SKg209	III33区SK85	弥生	粘土探掘坑	0. 4	0. 45	0. 07
SKg210	III33区SK84	弥生	粘土探掘坑	0. 5	0. 45	0. 06
SKg211	III33区SK83	弥生	粘土探掘坑	2. 15	0. 85	0. 19
SKg212	III33区SK51	弥生	粘土探掘坑	0. 6	0. 55	0. 05
SKg213	III33区SK94	弥生	粘土探掘坑	* 1. 15	* 0. 4	0. 08
SKg214	III33区SK88	弥生	粘土探掘坑	0. 45	0. 45	0. 08
SKg215	III33区SK87	弥生	粘土探掘坑	0. 55	0. 55	0. 09
SKg216	III33区SK93	弥生	粘土探掘坑	* 0. 65	* 0. 2	0. 06
SKg217	III33区SK81	弥生	粘土探掘坑	0. 65	0. 6	0. 21
SKg218	III33区SK80	弥生	粘土探掘坑	0. 5	0. 35	0. 11
SKg219	III33区SK79	弥生	粘土探掘坑	0. 45	0. 4	0. 09
SKg220	III33区SK82	弥生	粘土探掘坑	* 0. 9	* 0. 55	0. 12
SKg221	III33区SK144	弥生	粘土探掘坑	* 1. 05	* 0. 45	0. 14
SKg222	III33区SK145	弥生	粘土探掘坑	* 0. 75	* 0. 4	0. 22
SKg223	III33区SK151	弥生	粘土探掘坑	0. 55	0. 35	0. 23
SKg224	III33区SK143A	弥生	粘土探掘坑	1. 65	1. 4	0. 22
SKg225	III33区SK143B	弥生	粘土探掘坑	1. 05	0. 75	0. 23
SKg226	III33区SK150	弥生	粘土探掘坑	0. 7	0. 7	0. 21
SKg227	III33区SK146	弥生	粘土探掘坑	1. 3	0. 85	0. 2

第6表 土坑一覧表(5)

新遺構名	旧遺構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg228	III33区SK140	弥生	粘土探査坑	1.2	0.7	0.13
SKg229	III33区SK149	弥生	粘土探査坑	0.9	0.7	0.22
SKg230	III33区SK181	弥生	粘土探査坑	1.2	1.15	0.19
SKg231	III33区SK139	弥生	粘土探査坑	0.95	0.8	0.15
SKg232	III33区SK148	弥生	粘土探査坑	1.96	1.43	0.26
SKg233	III33区SK147	弥生	粘土探査坑	1.05	0.95	0.24
SKg234	III33区SK177	弥生	粘土探査坑	2.45	* 2.4	0.24
SKg235	III33区SK176	弥生	粘土探査坑	0.6	0.6	0.26
SKg236	III33区SK197	中世	粘土探査坑	1.95	1.9	0.55
SKg237	III33区	弥生	粘土探査坑	* 0.75	* 0.75	0.29
SKg238	III33区SK193 - SK194	弥生	粘土探査坑	* 2.25	1.75	0.23
SKg239	III33区SK195	弥生	粘土探査坑	1.55	1.3	0.35
SKg240	III33区SK196	弥生	粘土探査坑	1.6	1.35	0.22
SKg241	III33区SK202	弥生	粘土探査坑	1.35	1.15	0.25
SKg242	III33区SK201	弥生	粘土探査坑	3.4	2.65	0.27
SKg243	III33区	弥生	粘土探査坑	0.65	0.5	0.46
SKg244	III33区	弥生	粘土探査坑	0.4	0.35	0.12
SKg245	III33区SK313	弥生	粘土探査坑	2.9	1.65	0.3
SKg246	III33区SK312	弥生	粘土探査坑	1.05	0.85	0.23
SKg247	III33区SK292	弥生	粘土探査坑	0.5	0.45	0.2
SKg248	III33区SK293	弥生	粘土探査坑	0.65	0.55	0.27
SKg249	III33区SK294	弥生	粘土探査坑	0.65	0.45	0.15
SKg250	III33区SK36	弥生	粘土探査坑	2.9	1.65	0.2
SKg251	III33区	弥生	粘土探査坑	1.05	0.6	0.14
SKg252	III33区SK30	弥生	粘土探査坑	1.6	0.8	0.19
SKg253	III33区SK38	弥生	粘土探査坑	* 1.35	1.25	0.18
SKg254	III33区	弥生	粘土探査坑	0.35	0.25	0.18
SKg255	III33区	弥生	粘土探査坑	0.35	0.35	0.08
SKg256	III33区SK41	弥生	粘土探査坑	1	0.5	0.18
SKg257	III33区SK52	弥生	粘土探査坑	0.5	0.5	0.09
SKg258	III33区SK42	弥生	粘土探査坑	1.35	0.6	0.11
SKg259	III33区SK43	弥生	粘土探査坑	0.8	0.6	0.1
SKg260	III33区SK63	弥生	粘土探査坑	1.35	0.3	0.2
SKg261	III33区SK53	弥生	粘土探査坑	0.55	0.5	0.2
SKg262	III33区SK47	弥生	粘土探査坑	1.05	0.6	0.18
SKg263	III33区SK77	弥生	粘土探査坑	0.5	0.45	0.15
SKg264	III33区SK78	弥生	粘土探査坑	0.3	0.3	0.18
SKg265	III33区SK75	弥生	粘土探査坑	* 0.75	0.65	0.15
SKg266	III33区SK76	弥生	粘土探査坑	0.4	0.3	0.09
SKg267	III33区SK72	弥生	粘土探査坑	0.7	0.65	0.1
SKg268	III33区SK73	弥生	粘土探査坑	0.6	0.55	0.21
SKg269	III33区SK74	弥生	粘土探査坑	* 0.7	* 0.25	0
SKg270	III33区SK67	弥生	粘土探査坑	0.88	0.86	0.13
SKg271	III33区SK65	弥生	粘土探査坑	0.95	0.85	0.16
SKg272	III33区SK71	弥生	粘土探査坑	0.4	0.35	0.19
SKg273	III33区SK70	弥生	粘土探査坑	0.85	0.6	0.18
SKg274	III33区SK46A	弥生	粘土探査坑	0.95	0.75	0.17
SKg275	III33区SK46B	弥生	粘土探査坑	1.4	1.15	0.18
SKg276	III33区SK46C	弥生	粘土探査坑	1.15	1.15	0.13
SKg277	III33区SK46D	弥生	粘土探査坑	1.25	1	0.16
SKg278	III33区SK46E	弥生	粘土探査坑	0.8	0.65	0.11
SKg279	III33区SK46F	弥生	粘土探査坑	0.4	1.05	0.21
SKg280	III33区SK66	弥生	粘土探査坑	1.25	0.7	0.2
SKg281	III33区SK64	弥生	粘土探査坑	0.85	0.7	0.13
SKg282	III33区SK68	弥生	粘土探査坑	0.35	0.3	0.7
SKg283	III33区SK69	弥生	粘土探査坑	0.35	0.3	0.16
SKg284	III33区SK59	弥生	粘土探査坑	0.95	0.8	0.14

第6表 土坑一覧表(6)

新造構名	旧造構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg285	III33区SK62	弥生	粘土探査坑	* 1.05	* 0.75	0.3
SKg286	III33区SK60	弥生	粘土探査坑	0.6	0.55	0.1
SKg287	III33区SK58	弥生	粘土探査坑	0.65	0.6	0.17
SKg288	III33区SK61	弥生	粘土探査坑	0.6	0.35	0.17
SKg289	III33区SK57	弥生	粘土探査坑	1.6	0.8	0.14
SKg290	III33区SK54	弥生	粘土探査坑	1.15	0.7	?
SKg291	III33区SK45	弥生	粘土探査坑	1.05	0.9	0.11
SKg292	III33区SK44	弥生	粘土探査坑	* 2.35	* 1.05	0.16
SKg293	III33区SK48	弥生	粘土探査坑	0.95	0.45	0.04
SKg294	III33区SK55	弥生	粘土探査坑	* 0.75	* 0.2	0.14
SKg295	III33区SK56	弥生	粘土探査坑	* 2.8	* 1.9	0.16
SKg296	III33区SK136	弥生	粘土探査坑	2.2	1.35	0.12
SKg297	III33区SK172	弥生	粘土探査坑	0.35	0.3	0.08
SKg298	III33区SK135	弥生	粘土探査坑	2.5	1.2	0.18
SKg299	III33区SK137	弥生	粘土探査坑	1.3	0.8	0.18
SKg300	III33区SK138	弥生	粘土探査坑	0.5	0.35	0.16
SKg301	III33区SK173	弥生	粘土探査坑	1.5	1.1	0.15
SKg302	III33区SK174	弥生	粘土探査坑	1.55	1.15	0.16
SKg303	III33区SK175	弥生	粘土探査坑	1.4	1.25	0.2
SKg304	III33区SK142	弥生	粘土探査坑	0.7	0.5	0.06
SKg305	III33区SK141	弥生	粘土探査坑	0.65	0.5	0.05
SKg306	III33区SK134	弥生	粘土探査坑	1.45	1	0.32
SKg307	III33区SK133	弥生	粘土探査坑	1.38	1.18	0.28
SKg308	III33区SK132	弥生	粘土探査坑	1.6	1.32	0.23
SKg309	III33区SK128C	弥生	粘土探査坑	* 1.8	* 1.2	0.18
SKg310	III33区SK128A	弥生	粘土探査坑	1	1	0.19
SKg311	III33区SK128B	弥生	粘土探査坑	1.2	0.5	0.14
SKg312	III33区SK129	弥生	粘土探査坑	1.25	0.9	0.25
SKg313	III33区SK127	弥生	粘土探査坑	1.6	1.05	0.19
SKg314	III33区SK166A	弥生	粘土探査坑	1.4	1	0.13
SKg315	III33区SK130A	弥生	粘土探査坑	1.45	1	0.23
SKg316	III33区SK130B	弥生	粘土探査坑	0.75	0.7	0.22
SKg317	III33区	弥生	粘土探査坑	0.3	0.3	0.09
SKg318	III33区SK131	弥生	粘土探査坑	1.5	* 0.8	0.22
SKg319	III33区SK166B	弥生	粘土探査坑	0.75	0.75	0.09
SKg320	III33区SK166C	弥生	粘土探査坑	1.1	0.6	0.13
SKg321	III33区SK121	弥生	粘土探査坑	0.7	0.5	0.16
SKg322	III33区SK120	弥生	粘土探査坑	0.85	0.7	0.18
SKg323	III33区SK119	弥生	粘土探査坑	* 0.8	0.7	0.08
SKg324	III33区SK167	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.24
SKg325	III33区SK123	弥生	粘土探査坑	0.95	0.6	0.16
SKg326	III33区SK125A	弥生	粘土探査坑	0.85	0.75	0.22
SKg327	III33区SK125B	弥生	粘土探査坑	0.8	0.7	0.18
SKg328	III33区SK166D	弥生	粘土探査坑	0.6	0.5	0.28
SKg329	III33区SK126	弥生	粘土探査坑	0.55	0.5	0.24
SKg330	III33区SK166	弥生	粘土探査坑	1.5	* 1.25	0.14
SKg331	III33区SK168	弥生	粘土探査坑	0.25	* 0.2	0.02
SKg332	III33区SK113	弥生	粘土探査坑	0.55	0.35	0.05
SKg333	III33区SK115	弥生	粘土探査坑	0.4	0.35	0.12
SKg334	III33区SK114	弥生	粘土探査坑	0.95	0.65	0.14
SKg335	III33区SK118	弥生	粘土探査坑	0.75	0.65	0.11
SKg336	III33区SK117	弥生	粘土探査坑	0.55	0.55	0.09
SKg337	III33区SK122	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.14
SKg338	III33区SK116a	弥生	粘土探査坑	0.65	0.5	0.16
SKg339	III33区SK116b・SK116c	弥生	粘土探査坑	1	0.65	0.17
SKg340	III33区SK124	弥生	粘土探査坑	0.85	0.65	0.21
SKg341	III33区	弥生	粘土探査坑	0.65	* 0.55	0.06

第6表 土坑一覧表(7)

新造構名	旧遺構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg342	■33区	弥生	粘土探査坑	* 0.8	* 0.45	0.25
SKg343	■33区	弥生	粘土探査坑	* 0.75	* 0.65	0.21
SKg344	■33区SK199	弥生	粘土探査坑	0.78	0.76	0.29
SKg345	■33区	弥生	粘土探査坑	0.5	0.3	0.09
SKg346	■33区SK206	弥生	粘土探査坑	2	1.4	0.31
SKg347	■33区	弥生	粘土探査坑	0.4	0.3	0.11
SKg348	■33区SK224	弥生	粘土探査坑	0.9	0.55	0.26
SKg349	■33区SK225	弥生	粘土探査坑	1.15	0.8	0.27
SKg350	■33区SK226	弥生	粘土探査坑	0.8	0.6	0.27
SKg351	■33区SK297	弥生	粘土探査坑	1.85	* 0.9	0.07
SKg352	■33区SK299	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.21
SKg353	■33区SK308	弥生	粘土探査坑	0.8	0.65	0.19
SKg354	■33区SK300	弥生	粘土探査坑	* 1.35	* 1.0	0.18
SKg355	■33区SK309	弥生	粘土探査坑	* 1.8	1.2	0.21
SKg356	■33区SK307	弥生	粘土探査坑	* 1.45	* 1.85	?
SKg357	■33区SK306	弥生	粘土探査坑	* 2.7	* 1.4	0.24
SKg358	■33区SK311	弥生	粘土探査坑	2.02	* 0.89	0.46
SKg359	■33区SK310	弥生	粘土探査坑	0.5	0.3	0.2
SKg360	■33区SK305	弥生	粘土探査坑	* 0.9	* 0.8	0.35
SKg361	■33区SK304	弥生	粘土探査坑	0.8	0.8	0.17
SKg362	■33区SK303	弥生	粘土探査坑	1.2	* 1.1	0.23
SKg363	■33区SK301	弥生	粘土探査坑	* 1.1	0.8	0.28
SKg364	■33区SK302	弥生	粘土探査坑	0.45	0.4	0.24
SKg365	■33区SK212	弥生	粘土探査坑	* 2.0	* 1.1	0.31
SKg366	■33区	弥生	粘土探査坑	0.35	0.25	0.06
SKg367	■33区SK211	弥生	粘土探査坑	1.45	1.2	0.29
SKg368	■33区SK217	弥生	粘土探査坑	* 2.8	2.2	0.26
SKg369	■33区SK213	弥生	粘土探査坑	1.2	0.95	0.3
SKg370	■33区SK218	弥生	粘土探査坑	1.11	1.01	0.3
SKg371	■33区	弥生	粘土探査坑	* 1.5	* 1.1	0.27
SKg372	■33区SK209	弥生	粘土探査坑	1.4	1.05	0.38
SKg373	■33区	弥生	粘土探査坑	0.5	0.45	0.19
SKg374	■33区SK210	弥生	粘土探査坑	0.85	0.75	0.23
SKg375	■33区SK215	弥生	粘土探査坑	1.65	1.1	0.29
SKg376	■33区SK216	弥生	粘土探査坑	0.75	0.5	0.24
SKg377	■33区SK200	弥生	粘土探査坑	1.45	1	0.28
SKg378	■33区SK214	弥生	粘土探査坑	1.71	0.35	0.33
SKg379	■33区SK207	弥生	粘土探査坑	1.51	1.11	0.33
SKg380	■33区SK208	弥生	粘土探査坑	1.8	1.3	0.31
SKg381	■33区SK221	弥生	粘土探査坑	1.26	0.79	0.07
SKg382	■33区SK223	弥生	粘土探査坑	1.35	0.9	0.28
SKg383	■33区SK227	弥生	粘土探査坑	0.75	0.45	0.18
SKg384	■33区SK219	弥生	粘土探査坑	3.89	2.16	0.29
SKg385	■33区SK251	弥生	粘土探査坑	1.3	1.2	0.25
SKg386	■33区SK245	弥生	粘土探査坑	1.35	1.05	0.21
SKg387	■33区SK254	弥生	粘土探査坑	1.15	0.75	0.21
SKg388	■33区SK244	弥生	粘土探査坑	1.25	0.7	0.23
SKg389	■33区SK228	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.15
SKg390	■33区SK229	弥生	粘土探査坑	1	1	0.3
SKg391	■33区SK230	弥生	粘土探査坑	1.45	0.6	0.25
SKg392	■33区SK220	弥生	粘土探査坑	0.95	* 0.5	0.22
SKg393	■33区SK236	弥生	粘土探査坑	* 2.69	* 0.69	0.27
SKg394	■33区SK231	弥生	粘土探査坑	1.65	1.25	0.28
SKg395	■33区SK250	弥生	粘土探査坑	2.66	2.49	0.29
SKg396	■33区SK247	弥生	粘土探査坑	1.85	1.25	0.34
SKg397	■33区SK246	弥生	粘土探査坑	0.83	0.61	0.27
SKg398	■33区SK248	弥生	粘土探査坑	1.55	1.1	0.31

第6表 土坑一覧表(8)

新遺構名	旧遺構名	時期	遺構の性格	幅(m)	横(m)	深さ(m)
SKg399	III33区SK243	弥生	粘土探査坑	2.6	1.3	0.35
SKg400	III33区SK284	弥生	粘土探査坑	2.2	1.7	0.27
SKg401	III33区SK285	弥生	粘土探査坑	2.88	2.49	0.26
SKg402	III33区SK263	弥生	粘土探査坑	1.2	0.95	0.21
SKg403	III33区SK249	弥生	粘土探査坑	1	0.95	0.29
SKg404	III33区SK262	弥生	粘土探査坑	1.5	1.43	0.36
SKg405	III33区SK260	弥生	粘土探査坑	* 1.54	1.3	0.2
SKg406	III33区SK259	弥生	粘土探査坑	1.66	1.2	0.24
SKg407	III33区SK261	弥生	粘土探査坑	1.4	0.95	0.4
SKg408	III33区SK253	弥生	粘土探査坑	1.6	0.95	0.3
SKg409	III33区SK258	弥生	粘土探査坑	* 1.8	* 1.25	0.44
SKg410	III33区SK234	弥生	粘土探査坑	1.72	1.31	0.24
SKg411	III33区SK238	弥生	粘土探査坑	1.25	1.15	0.24
SKg412	III33区SK232	弥生	粘土探査坑	3.85	* 1.93	0.31
SKg413	III33区SK237	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.3
SKg414	III33区SK235	弥生	粘土探査坑	1.72	1.3	0.32
SKg415	III33区SK242	弥生	粘土探査坑	* 2.48	1.28	0.25
SKg416	III33区SK233	中世	粘土探査坑	1.13	0.77	0.33
SKg417	III33区SK240	弥生	粘土探査坑	* 1.75	0.9	0.28
SKg418	III33区	弥生	粘土探査坑	0.55	0.35	0.13
SKg419	III33区SK264	弥生	粘土探査坑	1.64	1.1	0.26
SKg420	III33区SK265	弥生	粘土探査坑	1.8	1.3	0.4
SKg421	III33区	弥生	粘土探査坑	0.45	0.35	0.15
SKg422	III33区	弥生	粘土探査坑	0.25	0.25	0.16
SKg423	III33区SK283	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.28
SKg424	III33区	弥生	粘土探査坑	0.8	0.45	0.08
SKg425	III33区SK280	弥生	粘土探査坑	0.7	0.65	0.22
SKg426	III33区SK286	弥生	粘土探査坑	2.15	1.65	0.31
SKg427	III33区SK256	弥生	粘土探査坑	0.95	0.75	0.39
SKg428	III33区SK255	弥生	粘土探査坑	1.2	0.9	0.27
SKg429	III33区SK239	弥生	粘土探査坑	3.6	2.7	0.48
SKg430	III33区SK241	弥生	粘土探査坑	2.15	0.8	0.3
SKg431	III33区SK281	弥生	粘土探査坑	0.85	0.75	0.35
SKg432	III33区SK279	弥生	粘土探査坑	0.65	0.5	0.21
SKg433	III33区SK282	弥生	粘土探査坑	0.95	0.7	0.31
SKg434	III33区SK295	弥生	粘土探査坑	0.4	0.4	0.23
SKg435	III33区SK278	弥生	粘土探査坑	1.2	1.1	0.23
SKg436	III33区SK276	弥生	粘土探査坑	* 0.8	0.65	0.23
SKg437	III33区	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.24
SKg438	III33区SK277	弥生	粘土探査坑	0.9	0.6	0.28
SKg439	III33区SK268	弥生	粘土探査坑	0.6	0.55	0.8
SKg440	III33区SK266	弥生	粘土探査坑	* 1.25	* 1.2	0.28
SKg441	III33区SK267	弥生	粘土探査坑	0.75	0.65	0.19
SKg442	III33区	弥生	粘土探査坑	0.6	0.3	0.11
SKg443	III33区SK275	弥生	粘土探査坑	1.18	0.85	0.2
SKg444	III33区SK269	中世	粘土探査坑	0.8	0.8	0.31
SKg445	III33区SK270	弥生	粘土探査坑	1.12	0.82	0.27
SKg446	III33区SK271	弥生	粘土探査坑	1.15	1.05	0.25
SKg447	III33区SK287	弥生	粘土探査坑	0.38	0.34	0.11
SKg448	III33区SK272	弥生	粘土探査坑	1.1	* 0.7	0.18
SKg449	III33区SK296・III34区SK09	弥生	粘土探査坑	3.87	3.52	0.3
SKg450	III33区SK274	弥生	粘土探査坑	* 1.1	* 0.9	0.25
SKg451	III33区SK273	弥生	粘土探査坑	0.75	0.65	0.13
SKg452	III33区	弥生	粘土探査坑	0.45	0.2	0.18
SKg453	III34区SK10	弥生	粘土探査坑	1.56	1.52	0.22
SKg454	III34区	弥生	粘土探査坑	0.85	0.5	0.21
SKg455	III34区SP01	弥生	粘土探査坑	0.4	0.35	0.12

第6表 土坑一覧表(9)

新造構名	旧造構名	時期	造機の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg456	Ⅲ34区	弥生	粘土採掘坑	0.5	0.5	0.11
SKg457	Ⅲ34区	弥生	粘土採掘坑	0.4	0.3	0.13
SKg458	Ⅲ34区	弥生	粘土採掘坑	* 0.55	* 0.3	0.08
SKg459	Ⅲ45区SK01	弥生	粘土採掘坑	0.9	0.7	0.07
SKg460	Ⅲ45区SK08	弥生	粘土採掘坑	* 1.5	* 1.05	0.16
SKg461	Ⅲ45区SK09	弥生	粘土採掘坑	0.4	0.3	0.09
SKg462	Ⅲ45区SK02	弥生	粘土採掘坑	0.65	0.55	0.05
SKg463	Ⅲ45区SK04	弥生	粘土採掘坑	0.55	0.25	0.03
SKg464	Ⅲ45区SK03	弥生	粘土採掘坑	0.6	0.05	0.03
SKg465	Ⅲ45区SK05	弥生	粘土採掘坑	* 1.2	0.6	0.02
SKg466	Ⅲ45区SK06	赤生	粘土採掘坑	0.9	0.8	0.02
SKg467	Ⅲ45区SK07	弥生	粘土採掘坑	0.9	0.7	0.02
SKg468	Ⅲ45区SK14	弥生	粘土採掘坑	0.7	0.2	0.01
SKg469	Ⅲ45区SK16	弥生	粘土採掘坑	0.9	0.8	0.1
SKg470	Ⅲ45区SK17	弥生	粘土採掘坑	1	0.65	0.07
SKg471	Ⅲ45区SK11	弥生	粘土採掘坑	1.1	0.7	0.03
SKg472	Ⅲ45区SK12	弥生	粘土採掘坑	1.3	1.15	0.05
SKg473	Ⅲ45区SK18	弥生	粘土採掘坑	0.7	0.7	0.03
SKg474	Ⅲ45区SK19	弥生	粘土採掘坑	0.35	0.3	0.06
SKg475	Ⅲ45区SK20	弥生	粘土採掘坑	0.85	0.5	0.03
SKg476	Ⅲ45区SK13	弥生	粘土採掘坑	0.85	0.7	0.03
SKg477	Ⅲ45区SK15	弥生	粘土採掘坑	0.7	0.05	0.01
SKg478	Ⅲ45区SK21	弥生	粘土採掘坑	1.3	1	0.03
SKg479	Ⅲ45区SK28	弥生	粘土採掘坑	* 0.7	0.7	0.03
SKg480	Ⅲ45区SK29	弥生	粘土採掘坑	0.85	0.55	0.05
SKg481	Ⅲ45区SK22	弥生	粘土採掘坑	0.65	0.6	0.06
SKg482	Ⅲ45区SK23	弥生	粘土採掘坑	1.5	1.45	0.02
SKg483	Ⅲ45区SK30	弥生	粘土採掘坑	1	0.9	0.05
SKg484	Ⅲ45区SK24	弥生	粘土採掘坑	0.8	0.7	0.04
SKg485	Ⅲ45区SK25	弥生	粘土採掘坑	0.45	0.3	0.02
SKg486	Ⅲ45区SK31	弥生	粘土採掘坑	0.5	0.25	0.03
SKg487	Ⅲ45区SK26	弥生	粘土採掘坑	0.5	0.5	0.01
SKg488	Ⅲ45区SK27	弥生	粘土採掘坑	0.6	0.6	0.01
SKg489	Ⅲ45区SK32	弥生	粘土採掘坑	0.8	0.3	0.05
SKg490	Ⅲ45区SK39	弥生	粘土採掘坑	* 0.45	0.45	0.02
SKg491	Ⅲ45区SK33	弥生	粘土採掘坑	1.1	0.6	0.03
SKg492	Ⅲ45区SK43	弥生	粘土採掘坑	1	0.55	0.05
SKg493	Ⅲ45区SK45	弥生	粘土採掘坑	0.8	0.55	0.05
SKg494	Ⅲ45区SK34	弥生	粘土採掘坑	0.7	0.5	0.04
SKg495	Ⅲ45区SK35	弥生	粘土採掘坑	0.5	0.3	0.04
SKg496	Ⅲ45区SK36	弥生	粘土採掘坑	0.4	0.25	0.02
SKg497	Ⅲ45区SK50	弥生	粘土採掘坑	2.45	1	0.02
SKg498	Ⅲ45区SK48	弥生	粘土採掘坑	1.35	0.85	0.27
SKg499	Ⅲ45区SK37	弥生	粘土採掘坑	0.95	0.85	0.02
SKg500	Ⅲ45区SK41	弥生	粘土採掘坑	0.7	0.55	0.05
SKg501	Ⅲ45区SK38	弥生	粘土採掘坑	0.35	0.35	0.03
SKg502	Ⅲ45区SK42	弥生	粘土採掘坑	0.7	0.4	0.01
SKg503	Ⅲ45区SK40	弥生	粘土採掘坑	0.75	0.5	0.02
SKg504	Ⅲ45区SK44	弥生	粘土採掘坑	0.6	0.25	0.14
SKg505	Ⅲ45区SK47	弥生	粘土採掘坑	0.95	0.8	0.16
SKg506	Ⅲ45区SK46	弥生	粘土採掘坑	1.1	0.8	0.11
SKg507	Ⅲ45区SK51	弥生	粘土採掘坑	0.6	0.55	0.05
SKg508	Ⅲ45区SK56	弥生	粘土採掘坑	1.65	1.4	0.1
SKg509	Ⅲ45区SK57	弥生	粘土採掘坑	* 0.85	* 0.5	0.02
SKg510	Ⅲ45区SK52	弥生	粘土採掘坑	0.8	0.65	0.04
SKg511	Ⅲ45区SK58	弥生	粘土採掘坑	4.3	1.65	0.1
SKg512	Ⅲ45区SK59	弥生	粘土採掘坑	* 0.65	0.6	0.02

第6表 土坑一覧表 (10)

新遺構名	旧遺構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg513	III45区SK60	弥生	粘土探査坑	3.65	* 1.85	0.09
SKg514	III45区SK67	弥生	粘土探査坑	0.35	0.25	0.07
SKg515	III45区SK62	弥生	粘土探査坑	1.15	1.1	0.03
SKg516	III45区SK63	弥生	粘土探査坑	0.9	0.65	0.04
SKg517	III45区SK55	弥生	粘土探査坑	* 1.3	* 0.35	0.15
SKg518	III45区SK54	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.1
SKg519	III45区SK61	弥生	粘土探査坑	* 0.65	0.65	0.09
SKg520	III45区SK64	弥生	粘土探査坑	0.65	0.65	0.07
SKg521	III45区SK65	弥生	粘土探査坑	0.7	0.55	0.02
SKg522	III45区SK68	弥生	粘土探査坑	1	* 0.85	0.11
SKg523	III45区SK69	弥生	粘土探査坑	0.5	* 0.4	0.12
SKg524	III45区SK70	弥生	粘土探査坑	* 2.2	* 1.05	0.1
SKg525	III45区SK71	弥生	粘土探査坑	* 0.25	* 0.15	0.03
SKg526	III45区SK73	弥生	粘土探査坑	0.65	0.35	0.06
SKg527	III45区SK154	弥生	粘土探査坑	* 0.8	* 0.3	0.08
SKg528	III45区SK153	弥生	粘土探査坑	* 1.2	* 1.05	0.2
SKg529	III45区SK161	中世	粘土探査坑	0.3	* 0.25	0.26
SKg530	III45区SK152	弥生	粘土探査坑	* 1.3	* 1.0	0.09
SKg531	III45区SK66	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.09
SKg532	III45区SK139	弥生	粘土探査坑	1.15	1.1	0.13
SKg533	III45区SK144	弥生	粘土探査坑	0.6	0.35	?
SKg534	III45区SK143	弥生	粘土探査坑	0.65	0.5	0.08
SKg535	III45区	弥生	粘土探査坑	* 0.8	* 0.25	0.05
SKg536	III45区SK140	弥生	粘土探査坑	* 1.25	* 0.75	0.27
SKg537	III45区SK141・SK145	弥生	粘土探査坑	* 1.55	* 1.25	0.11
SKg538	III45区SK142	弥生	粘土探査坑	0.65	0.55	0.07
SKg539	III45区SK164	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.08
SKg540	III45区SK163	弥生	粘土探査坑	* 0.75	* 0.45	0.05
SKg541	III45区SK155	弥生	粘土探査坑	* 0.7	* 0.3	0.23
SKg542	III45区SK156	弥生	粘土探査坑	0.35	0.25	0.05
SKg543	III45区SK159	弥生	粘土探査坑	* 1.15	* 0.8	0.07
SKg544	III45区SK160	弥生	粘土探査坑	* 1.05	* 0.6	0.08
SKg545	III45区SK157	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.07
SKg546	III45区SK158	弥生	粘土探査坑	0.7	* 0.3	0.05
SKg547	III45区SK151	弥生	粘土探査坑	0.85	0.65	0.06
SKg548	III45区SK150	弥生	粘土探査坑	0.75	0.04	0.05
SKg549	III45区SK146	弥生	粘土探査坑	0.75	0.7	0.08
SKg550	III46区SK254	弥生	粘土探査坑	* 2.15	* 1.6	0.3
SKg551	III46区SK255	弥生	粘土探査坑	1.1	0.8	0.13
SKg552	III46区SK253	弥生	粘土探査坑	0.6	0.5	0.19
SKg553	III46区SK252・SK251	弥生	粘土探査坑	* 9.6	4.68	0.26
SKg554	III46区SK259	弥生	粘土探査坑	* 1.05	* 0.55	?
SKg555	III46区SK258	弥生	粘土探査坑	1.2	0.6	0.11
SKg556	III46区SK257	弥生	粘土探査坑	1.8	0.95	0.17
SKg557	III46区SK260	弥生	粘土探査坑	1.15	0.8	0.18
SKg558	III45・46区SK133	弥生	粘土探査坑	2.85	0.1	0.14
SKg559	III46区SK262	弥生	粘土探査坑	1	0.9	0.14
SKg560	III46区SK263	弥生	粘土探査坑	0.5	0.3	0.03
SKg561	III45・46区SK131	弥生	粘土探査坑	* 1.5	* 1.1	0.29
SKg562	III46区SK264B・C・D・E	弥生	粘土探査坑	4.5	2.55	0.31
SKg563	III46区SK269	弥生	粘土探査坑	0.8	0.3	0.07
SKg564	III46区	弥生	粘土探査坑	0.5	0.4	0.49
SKg565	III46区SK266	弥生	粘土探査坑	2.55	2	0.36
SKg566	III46区SK256	弥生	粘土探査坑	0.5	0.45	0.17
SKg567	III46区SK267	弥生	粘土探査坑	* 2.32	* 1.47	0.24
SKg568	III46区SK324	弥生	粘土探査坑	* 1.5	* 1.25	0.33
SKg569	III46区SK325	弥生	粘土探査坑	1	0.65	0.16

第6表 土坑一覧表(11)

新遺構名	旧遺構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg570	III46区SK326	弥生	粘土探査坑	0.9	0.7	0.13
SKg571	III46区SK329	弥生	粘土探査坑	* 1.8	* 1.55	0.17
SKg572	III46区SK330	弥生	粘土探査坑	1.15	0.6	0.21
SKg573	III46区SK328	弥生	粘土探査坑	0.5	0.5	0.11
SKg574	III46区SK250	弥生	粘土探査坑	1.15	0.9	0.08
SKg575	III46区SK327	弥生	粘土探査坑	1.33	0.98	0.43
SKg576	III46区SK327	弥生	粘土探査坑	2.2	1	0.34
SKg577	III46区SK326	弥生	粘土探査坑	0.6	0.6	0.12
SKg578	III46区SK326	弥生	粘土探査坑	5.05	3.6	0.25
SKg579	III46区SK315	弥生	粘土探査坑	2.45	1.75	0.29
SKg580	III46区SK314	弥生	粘土探査坑	0.45	0.45	0.07
SKg581	III46区SK278	弥生	粘土探査坑	* 0.99	0.56	0.24
SKg582	III46区SK323	弥生	粘土探査坑	0.4	0.4	0.11
SKg583	III46区SK312	弥生	粘土探査坑	1.4	0.9	0.21
SKg584	III46区SK313	弥生	粘土探査坑	0.8	0.7	0.18
SKg585	III46区	弥生	粘土探査坑	0.4	0.35	0.06
SKg586	III46区	弥生	粘土探査坑	0.35	0.2	0.03
SKg587	III46区SK331	弥生	粘土探査坑	* 0.96	0.58	0.32
SKg588	III46区	弥生	粘土探査坑	0.6	0.55	0.05
SKg589	III46区SK325	弥生	粘土探査坑	2.01	1.01	0.27
SKg590	III46区SK321	弥生	粘土探査坑	0.65	0.55	0.21
SKg591	III46区SK320	弥生	粘土探査坑	0.75	0.55	0.14
SKg592	III46区	中世	粘土探査坑	0.55	0.45	0.11
SKg593	III46区SK319	弥生	粘土探査坑	0.7	0.45	0.18
SKg594	III46区	弥生	粘土探査坑	0.65	0.55	0.1
SKg595	III46区SK324	弥生	粘土探査坑	1.3	1.1	0.13
SKg596	III46区SK318	弥生	粘土探査坑	0.75	0.55	0.05
SKg597	III46区SK317	弥生	粘土探査坑	1.8	1.2	0.17
SKg598	III46区SK316	弥生	粘土探査坑	1.95	1.7	0.21
SKg599	III46区SK311	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.07
SKg600	III46区SK310	弥生	粘土探査坑	1.15	0.65	0.14
SKg601	III46区	弥生	粘土探査坑	1.7	0.75	0.13
SKg602	III46区	弥生	粘土探査坑	0.8	0.7	0.06
SKg603	III46区SK309	弥生	粘土探査坑	2.35	0.6	0.24
SKg604	III46区SK319	弥生	粘土探査坑	1.83	0.88	0.12
SKg605	III46区	弥生	粘土探査坑	0.8	0.7	0.06
SKg606	III46区SK305・III47区SK195・SK222・SK204	弥生	粘土探査坑	* 1.86	* 1.19	0.26
SKg607	III46区	弥生	粘土探査坑	0.45	0.4	0.13
SKg608	III46区SK303	弥生	粘土探査坑	0.45	0.35	0.18
SKg609	III46区	弥生	粘土探査坑	0.55	0.35	0.09
SKg610	III46区SK304・III47区SK189・SK194	弥生	粘土探査坑	* 2.8	* 0.98	0.16
SKg611	III46区SK307	弥生	粘土探査坑	0.7	0.55	0.04
SKg612	III46区SK308	弥生	粘土探査坑	1.22	1.19	0.16
SKg613	III46区	弥生	粘土探査坑	1.25	0.75	0.13
SKg614	III47区SK216	弥生	粘土探査坑	3.05	0.75	0.14
SKg615	III47区SK217	弥生	粘土探査坑	0.25	0.3	0.08
SKg616	III47区SK215	弥生	粘土探査坑	0.5	0.3	0.11
SKg617	III47区SK213	弥生	粘土探査坑	1.3	0.8	0.09
SKg618	III47区SK211	弥生	粘土探査坑	0.95	0.65	0.12
SKg619	III47区SK212	弥生	粘土探査坑	0.7	0.25	?
SKg620	III47区SK214	弥生	粘土探査坑	1.05	0.75	0.12
SKg621	III47区SK209	弥生	粘土探査坑	* 0.97	* 0.89	0.13
SKg622	III47区SK218	弥生	粘土探査坑	2.6	1.05	0.19
SKg623	III47区SK207	弥生	粘土探査坑	2.3	1.2	0.21
SKg624	III47区SK208	弥生	粘土探査坑	0.75	0.7	0.21
SKg625	III47区SK200	弥生	粘土探査坑	0.55	0.4	0.1
SKg626	III47区SK199	弥生	粘土探査坑	0.35	0.3	0.21

第6表 土坑一覧表(12)

新造構名	旧造構名	時期	造構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg627	III47区SK202	弥生	粘土探査坑	0.35	0.25	0.19
SKg628	III47区SK196	弥生	粘土探査坑	0.9	0.6	0.16
SKg629	III47区SK197	弥生	粘土探査坑	2.8	1.7	0.3
SKg630	III47区	弥生	粘土探査坑	0.5	0.3	0.11
SKg631	III47区SK190	弥生	粘土探査坑	1.66	0.96	0.3
SKg632	III47区SK193	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.2
SKg633	III47区SK221	弥生	粘土探査坑	2.2	1.25	0.12
SKg634	III47区SK192	弥生	粘土探査坑	2.3	1.5	0.14
SKg635	III45区SK75	弥生	粘土探査坑	0.85	0.75	0.05
SKg636	III47区SK53	弥生	粘土探査坑	* 1.75	* 0.5	0.18
SKg637	III45区SK76	弥生	粘土探査坑	1.3	1.15	0.05
SKg638	III45区SK77	弥生	粘土探査坑	0.8	0.55	0.01
SKg639	III45区SK78	弥生	粘土探査坑	0.8	0.8	0.02
SKg640	III45区SK79	弥生	粘土探査坑	1.2	1	0.19
SKg641	III45区SK82	弥生	粘土探査坑	2.2	0.25	0.16
SKg642	III45区SK81	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.02
SKg643	III45区SK80	弥生	粘土探査坑	0.8	0.7	0.05
SKg644	III45区SK84	弥生	粘土探査坑	0.35	0.25	0.01
SKg645	III45区SK83	弥生	粘土探査坑	0.65	0.5	0.02
SKg646	III45区SK85	弥生	粘土探査坑	0.5	0.45	0.01
SKg647	III45区SK86	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.01
SKg648	III45区SK87	弥生	粘土探査坑	0.8	0.6	0.01
SKg649	III45区SK91	弥生	粘土探査坑	0.95	0.85	0.23
SKg650	III45区SK92	弥生	粘土探査坑	0.75	0.45	0.03
SKg651	III45区SK90	弥生	粘土探査坑	0.25	0.25	0.02
SKg652	III45区SK89	弥生	粘土探査坑	0.6	0.4	0.02
SKg653	III45区SK88	弥生	粘土探査坑	1.55	1.05	0.03
SKg654	III45区SK94	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.01
SKg655	III45区SK95	弥生	粘土探査坑	0.5	0.35	0.01
SKg656	III45区SK96	弥生	粘土探査坑	1.35	0.85	0.05
SKg657	III45区SK97	弥生	粘土探査坑	0.92	0.63	0.12
SKg658	III45区SK98	弥生	粘土探査坑	1.2	0.7	0.06
SKg659	III45区SK99	弥生	粘土探査坑	0.55	0.3	0.03
SKg660	III45区SK100	弥生	粘土探査坑	0.35	0.25	0.03
SKg661	III45区SK103	弥生	粘土探査坑	* 0.7	* 0.25	0.18
SKg662	III45区SK104	弥生	粘土探査坑	1.8	1.4	0.18
SKg663	III45区SK106	弥生	粘土探査坑	1.8	1.65	0.14
SKg664	III45区SK107	弥生	粘土探査坑	0.7	0.45	0.05
SKg665	III45区SK109	弥生	粘土探査坑	* 1.0	* 0.6	0.1
SKg666	III45区SK108	弥生	粘土探査坑	0.45	0.4	0.06
SKg667	III45区SK105	弥生	粘土探査坑	1.45	1.25	0.16
SKg668	III45区SK136	弥生	粘土探査坑	* 0.75	0.75	0.14
SKg669	III45区SX01	弥生	粘土探査坑	2.2	1.85	0.39
SKg670	III45区SK135	弥生	粘土探査坑	1.95	1	0.9
SKg671	III45区SK134	弥生	粘土探査坑	1.1	1	0.22
SKg672	III45区SK130	弥生	粘土探査坑	1.85	1.2	0.06
SKg673	III45区SK129	中世?	粘土探査坑	1.16	1.03	0.38
SKg674	III45区SK128	近世?	粘土探査坑	2	2	0.12
SKg675	III45区SK127・III46区	弥生	粘土探査坑	1.75	1.15	0.12
SKg676	III45区SK118	弥生	粘土探査坑	0.5	0.35	0.1
SKg677	III45区SK114	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.03
SKg678	III45区SK112	弥生	粘土探査坑	2.02	2	0.38
SKg679	III45区SK126・SK124・III46区SK124	弥生	粘土探査坑	3.28	4.66	0.5
SKg680	III46区	弥生	粘土探査坑	* 1.7	* 1.0	0.2
SKg681	III46区SK270	弥生	粘土探査坑	0.7	0.7	0.16
SKg682	III46区SK264A	弥生	粘土探査坑	2.35	1.8	0.37
SKg683	III46区SK225	弥生	粘土探査坑	0.8	0.8	0.14

第6表 土坑一覧表(13)

新造構名	旧造構名	時期	造構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg684	III46区SK228	弥生	粘土探査坑	0.55	0.46	0.14
SKg685	III46区SK224	弥生	粘土探査坑	0.55	0.45	0.04
SKg686	III46区SK229	弥生	粘土探査坑	1.3	0.8	0.26
SKg687	III46区SK235	弥生	粘土探査坑	2.2	1.1	0.24
SKg688	III46区SK281	弥生	粘土探査坑	1.3	0.7	0.33
SKg689	III46区SK249	弥生	粘土探査坑	1.15	1	0.23
SKg690	III46区SK234	弥生	粘土探査坑	1.9	1.1	0.25
SKg691	III46区SK232	弥生	粘土探査坑	2.8	1.5	0.25
SKg692	III46区SK230	弥生	粘土探査坑	* 0.73	* 0.55	0.17
SKg693	III46区SK231	弥生	粘土探査坑	0.41	0.4	0.15
SKg694	III46区SK237	弥生	粘土探査坑	* 0.6	* 0.45	0.1
SKg695	III46区SK238	弥生	粘土探査坑	* 0.65	* 0.55	0.1
SKg696	III46区SK271	弥生	粘土探査坑	1.5	1.4	0.23
SKg697	III46区SK276	弥生	粘土探査坑	6.42	3.3	0.25
SKg698	III46区SK277	弥生	粘土探査坑	1.35	0.65	0.28
SKg699	III46区	弥生	粘土探査坑	0.65	0.5	0.15
SKg700	III46区SK243	弥生	粘土探査坑	0.85	0.55	0.21
SKg701	III46区SK245	弥生	粘土探査坑	0.7	0.55	0.23
SKg702	III46区SK246	弥生	粘土探査坑	0.75	0.5	0.11
SKg703	III46区	弥生	粘土探査坑	0.5	0.35	0.07
SKg704	III46区SK280	弥生	粘土探査坑	1.4	0.85	0.19
SKg705	III46区	弥生	粘土探査坑	1.4	0.85	0.21
SKg706	III46区SK283	弥生	粘土探査坑	0.8	0.55	0.19
SKg707	III46区SK282	弥生	粘土探査坑	1.3	0.95	0.21
SKg708	III46区SK284	弥生	粘土探査坑	3.55	2.7	0.21
SKg709	III46区	弥生	粘土探査坑	0.5	0.2	0.05
SKg710	III46区SK285	弥生	粘土探査坑	3.75	2.95	0.27
SKg711	III46区SK287	弥生	粘土探査坑	1.7	0.85	0.52
SKg712	III46区SK286	弥生	粘土探査坑	1.3	1.1	0.21
SKg713	III46区	弥生	粘土探査坑	* 0.35	* 0.3	0.12
SKg714	III46区	弥生	粘土探査坑	1.55	1.3	0.16
SKg715	III46区SK289	弥生	粘土探査坑	1.25	0.8	0.12
SKg716	III46区SK288	弥生	粘土探査坑	1.25	1.2	0.25
SKg717	III46区SK290	弥生	粘土探査坑	1.1	0.6	0.12
SKg718	III46区SK302	弥生	粘土探査坑	2.5	1.3	0.2
SKg719	III46区SK300	弥生	粘土探査坑	0.9	0.65	0.1
SKg720	III46区	弥生	粘土探査坑	0.35	0.3	0.03
SKg721	III46区	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.03
SKg722	III46区	弥生	粘土探査坑	0.25	0.2	0.08
SKg723	III46区SK292	弥生	粘土探査坑	0.3	0.2	0.08
SKg724	III46区SK291	弥生	粘土探査坑	0.8	0.7	0.17
SKg725	III46区SK298	弥生	粘土探査坑	1.5	1.1	0.11
SKg726	III46区SK299	弥生	粘土探査坑	1.3	0.75	0.11
SKg727	III46区	弥生	粘土探査坑	0.35	0.3	0.05
SKg728	III46区SK295	弥生	粘土探査坑	0.4	0.35	0.12
SKg729	III46区SK294	弥生	粘土探査坑	0.6	0.4	0.11
SKg730	III46区	弥生	粘土探査坑	0.65	0.5	0.06
SKg731	III46区SK301	弥生	粘土探査坑	0.35	0.35	0.05
SKg732	III46区	弥生	粘土探査坑	0.35	0.3	0.06
SKg733	III46区	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.08
SKg734	III46区	弥生	粘土探査坑	0.35	0.3	0.03
SKg735	III46区SK297	弥生	粘土探査坑	0.85	0.7	0.07
SKg736	III46区	弥生	粘土探査坑	0.4	0.3	0.28
SKg737	III46区	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.14
SKg738	III46区SK296	弥生	粘土探査坑	0.7	0.55	0.06
SKg739	III46区	弥生	粘土探査坑	0.55	0.5	0.1
SKg740	III46区SK293	弥生	粘土探査坑	1.2	0.7	0.15

第6表 土坑一覧表(14)

新遺構名	旧遺構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg741	III46区	弥生	粘土探査坑	0.6	0.45	0.09
SKg742	III46区・III47区SK188	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.07
SKg743	III46区・III47区SK165	弥生	粘土探査坑	2.55	1.05	0.25
SKg744	III47区SK174	弥生	粘土探査坑	0.3	* 0.25	0.02
SKg745	III47区SK170	弥生	粘土探査坑	1	* 0.6	0.14
SKg746	III47区SK187	弥生	粘土探査坑	0.65	0.45	0.07
SKg747	III47区SK175	弥生	粘土探査坑	0.4	0.35	0.05
SKg748	III47区SK186	弥生	粘土探査坑	0.65	0.3	0.1
SKg749	III47区SK169	弥生	粘土探査坑	0.55	0.5	0.07
SKg750	III47区SK168	弥生	粘土探査坑	0.7	0.55	0.06
SKg751	III47区SK171	弥生	粘土探査坑	0.6	0.5	0.05
SKg752	III47区SK176	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.05
SKg753	III47区SK185	弥生	粘土探査坑	0.75	0.7	0.21
SKg754	III47区SK172	弥生	粘土探査坑	0.7	0.6	0.14
SKg755	III47区SK167	弥生	粘土探査坑	1.2	1	0.11
SKg756	III47区SK178	弥生	粘土探査坑	0.25	0.2	0.04
SKg757	III47区SK173	弥生	粘土探査坑	0.55	0.25	0.04
SKg758	III47区SK166	弥生	粘土探査坑	1.2	1.1	0.25
SKg759	III47区SK183	弥生	粘土探査坑	0.45	0.4	0.04
SKg760	III47区SK179	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	?
SKg761	III47区SK182	弥生	粘土探査坑	0.65	0.65	0.08
SKg762	III47区SK181	弥生	粘土探査坑	0.3	0.25	0.04
SKg763	III34区SK01			0.95	0.7	0.35
SKg764	III34区SK02			0.7	0.65	0.11
SKg765	III34区			1.35	* 1.15	0.17
SKg766	III34区			1.2	0.75	0.25
SKg767	III34区SK03	弥生		0.62	0.55	0.27
SKg768	III34区SK05			0.75	0.7	0.19
SKg769	III34区			0.5	0.3	0.09
SKg770	III34区			0.65	1.2	0.28
SKg771	III34区SK06	弥生		0.85	0.82	0.26
SKg772	III34区SK12	弥生		0.9	0.9	0.24
SKg773	III34区SK07			0.7	0.7	0.22
SKg774	III34区SK08			* 0.9	* 0.8	0.15
SKg775	III35区	弥生		0.95	0.4	0.08
SKg776	III35区SK05	弥生		0.83	0.75	0.42
SKg777	III35区SK16	近世		0.95	0.95	0.16
SKg778	III35区SK06	近世		1.41	1.26	0.16
SKg779	III35区			0.75	0.7	0.2
SKg780	III35区			0.8	0.7	0.06
SKg781	III35区SK01	近世		1	0.67	0.38
SKg782	III35区SK06			1.85	1.2	0.48
SKg783	III35区SK02	近世		3.15	2.2	0.26
SKg784	III35区	近世(19C)		0.8	0.75	0.18
SKg785	III35区SK12	近世(明治)		1.58	1.27	0.17
SKg786	III35区	弥生		1.5	0.65	0.15
SKg787	III35区			1.15	1	?
SKg788	III35区			2.3	1.7	0.56
SKg789	III35区SP24			0.8	0.65	0.23
SKg790	III35区SP26 ?			1.75	1.5	0.21
SKg791	III35区			0.75	0.7	0.09
SKg792	III35区			0.7	0.7	0.22
SKg793	III35区			1.85	1.55	0.3
SKg794	III35区SK04	近世		4.53	* 3.45	0.55
SKg795	III35区SK15	近世(明治前半)		1.64	1	0.15
SKg796	III35区SK14	近世		0.56	0.46	0.24
SKg797	III35区SK13	近世		1	1	0.4

第6表 土坑一覧表(15)

新遺構名	旧遺構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg798	III35区SK11	近世		1.78	1.5	0.44
SKg799	III35区SK10	近世(19C)		1.71	1.45	0.62
SKg800	III35区			0.8	0.75	0.12
SKg801	III35区			0.7	0.45	0.06
SKg802	III35区SX05	近世		1.8	1.7	0.55
SKg803	III35区			0.5	0.45	?
SKg804	III35区			0.8	0.7	0.37
SKg805	III35区SK09	近世		1.11	0.85	0.52
SKg806	III35区			0.7	0.7	0.23
SKg807	III35区SK09	近世		1.98	1.53	0.44
SKg808	III35区SK08			1.7	1.5	0.45
SKg809	III35区SK07	近世		1.9	1.25	0.26
SKg810	III35区			0.95	0.8	0.07
SKg811	III35区			0.7	0.7	0.08
SKg812	III36区SK03	近世		2.86	2.14	0.44
SKg813	III36区SK02・SK04	近世		* 3.08	1.98	0.97
SKg814	III36区			0.8	0.7	0.1
SKg815	III36区SK23	近世		0.83	0.81	0.22
SKg816	III36区SK24	近世		1.14	0.91	0.3
SKg817	III36区			4.15	1.2	0.24
SKg818	III36区SK05	共生		1.28	1.24	0.45
SKg819	III36区SK21	不明	炭片	3.2	2	0.5
SKg820	III36区			1	0.85	0.27
SKg821	III36区			1.1	1	0.24
SKg822	III36区SK10	不明	テカ瓦1点	1.15	1	0.42
SKg823	III36区			0.8	0.8	0.42
SKg824	III36区SK11	近世		* 1.33	1.19	0.2
SKg825	III36区			1.1	1	0.41
SKg826	III36区SK06	近世		0.77	0.7	0.26
SKg827	III36区SK08	近世		1.29	0.78	0.34
SKg828	III36区SK13	近世		0.85	0.8	0.38
SKg829	III36区SK12			1.15	0.85	0.5
SKg830	III36区			1.15	0.9	0.39
SKg831	III36区SK20	近世(明治)		4.33	2.94	0.6
SKg832	III36区			0.75	0.7	0.09
SKg833	III36区SK19	近世(明治)		3.9	* 2.65	0.16
SKg834	III36区			1.3	1.3	0.46
SKg835	III36区			1.55	1.25	0.31
SKg836	III36区			1.25	1.15	0.51
SKg837	III36区			0.9	0.7	0.23
SKg838	III36区SK16	近世		2.28	* 1.74	0.61
SKg839	III36区			1.3	1.25	0.337
SKg840	III36区SK14	近世?		1.82	1.67	0.6
SKg841	III36区			1	0.85	0.55
SKg842	III36区			1.75	1.3	0.72
SKg843	III36区SK18	近世		6.38	2.06	0.42
SKg844	III36区			1.4	0.75	0.12
SKg845	III36区			0.8	0.45	0.11
SKg846	III36区			1	1	0.11
SKg847	III36区			0.75	0.4	0.2
SKg848	III36区			1	0.65	0.15
SKg849	III36区			0.75	0.5	0.1
SKg850	III36区			1	0.85	0.34
SKg851	III36区			0.8	0.75	0.12
SKg852	III36区			1.75	0.25	?
SKg853	III36区SP20			0.75	1.14	0.43
SKg854	III36区・III39SK07			1.25	0.8	0.2

第6表 土坑一覧表(16)

新遺構名	旧遺構名	時期	遺構の性格	縦(m)	横(m)	深さ(m)
SKg855	III48区SX04	弥生?		2.4	0.7	0.11
SKg856	III48区SK01			0.5	0.4	0.5
SKg857	III48区SK02	弥生		1.66	0.49	0.27
SKg858	III48区SK02		遺物なし	1.6	0.8	0.21
SKg859	III48区SX03			0.7	0.3	0.14
SKg860	III39区SK41			1.4	1.1	0.16
SKg861	III39区SX01			3	1.75	0.06
SKg862	III39区SX03			1.8	1.35	0.34
SKg863	III39区SK36			1.98	1.47	0.22
SKg864	III39区SK37			1.7	1.65	0.34
SKg865	III39区SK38			1.56	1.06	0.2
SKg866	III39区SK32	近世		2.75	2.3	0.61
SKg867	III39区			1.3	* 1.0	0.12
SKg868	III39区SK34			0.9	0.35	0.28
SKg869	III39区SK35			0.7	0.65	0.28
SKg870	III39区SK23	近世		1.04	0.95	0.26
SKg871	III39区SK29	近世		0.8	0.75	0.15
SKg872	III39区			0.9	* 0.8	0.42
SKg873	III39区SK28			2.25	1.35	0.41
SKg874	III39区			4	2.6	0.7
SKg875	III39区			2.75	1.7	0.42
SKg876	III39区			1.5	1.5	0.61
SKg877	III39区			1.1	0.9	0.48
SKg878	III39区			0.9	0.8	0.37
SKg879	III39区			3.15	2.5	0.83
SKg880	III39区			0.8	0.75	0.32
SKg881	III39区			3.2	2.5	0.43
SKg882	III39区			2.5	2.5	0.47
SKg883	III39区			0.9	0.7	0.33
SKg884	III39区			1.1	1	0.51
SKg885	III39区SK22	近世		4.8	2.73	0.56
SKg886	III39区SK26			2.2	1.6	0.39
SKg887	III39区SK27			1.8	1.45	0.16
SKg888	III39区SK42	近世		2.46	1.96	0.54
SKg889	III39区SK18			1.8	1.8	0.73
SKg890	III39区			1.85	0.8	0.15
SKg891	III39区SK16	近世		1.43	1.36	0.71
SKg892	III39区SK15	近世		1.6	1.29	0.63
SKg893	III39区SK14			0.7	0.5	0.18
SKg894	III39区SK19			1.7	0.75	0.11
SKg895	III39区			0.75	0.7	0.23
SKg896	III39区SK20	近世		0.72	0.64	0.3
SKg897	III39区			0.4	0.8	?
SKg898	III39区SK21	近世		* 2.3	* 1.43	0.35
SKg899	III39区SK13			0.7	0.65	0.23
SKg900	III39区SK12			0.85	0.75	0.15
SKg901	III39区			0.8	0.8	0.23
SKg902	III39区SK02			1.7	1.2	0.45
SKg903	III39区SK03			2.65	1.8	0.38
SKg904	III39区SK05			1.8	0.7	0.1
SKg905	III39区SK04			0.7	0.7	0.43
SKg906	III39区SK06			1.2	0.75	0.3
SKg907	III39区SK09	中世		1.3	1.25	0.26
SKg908	III39区SK10			0.65	0.35	0.25
SKg909	III39区SK11			1.7	1.4	0.27

遺傳子	遺傳子名	種類No	器	種	口径	鉢高	底延	胎	土	地	色	調	外 面	圓	盤	内 面	圓	盤	焼仔平
256	SKg-3/06	49	灰生土器、燒過	器	3.5	高0.1~1.0mmの長石、赤色含む	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
257	SKg-3/19	50	灰生土器、灰	器	12.7	8.4	3.2	高0.1~1.0mmの長石、赤色含む	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		青灰、	青灰	青灰、	青灰	底部8/8
258	SKg-3/44	51	灰生土器、灰	器	35.6			高0.1~1.0mmの長石、赤色含む	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		青灰、	青灰	青灰、	青灰	底部1/8
259	SKg-3/88	52	灰生土器、器	器	28.5			高0.1~1.0mmの長石、灰、赤	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		青灰、	青灰	青灰、	青灰	口輪1/8
260	SKg-3/70	53	灰生土器、燒過	器	1.0	高0.1~2.0mmの長石、灰	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部6/8				
261	SKg-3/78	54	灰生土器、燒過	器	4.7	高0.1~1.5mmの長石、石英、黑	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		青灰、	青灰	青灰、	青灰	青灰	底部7/8	
262	SKg-3/79	55	灰生土器、青灰	器	20.6			高0.1~1.5mmの長石、長石、青灰	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		青灰、	青灰	青灰、	青灰	口輪1/8
263	SKg-3/81	56	灰生土器、青灰?	器	22.2			高0.1~1.5mmの長石、長石、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		青灰、	青灰	青灰、	青灰	口輪1/8
264	SKg-3/84	57	灰生土器、燒過	器	3.0	高0.1~1.0mmの長石、長石含む	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部6/8				
265	SKg-3/84	57	灰生土器、燒過	器	6.4	高0.1~1.5mmの長石、長石含む	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
266	SKg-3/90	58	灰生土器、青灰	器	6.6	高0.1~1.5mmの長石、長石、青灰	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
267	SKg-3/95	59	灰生土器、青灰	器	23.8			高0.1~1.5mmの長石、長石、青灰	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		底部8/8				
268	SKg-2/95	60	灰生土器、青灰	器	22.2			高0.1~1.5mmの長石、青灰、角閃石	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8		
269	SKg-3/97	60	灰生土器、青	器	13.2			高0.1~1.5mmの長石、青灰、角閃石	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8		
270	SKg-4/01	62	灰生土器、青	器	6.4	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青色含む	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
271	SKg-4/01	62	灰生土器、青	器	16.8	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
272	SKg-4/01	62	灰生土器、青	器	13.8	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
273	SKg-4/01	62	灰生土器、青	器	13.6	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
274	SKg-4/04	63	灰生土器、青	器	13.5	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
275	SKg-4/04	63	灰生土器、青	器	6.3	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
276	SKg-4/04	63	灰生土器、青	器	11.8	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
277	SKg-3/5	64	灰生土器、燒過	器	4.0	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
279	SKg-4/10	65	灰生土器、燒過	器	4.7	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
280	SKg-4/12	66	灰生土器、燒過	器	6.0	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部6/8				
281	SKg-4/14	67	灰生土器、燒過	器	3.0	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部6/8				
282	SKg-4/14	67	灰生土器、燒過	器	5.0	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部3/8				
283	SKg-4/15	68	灰生土器、青	器	14.4	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		口輪2/8				
284	SKg-4/15	68	灰生土器、青	器	14.8	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		口輪2/8				
285	SKg-4/15	68	灰生土器、青	器	13.5	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		口輪2/8				
286	SKg-4/15	68	灰生土器、青	器	6.3	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				
287	SKg-4/19	69	灰生土器、青	器	13.2	高0.1~1.5mmの長石、青灰、青	器	外腹、底白色YR 5/1	内腹、	青灰、	青灰		八ヶケズリ後縫隙さえ		底部8/8				

測定No.	測定名	標高(m)	透視	地質	岩層	露頭延長	露頭	土	地 質	色	調	外、面調査	内、面調査	検討
414	SDg04	136	赤褐色、黒	15.2	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、赤色N5/1 内面、灰白色	外観、灰白色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	口縫1/8	
415	SDg01	136	灰褐色、緑	5.5	等厚0.25m前後の火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/6 内面、灰白色	外観、灰白色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物6/8	
416	SDg04	136	灰褐色、緑	6.2	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、赤色N5/1 内面、灰白色	外観、赤色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物2/8	
417	SDg04	136	灰褐色、黒	26.4	等厚0.25m前後の火成、長石結合	良好	外観、赤色N5/1 内面、灰白色	外観、赤色N5/2 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
418	SDg09	136	灰褐色、黒	6.2	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、赤色N5/2 内面、灰白色	外観、赤色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
419	SDg30	136	土砂質、灰	7.9	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、赤色N5/2 内面、灰白色	外観、赤色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物3/8	
420	SDg30	136	土砂質、灰	11.2	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、赤色N5/2 内面、灰白色	外観、赤色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物3/8	
421	SDg30	136	土砂質、黒	6.3	等厚0.1~0.6mの火成、長石、火成岩	良好	外観、赤色N5/2 内面、灰白色	外観、赤色N5/3 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
422	SDg28	136	黑色、褐、褐	12.5	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、黒褐色N5/1 内面、灰白色	外観、黒褐色N5/2 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
423	SDg28	136	土砂質、灰	5.7	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/3 内面、灰白色	外観、灰白色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物2/8	
424	SDg30	136	土砂質、灰	7.4	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/4 内面、灰白色	外観、灰白色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
425	SDg30	136	土砂質、灰	1.0	等厚0.1~0.6mの火成、長石、火成岩	良好	外観、灰白色N5/4 内面、灰白色	外観、灰白色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
426	SDg30	136	土砂質、黒	6.2	等厚0.1~0.6mの火成、長石、火成岩	良好	外観、黒褐色N5/1 内面、灰白色	外観、黒褐色N5/2 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
427	SDg30	136	土砂質、灰	7.2	等厚0.1~1.0mの火成、長石、火成岩	良好	外観、灰白色N5/3 内面、灰白色	外観、灰白色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
428	SDg30	136	土砂質、黒	8.7	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/6 内面、灰白色	外観、灰白色N5/8 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
429	SDg30	136	土砂質、黒	8.3	等厚0.1~0.6mの火成、長石、火成岩	良好	外観、灰白色N5/7 内面、灰白色	外観、灰白色N5/8/2 内面、灰白色	「薄荷緑鉄ナメル」風化面をへき裂り、深成	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
430	SDg30	136	土砂質、黒	6.2	等厚0.1~0.6mの火成、長石、火成岩	良好	外観、灰白色N5/8/3 内面、灰白色	外観、灰白色N5/9/2 内面、灰白色	「薄荷緑鉄ナメル」風化面をへき裂り、深成	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
431	SDg30	136	土砂質、台付黒	8.4	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、黒褐色N5/1 内面、灰白色	外観、黒褐色N5/2 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
432	SDg30	136	土砂質、黒	37.4	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/3 内面、灰白色	外観、灰白色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
433	SDg30	136	土砂質、羽茎	30.2	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/3 内面、灰白色	外観、灰白色N5/6 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
434	SDg30	136	土砂質、黒	12.8	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/4 内面、灰白色	外観、灰白色N5/6/2 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
435	SDg30	136	土砂質、黒	12.2	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/4 内面、灰白色	外観、灰白色N5/6/3 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
436	SDg30	136	土砂質、灰	7.9	等厚0.1~1.0mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/7 内面、灰白色	外観、灰白色N5/8/3 内面、灰白色	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物2/8	
437	SDg30	136	羽茎質、灰	15.8	等厚0.2~0.5mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/8/3 内面、灰白色	外観、灰白色N5/9/2 内面、灰白色	「薄荷緑鉄ナメル」風化面をへき裂り、深成	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
438	SDg31	137	土砂質、灰	14.4	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/8/3 内面、灰白色	外観、灰白色N5/9/3 内面、灰白色	「薄荷緑鉄ナメル」風化面をへき裂り、深成	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物4/8	
439	SDg31	137	土砂質、黒	13.0	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/8/3 内面、灰白色	外観、灰白色N5/9/4 内面、灰白色	「薄荷緑鉄ナメル」風化面をへき裂り、深成	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
440	SDg33	137	黑色、褐、褐	5.2	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/9/3 内面、灰白色	外観、灰白色N5/10/3 内面、灰白色	「薄荷緑鉄ナメル」風化面をへき裂り、深成	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物8/8	
441	SDg26	137	土砂質上層、灰	7.1	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/9/3 内面、灰白色	外観、灰白色N5/10/3/2 内面、灰白色	「薄荷緑鉄ナメル」風化面をへき裂り、深成	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物2/8	
442	SDg27	137	土砂質上層、灰	7.1	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/9/6/6 内面、灰白色	外観、灰白色N5/9/6/6 内面、灰白色	「薄荷緑鉄ナメル」風化面をへき裂り、深成	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物1/8	
443	SDg27	137	土砂質十層、灰	7.3	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/9/6/6 内面、灰白色	外観、灰白色N5/9/7/6 内面、灰白色	「薄荷緑鉄ナメル」風化面をへき裂り、深成	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物2/8	
444	SDg37	137	土砂質上層、黒	5.1	等厚0.1~0.6mの火成、長石結合	良好	外観、灰白色N5/9/7/8 内面、灰白色	外観、灰白色N5/9/8/9 内面、灰白色	「薄荷緑鉄ナメル」風化面をへき裂り、深成	無鉱物	無鉱物	無鉱物	無鉱物2/8	

規格番号	規格名	規格仕様	種類	標準	上記	規格	上記	規格	上記	規格	外観	内観	調査	検査
											土	砂	石	外
445	SDS-29	上級質土砿、灰	砂	6.2	6.0	6.1	6.0	6.1	6.0	6.1	外観: にぶい茶色の7R 6/3 内観: にぶい茶色の7R 7/4	細粒ナメ	同上+ナメ	無評2/8
446	SDS-29	灰色上層、灰	砂	6.0	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	タキシダナメ	青苔、 黒苔、 白苔、 緑苔	高台1/8
447	SDS-29	劣等質土砿、灰	砂	6.0	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	タキシダナメ	同上+ナメ	無評1/8
448	SDS-33	上級砂、小石	砂	6.5	5.0	5.2	5.0	5.2	5.0	5.2	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済2/8
449	SDS-33	土砂砿、小石	砂	5.5	0.8	4.7	5.5	0.8	5.5	0.8	外観: にぶい茶色の7R 6/3 内観: にぶい茶色の7R 7/4	細粒ナメ	同上+ナメ	口済4/8
450	SDS-33	土砂砿、小石	砂	6.0	0.8	4.3	6.0	0.8	6.0	0.8	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	山渓3/8
451	SDS-5	上級砂、灰	砂	8.4	2.0	4.4	8.4	2.0	8.4	2.0	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済1/8
452	SDS-5	劣等砂、灰	砂	8.5	1.5	4.0	8.5	1.5	8.5	1.5	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済2/8
453	SDS-64	燒變器、灰	砂	11.0	—	—	11.0	—	11.0	—	外観: 茶色の6Y 6/6 内観: 茶色の6Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	山渓1/8
457	SKG-14	上級砂、灰	砂	12.8	—	—	12.8	—	12.8	—	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済1/8
458	SKG-115	劣等土砿、灰	砂	22.4	—	—	22.4	—	22.4	—	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済6/8
459	SKG-16	上級砂、灰	砂	35.6	—	—	35.6	—	35.6	—	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済2/8
460	SKG-673	土砂質土砿、灰	砂	6.1	0.1	0.0mmの石粉、良石、灰	6.1	0.1	0.0mmの石粉、良石、灰	6.1	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	高台2/8
461	SEG-07	土砂砿、灰	砂	11.0	2.7	6.8	11.0	2.7	6.8	11.0	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	5/8
462	SEG-07	土砂砿、灰	砂	11.0	2.7	5.6	11.0	2.7	5.6	11.0	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	4/8
463	SEG-07	土砂砿、灰	砂	10.2	2.4	6.0	10.2	2.4	6.0	10.2	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済2/8
464	SEG-07	上級砂、灰	砂	12.5	3.1	7.4	12.5	3.1	7.4	12.5	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	7/8
465	SEG-07	上級砂、灰	砂	10.2	2.3	6.5	10.2	2.3	6.5	10.2	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済2/8
466	SEG-07	土砂砿、灰	砂	12.2	2.9	7.1	12.2	2.9	7.1	12.2	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済2/8
467	SEG-07	土砂砿、灰	砂	10.4	2.6	6.6	10.4	2.6	6.6	10.4	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	山渓2/8
468	SEG-07	土砂砿、灰	砂	10.9	2.2	7.5	10.9	2.2	7.5	10.9	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	底地1/8
469	SEG-07	土砂砿、灰	砂	11.5	—	7.1	11.5	—	7.1	11.5	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	底地1/8
470	SEG-07	土砂砿、灰	砂	11.5	—	7.1	11.5	—	7.1	11.5	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	底地1/8
471	SEG-07	土砂砿、灰	砂	7.2	—	7.2	7.2	—	7.2	7.2	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	底地1/8
472	SEG-07	土砂砿、灰	砂	6.5	1.2	5.7	6.5	1.2	5.7	6.5	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	底地1/8
473	SEG-07	土砂砿、小石	砂	6.7	1.2	5.0	6.7	1.2	5.0	6.7	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	底地1/8
474	SEG-07	十倍砿、灰	砂	6.9	1.3	5.4	6.9	1.3	5.4	6.9	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	底地1/8	底地2/8
475	SEG-07	十倍砿、灰	砂	7.0	1.4	5.6	7.0	1.4	5.6	7.0	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	底地1/8	底地2/8
476	SEG-07	土砂砿、小石	砂	6.7	1.0	4.8	6.7	1.0	4.8	6.7	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	8/8
477	SEG-07	十倍砿、小石	砂	6.1	0.7	3.0	6.1	0.7	3.0	6.1	外観: 茶色の5Y 6/6 内観: 茶色の5Y 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済4/8
478	SEG-07	土砂砿、小石	砂	6.4	1.0	4.2	6.4	1.0	4.2	6.4	外観: にぶい茶色の7R 6/6 内観: にぶい茶色の7R 7/6	細粒ナメ	同上+ナメ	口済4/8

標本名	通称名	科	種	門後	密筒	筒	前	十	地	色	調	外 國 調 命	内 國 調 命	供評
519 SDg/02	156 通称、林	17.9	精緻	良好	纵带。あざやか青色5B5.5/7	精緻	地紋不明		地	白	116	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
520 SDg/02	156 通称、湖	1.65	圓筒或合	良好	通称。白。白色N5.5/3	精緻	白。高台海藻地		地	白	1/8	「白」/「白」	高台 1/8	
521 SDg/02	156 通称、湖	1.9	筒	良好	通称。白色N5.5/3	精緻	地紋不明		地	白	4/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
522 SDg/02	156 通称、林	1.73	筒	良好	通称。白色N5.5/3	精緻	地紋不明		地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
523 SDg/02	156 通称、湖	1.63	筒	良好	通称。白色N5.5/3	精緻	地紋不明		地	白	2/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
524 SDg/02	156 通称、林	16.4	精緻	良好	通称。白色N5.5/3	精緻	地紋不明		地	白	5/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
525 SDg/02	156 通称海藻、茎	19.6	筒	良好	通称。白色N5.5/3	精緻	地紋不明		地	白	5/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
526 SDg/02	156 上部質土著、林	15.9	11.0	良好	通称。白色N5.5/3	精緻	地紋不明		地	白	5/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
527 SDg/02	156 下部質土著、樹林	1.65	筒	良好	通称。白色N5.5/3	精緻	地紋不明		地	白	5/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
528 SDg/05	159 精緻、湖	9.8	4.6	3.4	精緻	通称。あざやか青色S5.5/5	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8
339 SDg/05	159 精緻、湖	3.3	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/0	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	4/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
540 SDg/05	159 精緻、林	4.5	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/7	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	5/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
541 SDg/05	159 精緻、湖	10.1	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/2	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
542 SDg/05	159 精緻、湖	4.4	精緻	良好	通称。灰白色N	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	3/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
543 SDg/05	159 精緻、湖	5.1	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/7	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	3/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
544 SDg/05	159 精緻、湖	4.9	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/4	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	3/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
545 SDg/05	159 精緻、湖	3.7	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/3	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	3/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
546 SDg/05	159 精緻、湖	3.8	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/6	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	3/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
347 SDg/05	159 精緻、小輪	5.6	3.2	2.0	精緻	通称。あざやか青色6	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	7/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8
548 SDg/05	159 精緻、小輪	5.8	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/7	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	2/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
349 SDg/05	159 精緻、小輪	6.7	5.8	4.5	精緻	通称。あざやか青色S5.5/4/4	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	5/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8
550 SDg/05	159 精緻、通称	5.2	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/3	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	4/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
551 SDg/05	159 精緻、通称	10.1	精緻	良好	通称。白色N5.5/5	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
552 SDg/05	159 精緻、湖	14.0	精緻	良好	通称。あざやか青色6	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
553 SDg/05	159 精緻、林	15.1	精緻	良好	通称。あざやか青色6	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
554 SDg/05	159 精緻、湖	9.2	5.4	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/3	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8
555 SDg/05	159 精緻、湖	9.6	2.2	4.4	精緻	通称。あざやか青色S5.5/5/2/5	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8
556 SDg/05	159 精緻、湖	5.5	2.3	5.9	精緻	良好	通称。あざやか青色6	精緻	地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
557 SDg/05	159 精緻、香草	5.6	3.3	2.2	精緻	良好	通称。あざやか青色S5.5/5/2/5	精緻	地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
558 SDg/05	159 精緻、林	5.4	精緻	良好	通称。あざやか青色5YR 2/1	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	1/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	
559 SDg/05	159 精緻、香草	4.8	精緻	良好	通称。あざやか青色N 7/5	精緻	地紋未詳文/高台海藻地		地	白	8/8	「白」/「白」/「白」	高台 1/8	

測定箇所	測定名	器	種	門性	群系	方法	土	地成	色	調査	外因調査	内因調査	検査
591 SDg05	161	网格、光		35.6	外層、 0.5~1.5cm の石、 砾石、 砂	透視 法	外層、 0.5~1.5cm の石、 砾石、 砂	良好	赤 外線 による 反射率 測定 法	ごとに赤 色の 5YR 2/1 が 多い。	地成地 質／透視 法	CI 値 2.8	
592 SDg05	162	透視陶器、透井		15.2	5.3	15.4	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 2.8	
593 SDg05	162	透視陶器、透井		12.4			外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
594 SDg05	162	透視陶器、透井		5.6			外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 6.8	
595 SDg05	162	透視陶器、透井		10.6	16.1	10.2	透井	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 6.8	
596 SDg05	162	透視陶器、透井		10.3			外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 4.8	
597 SDg05	162	透視陶器、透井		28.4			外層、 0.5~1.5cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.5cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
598 SDg05	162	透視陶器、透井		33.6			外層、 0.5~1.5cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.5cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 2.8	
599 SDg05	162	透視陶器、透井		30.0			外層、 0.5~1.5cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.5cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 2.8	
600 SDg05	162	透視陶器、透井		33.9			外層、 0.5~1.5cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.5cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
601 SDg05	163	土壤質土器、瓦		5.3	1.0	2.4	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
602 SDg05	163	七土質土器、七土		24.0			外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
603 SDg05	163	土壤質土器、七土		22.6			外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
604 SDg05	163	瓦質土器、透井		31.7			外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 6.8	
605 SDg05	163	土壤質土器、瓦合		1.7	11.2	1.1	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 4.8	
610 107	164	陶器、灰		6.4			透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
611 SDg05	164	陶器、灰		9.8	1.7	3.1	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
612 SDg05	164	十土質土器、瓦		32.1			透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
613 SDg05	164	瓦質土器、瓦		21.4			透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
614 SDg05	165	透井、灰		7.0	3.2	2.9	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 4.8	
615 SDg05	165	透井、灰		9.0	4.8	2.5	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 4.8	
616 SDg05	165	透井、灰		8.6	4.9	2.6	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 4.8	
617 SDg05	165	透井、灰		14.2			透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	
618 SDg05	165	透井、灰		3.3			透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 4.8	
619 SDg05	165	透井、灰		10.6	5.6	3.7	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 4.8	
620 SDg05	165	透井、灰		9.3	5.0	3.8	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 4.8	
621 SDg05	165	透井、灰		10.4	6.0	4.3	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 4.8	
622 SDg05	165	透井、灰		9.6	5.0	3.6	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 7.8	
623 SDg05	165	透井、灰		4.1			透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 2.8	
624 SDg05	165	透井、灰		11.2	5.6	4.5	透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 3.8	
625 SDg05	165	透井、灰		3.0			透井合む	良好	外層、 0.5~1.0cm の石、 砾石、 砂	透視 法	地成地 質／透視 法	CI 値 1.8	

通称名	学名	产地	外 面 脊 块			内 面 脊 块			特征	
			形状	幅	厚度	形状	幅	厚度		
626 SDb29	165 組織、輪	10.5 5.6 3.7	梯級	10.5	5.6	梯級	10.5	5.6	良好	乳頭、口部N9.5/14 乳頭、白色S.5B.4/4 斜
627 SDb29	165 組織、輪	4.1	梯級	10.3	5.4	梯級	良好	乳頭、白色S.5B.4/4 斜	良好	乳頭、上部黄色S.5B.4/4 斜
628 SDb29	165 組織、輪	5.8	梯級	良好	乳頭、白色S.5B.5/15	梯級	良好	乳頭、白色S.5B.5/15	良好	乳頭、多頭輪狀、斜、輪台面輪狀
629 SDb29	165 組織、輪	10.5	梯級	良好	乳頭、白色S.5B.4/3	梯級	良好	乳頭、白色S.5B.4/3	良好	乳頭、多頭輪狀+斜、輪台面輪狀
630 SDb29	165 組織、輪	2	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、多頭輪狀+斜、輪台面輪狀
631 SDb29	165 組織、輪	3.0	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、多頭輪狀+斜、輪台面輪狀
632 SDb29	165 組織、輪	4.2	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、多頭輪狀+斜、輪台面輪狀
633 SDb29	165 組織、輪	10.4 5.7 3.6	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
634 SDb29	165 組織、輪	8.6 4.1 3.3	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
635 SDb29	165 組織、輪	10.7	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
636 SDb29	165 組織、輪	10.5	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
637 SDb29	165 組織、輪	3.5	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
638 SDb29	165 組織、輪	8.2	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
639 SDb29	165 組織、輪	8.5 5.0 2.7	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
640 SDb29	165 組織、輪	4.0	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
641 SDb29	166 組織、輪	10.5 5.9 3.6	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
642 SDb29	166 組織、輪	10.4	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
643 SDb29	166 組織、輪	10.5	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
644 SDb29	166 組織、輪	3.6	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
645 SDb29	166 組織、輪	11.2 4.3 3.8	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
646 SDb29	166 組織、輪	3.4	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
647 SDb29	166 組織、輪	11.4 6.0 3.9	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
648 SDb29	166 組織、輪	10.8	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
649 SDb29	166 組織、輪	9.8 5.7 5.0	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
650 SDb29	166 組織、輪	5.3	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
651 SDb29	166 組織、輪	9.6 5.2 6.2	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
652 SDb29	166 組織、輪	5.2	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
653 SDb29	166 組織、輪	10.0 5.6 4.9	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
654 SDb29	166 組織、輪	10.4 6.2 5.6	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
655 SDb29	166 組織、輪	11.1	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜
656 SDb29	166 組織、輪	4.3	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	梯級	良好	乳頭、白色N9.5/14	良好	乳頭、色乳頭、斜台面輪狀、斜

植物名	種別	西 地	日本 地	引注	基原	产地	始 土	收 藏	四 色		外 面 調 查	内 面 調 查	異常	
									根	莖	葉	花		
668	SDg29	168	根茎、根		良好	株頂の葉の裏面の青い斑紋	5.6	根被	良好	根被、葉の裏面の青い斑紋	5.6	根被、葉の裏面の青い斑紋	良好	体透り
689	SDg29	168	根茎、莖		良好	良好	—	根被	4.8	良好	良好	良好	良好	角合
690	SDg29	168	根茎、灰吹木		良好	良好	—	根被	4.6	良好	良好	良好	良好	角合
691	SDg29	168	根茎、水滴		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
692	SDg29	168	根茎、水滴		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
693	SDg29	168	根茎、水滴		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
694	SDg29	168	根茎、紅葉		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
695	SDg29	168	根茎、紅葉		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
696	SDg29	168	根茎、葉		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
697	SDg29	168	根茎、仏頂盃		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
698	SDg29	168	根茎、仏頂盃		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
699	SDg29	168	根茎、仏頂盃		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
700	SDg29	168	根茎、入毛		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
701	SDg29	168	用器、小秆		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
702	SDg29	168	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
703	SDg29	168	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
704	SDg29	168	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
705	SDg29	168	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
706	SDg29	168	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
707	SDg29	168	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
708	SDg29	168	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
709	SDg29	168	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
710	SDg29	168	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
711	SDg29	168	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
712	SDg29	169	用器、小櫻		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
713	SDg29	169	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
714	SDg29	169	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
715	SDg29	169	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
716	SDg29	169	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
717	SDg29	169	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合
718	SDg29	169	用器、破		良好	良好	—	根被	良好	良好	良好	良好	良好	角合

通称名	種類名	苗	根	口徑	鉢高	盆径	鉢	土	液	色	調	外	内	面	側	葉
781	SDg29	173	陶器、平鍋	3.6	青		DNf	植木液青色5YR 8/3	土上、灰	苗株/盆液青色		地化	地化	日焼	高台/日焼	
782	SDg29	173	陶器、弘法瓦	7.5			DNf	植木液青色5YR 8/2		苗株/盆液青色		地化	地化	日焼	高台/日焼	
783	SDg29	173	陶器、瓦	5.8			DNf	植木液青色5YR 7/5		苗株/盆液青色		地化	地化	日焼	高台/日焼	
784	SDg29	173	陶器、板	2.9			DNf	植木液青色5YR 8/5		苗株/盆液青色		地化	地化	日焼	高台/日焼	
785	SDg29	173	陶器、灯火4	7.0	4.9	4.3	青	良好	植木液青色5YR 8/5	土上、灰	苗株/盆液青色/高台露地、田辺ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日焼ナダ?
786	SDg29	173	陶器、灯火4	7.4	4.9	4.7	青	良好	植木液青色5YR 7/2	土上、灰	苗株/盆液青色タケツリ/無虫害		地化	地化	日焼	高台/日焼
787	SDg29	173	陶器、灯光3	7.5	4.8	5.0	苗	良好	植木液青色5YR 7/1	土上、灰	苗株/盆液青色		地化	地化	日焼	高台/日焼
788	SDg29	173	陶器、弘法瓦	3.7			DNf	植木液青色5YR 8/4	土上、灰	苗株/盆液青色/無虫害		地化	地化	日焼	高台/日焼	
789	SDg29	173	陶器、火人丸・香炉	5.3			DNf	植木液青色5YR 8/2		苗株/盆液青色/留り残り無虫害/直向露地、田		地化	地化	日焼	高台/日焼	
790	SDg29	173	陶器、行燈4				DNf	植木液青色5YR 6/2		苗株/盆液青色/地下排水不良、入野等海岸地		地化	地化	日焼	高台/日焼	
791	SDg29	173	軒窓陶器、盆				DNf	植木液青色5YR 6/2		苗株/盆液青色/直向露地、田		地化	地化	日焼	高台/日焼	
792	SDg29	173	軒窓陶器、茶釜				DNf	植木液青色5YR 6/3		苗株/盆液青色/直向露地、深堀ト直向露地地		地化	地化	日焼	高台/アラビア海岸用栽培地	
793	SDg29	173	陶器、碗	10.3	5.1	4.5	青	良好	植木液青色5YR 8/2	土上、灰	苗株/盆液青色/留り残り直向露地、田		地化	地化	日焼	高台/日影/2箇所
794	SDg29	173	陶器、碗	10.4	4.9	4.8	青	良好	植木液青色5YR 7/2	土上、灰	苗株/盆液青色/地下排水不良、入野等海岸地		地化	地化	日焼	高台/日影
795	SDg29	173	陶器、浅鉢	13.8	6.6	13.3	青	良好	植木液青色5YR 5/3	土上、灰	苗株/盆液青色/直向露地、2角小鉢		地化	地化	日焼	高台/日影
796	SDg29	173	陶器、浅鉢	12.1	6.2	12.6	青や白	良好	植木液青色5YR 4/3	土上、灰	苗株/盆液青色/直向露地、2角小鉢		地化	地化	日焼	高台/日影
797	SDg29	173	陶器、火人丸	9.2			DNf	植木液青色5YR 5/2	土上、灰	苗株/盆液青色/直向露地、2角小鉢		地化	地化	日焼	高台/日影	
798	SDg29	173	陶器、火人丸	7.2			DNf	植木液青色5YR 4/3	内面、灰	苗株/盆液青色及び盆栽文/底面均勾		地化	地化	日焼	高台/日影	
799	SDg29	173	陶器、火人丸	10.6			DNf	植木液青色5YR 4/2	内面、灰	苗株/盆液青色/底面均勾		地化	地化	日焼	高台/日影	
800	SDg29	173	軒窓陶器、小鉢	6.7			DNf	植木液青色5YR 5/6	内面、灰	苗株/盆液青色/直向露地、2角小鉢		地化	地化	日焼	高台/日影	
801	SDg29	173	軒窓陶器、蓋	7.7	1.4	2.7	青	良好	植木液青色5YR 5/6	内面、灰	苗株/盆液青色/直向露地、2角小鉢		地化	地化	日焼	高台/日影
802	SDg29	174	陶器、灯明4	10.0			DNf	植木液青色5YR 8/3	内面、灰	苗株/盆液青色/直向露地ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日影	
803	SDg29	174	軒窓陶器、蓋				DNf	植木液青色5YR 8/3	内面、灰	苗株/盆液青色/直向露地ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日影	
804	SDg29	174	陶器、杯				DNf	植木液青色5YR 8/3	内面、灰	苗株/盆液青色/直向露地ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日影	
805	SDg29	174	陶器、杯	4.4			DNf	植木液青色5YR 7/1	土上、灰	苗株/盆液青色/直向露地ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日影	
806	SDg29	174	陶器、杯	14.1			DNf	植木液青色5YR 5/4	土上、灰	苗株/盆液青色/直向露地ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日影	
807	SDg29	174	陶器、土瓶		8.0		DNf	植木液青色5YR 4/4		苗株/盆液青色/直向露地ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日影	
808	SDg29	174	陶器、盖		8.0		DNf	植木液青色5YR 4/2		苗株/盆液青色/直向露地ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日影	
809	SDg29	174	陶器、浅鉢		9.0		DNf	植木液青色5YR 4/3		苗株/盆液青色/直向露地ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日影	
810	SDg29	174	軒窓陶器、十鉢	10.8	青		DNf	植木液青色5YR 3/3		苗株/盆液青色/直向露地ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日影	
811	SDg29	174	陶器、蓋	28.1	合計		DNf	植木液青色5YR 4/4	内面、灰	苗株/盆液青色/直向露地ケズリ		地化	地化	日焼	高台/日影	

地番	通称名	種別No.	種	情	口径	高さ	底径	施上	地質	色調		外、面、裏、壁		内面調整	操作部
										青	黄	赤	緑		
812	砂場	SDg29	174	軽量砂場、重				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
813	同上、化粧	SDg29	174	同上、化粧				青	重質粘土	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
814	同上、砂場	SDg29	173	同上、砂場				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
815	同上、砂場、排水	SDg29	175	同上、砂場、排水				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
816	同上、砂場、排水	SDg29	175	同上、砂場、排水				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
817	同上、排水	SDg29	175	同上、排水				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
818	同上、排水	SDg29	175	同上、排水				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
819	同上、排水	SDg29	175	同上、排水				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
820	同上、排水	SDg29	175	同上、排水				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
821	同上、排水	SDg29	175	同上、排水				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
822	同上、排水	SDg29	176	同上、排水				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
823	同上、排水	SDg29	176	同上、排水				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
824	同上、排水	SDg29	176	同上、排水				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
825	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
826	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
827	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
828	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
829	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
830	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
831	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
832	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
833	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
834	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
835	同上、排水	SDg29	177	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
836	同上、排水	SDg29	178	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
837	同上、排水	SDg29	178	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
838	同上、排水	SDg29	178	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
839	同上、排水	SDg29	178	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
840	同上、排水	SDg29	178	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
841	同上、排水	SDg29	178	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ
842	同上、排水	SDg29	179	同上、排水、砂井				青	0.1~2 m の石灰、灰岩、砂	良好				洗刷、拭き取り	圓筒ナダ

規格名	標準名	番号	色	地	土	粒度	外、内面調査		内面調整	残存率
							色	調		
規格名: 遊標名	標準名: 遊標名	11#遊標名	白系	白色	白色	5.6	粗粒	良好	白色、こなった質感のYR 7/14 色	無
881	SDg#17	187	細粒、小粒	7.4	5.6	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	高台 2.8
882	SDg#17	187	開口部、棒	8.2	4.2	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	高台 3.8
883	SDg#17	187	開口部、灯油孔	8.2	1.9	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	無
884	SDg#17	187	開口部、灯油孔	7.4	5.1	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	無
885	SDg#17	187	開口部、灯油孔	7.3	4.9	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
886	SDg#17	187	開口部、灯油孔	7.3	4.8	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
887	SDg#17	187	開口部、油孔	5.6	5.6	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
888	SDg#17	187	開口部、油孔	3.4	3.4	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
889	SDg#17	187	開口部、油孔	3.2	3.2	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
890	SDg#17	187	開口部、油孔	18.1	18.1	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
900	SDg#17	187	開口部、油孔	18.6	18.6	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
901	SDg#17	187	土嚢土筒、蓋	74.0	74.0	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
902	SDg#17	187	土嚢土筒、蓋	39.5	39.5	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
903	SDg#17	187	瓦、瓦棒、瓦棒	46.5	46.5	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
904	SDg#17	187	瓦、瓦棒、瓦棒	4.5.5	4.5.5	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
905	SDg#17	188	土嚢土筒、杆型	1.88	1.88	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
906	SDg#17	188	土嚢土筒、上管	36.8	36.8	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
907	SDg#17	188	土嚢土筒、下管	12.6	12.6	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
908	SDg#17	188	土嚢土筒、上管	16.8	16.8	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
909	SDg#17	188	土嚢土筒、七面	21.6	21.6	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
910	SDg#17	188	土嚢土筒、七面	19.6	7.1	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
911	SDg#17	189	土嚢土筒、五面	30.0	30.0	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
912	SDg#17	189	土嚢土筒、五面	26.2	5.6	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
913	SDg#18	190	收音機器、筒体	34.6	4.2	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
916	SDg#16	191	扭索、筒	29.8	3.8	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
917	SDg#16	191	口沿、筒	21.5	2.6	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
918	SDg#16	191	扭索、火入筒	10.2	8.0	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
919	SDg#16	191	扭索、火入筒	9.3	7.9	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
920	SDg#16	191	扭索、火入筒	16.7	16.7	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
921	SDg#16	192	扭索、筒	4.8	4.8	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
922	SDg#16	192	扭索、筒	3.4	3.4	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8
923	SDg#16	192	筒体、筒	3.4	3.4	粗粒	良好	白色、白い質感のYR 7/14 色	無	「横6」/8

地質名	岩層名	種別	層	巖層	岩質	上	地底	色	調	外 国 調 査	内 地 調 査
SD65	192	角岩、林		8.2	粘板		QNF	褐色、オリーブ色5Y7/3	1.1	体積実測断面/高さ断面、同様ケタリ	塊存半
SD66	192	角岩、灯明岩	7.9	5.1	圓柱状含む		QNF	褐色5Y7/4	1.6	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	西台2/8
SD68	192	角岩、向巻、透	7.8		粘板		QNF	褐色5Y7/6	1.6	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	8/8
SD69	192	角岩、向巻、透	15.6		微砂粒含む		良好	褐色5Y7/4	1.7	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	口縫1/8
SD70	192	角岩、林	40.4				QNF	褐色5Y7/3	1.7	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	口縫1/8
SD71	192	角岩、透	19.6	19.6	圓柱状含む		良好	褐色5Y7/2	2.2	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	1/8
SD72	192	角岩、透、火	26.1		質:0.1~2mmの石英、長石粒等		良好	褐色5Y7/6	2.6	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	高台4/8
SD73	192	角岩向巻、透林	37.8		含む:0.1~3mmの石英、長石		良好	褐色5Y7/5	3.6	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	口縫1/8
SD74	193	十種質火巻、火管	31.6		質:0.1~5mmの石英、長石、黑		良好	褐色5Y7/6	4.6	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	山縫2/8
SD75	193	瓦質火巻、粘	13.6		質:0.1~1mmの石英、長石、黑		良好	褐色5Y7/8	4.8	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	山縫1/8
SK674	195	土質質火巻、火粘	42.0		質:0.1~3mmの石英、長石、黑		良好	褐色5Y7/1	1.6	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	細片
SK677	196	十種質火巻、火粘	38.0		質:0.1~2mmの石英、長石		良好	褐色5Y7/0	4.2	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	板ナメ
SK678	197	角岩、林	20.7	8.4	粘板		好	褐色5Y7/9	8/3	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	高台8/8
SK679	199	十種質火巻、火粘	35.2		質:0.1~1mmの石英、長石、黑		良好	褐色5Y7/6	6/6	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	口縫1/8
SK680	199	土質質火巻、黄	25.2		質:0.1~2mmの石英、長石		良好	褐色5Y7/6	6/4	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	細片
SK681	199	土質質火巻、黄	31.2	31.2	質:0.1~2mmの石英、長石		良好	褐色5Y7/4	7/4	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	口縫1/8
SK682	199	瓦質火巻、老手	10.9	2.3	粘板		好	褐色5Y7/2	8/3	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	8/8
SK683	201	角岩、林	15.8	6.9	4.4		好	褐色5Y7/0	8/2	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	山縫2/8
SK684	201	角岩、林	33.0		質:0.1~2mmの石英、長石粒含		良好	褐色5Y7/5	5/6	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	1/8
SK685	201	角岩、林	22.9	22.9	質:0.1~2mmの石英、長石粒含		良好	褐色5Y7/6	6/6	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	細片
SK686	201	角岩、林	9.1	5.0	3.6		好	褐色5Y7/5	4/4	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	口縫2/8
SK687	201	角岩、林	9.0		粘板		良好	褐色5Y7/5	4/4	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	山縫1/8
SK688	201	角岩、小火	7.7	3.6	粘板		良好	褐色5Y7/5	4/4	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	高台4/8
SK689	201	角岩、小火	9.4	5.0	3.6		好	褐色5Y7/6	4/2	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	口縫1/8
SK690	201	角岩、小火	9.6	4.1	粘板		好	褐色5Y7/5	4/2	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	口縫2/8
SK691	201	角岩、火粘	8.0	4.2	粘板		好	褐色5Y7/5	4/4	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	山縫3/8
SK692	201	角岩、火粘	10.9	6.1	3.6		良好	褐色5Y7/5	4/4	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	口縫2/8
SK693	201	角岩、火粘	10.8		粘板		好	褐色5Y7/5	4/4	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	山縫1/8
SK694	201	角岩、火粘	1.2		粘板		良好	褐色5Y7/5	4/4	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	西台3/8
SK695	201	角岩、火粘	4.1		粘板		好	褐色5Y7/5	5/2	「門谷断面」ナメル/「高谷断面」ナメル	細片

外 面 国 文										内 田 澄 堂		执行率
地名		区画		門番		番号		施設		地名		执行率
964 SKg783 201	組場, 岡	9.8	5.2	4.2	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	高台 1/8
965 SKg783 201	組場, 岡	9.8	5.2	3.6	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	「山」牌 4/8
966 SKg783 201	組場, 岡	—	—	4.1	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	高台 5/8
967 SKg783 201	組場, 岡	—	—	3.6	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	高台 4/8
968 SKg783 201	組場, 岡	—	—	4.0	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	高台 5/8
969 SKg783 201	組場, 岡	10.5	6.4	3.4	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	口標 6/8
970 SKg783 201	組場, 岡	—	—	3.8	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	高台 8/8
971 SKg783 201	組場, 岡	—	—	3.8	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	高台 6/8
972 SKg783 201	組場, 岡	—	—	3.2	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	高台 5/8
973 SKg783 201	組場, 岡	—	—	5.5	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	高台 4/8
974 SKg783 201	組場, 岡	—	—	6.3	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	高台 4/8
975 SKg783 201	組場, 岡	—	—	5.8	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	高台 4/8
976 SKg783 201	組場, 岡	—	—	4.8	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	口標 3/8
977 SKg783 202	組場, 丸場	—	—	10.8	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	山牌 1/8
978 SKg783 202	組場, 丸場	—	—	10.5	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	山牌 2/8
979 SKg783 202	組場, 丸場?	—	—	9.4	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	「山」牌 4/8
980 SKg783 202	組場, 小場	6.8	3.0	2.3	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	口標 5/8
981 SKg783 202	組場, 附	—	—	5.4	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	組片
982 SKg783 202	組場, 小场	8.0	—	—	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	組片
983 SKg783 202	組場, 三	9.0	2.7	4.0	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	「山」牌 3/8
984 SKg783 202	組場, 三	9.2	2.2	4.2	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	「山」牌 4/8
985 SKg783 202	組場, 三	9.1	2.2	4.0	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	「山」牌 2/8
986 SKg783 202	組場, 三	9.7	3.0	5.5	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	組片
987 SKg783 202	組場, 三	—	—	5.5	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	組片
988 SKg783 202	組場, 三	—	—	5.5	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	體積 4/8
989 SKg783 202	組場, 三	—	—	5.9	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	體積 2/8
990 SKg783 202	組場, 小场	—	—	6.8	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	組片
991 SKg783 202	組場, 附	—	—	6.8	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	口標 1/8
992 SKg783 202	組場, 小场	—	—	6.8	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	山牌 1/8
993 SKg783 202	組場, 附	—	—	17.0	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	「山」牌 1/8
994 SKg783 202	組場, 附	8.7	4.6	2.8	施設	良好	内門, 二丁目, 背色N5.5/4 施上, 岩色N5.5/4	施地	二人に二丁印用, 高台露地	施地	施地	「山」牌 1/8

遺傳子名	持続名	25	種	上	被	外	内		外因測定	内因測定
							成	性		
1026 SKg783	203	南高、休	204	被	被	被	良好	極好	極好	極好
1027 SKg783	204	南高、休	234	10.8	9.2	被	良好	良好	良好	良好
1028 SKg783	204	南高、休	22.2			被	良好	良好	良好	良好
1029 SKg783	204	南高、休	5.6	被	被	被	良好	良好	良好	良好
1030 SKg783	204	南高、休	6.4	被	被	被	良好	良好	良好	良好
1031 SKg783	204	南高、休	8.8	被	被	被	良好	良好	良好	良好
1032 SKg783	204	南高、休	6.2	被	被	被	良好	良好	良好	良好
1033 SKg783	204	南高、休	28.0	被	被	被	良好	良好	良好	良好
1034 SKg783	204	南高、休	25.8	被	被	被	良好	良好	良好	良好
1035 SKg783	204	陶器、水漿	5.4	被	被	被	良好	良好	良好	良好
1036 SKg783	204	陶器、上蓋	14.6	3.5	4.4	被	良好	良好	良好	良好
1037 SKg783	204	陶器、上蓋	14.0			無	良好	良好	良好	良好
1038 SKg783	204	陶器、上蓋	7.8			被	良好	良好	良好	良好
1039 SKg783	204	陶器、水漿	17.2	被	被	被	良好	良好	良好	良好
1040 SKg783	205	陶器、大蓋	33.1	0.1-1.0mの石灰、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1041 SKg783	206	陶器、灯明器	4.1	1.6	0.5-2.5mの石灰、長石、長石合	良好	良好	良好	良好	良好
1042 SKg783	206	陶器、火鉢	12.8	0.5-2.5mの石灰、長石、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1043 SKg783	206	陶器、洗鉢	11.6	0.5-2.5mの石灰、長石、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1044 SKg783	206	燒熱陶器、附鉢	23.3	0.1-1.5mの石灰、長石、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1045 SKg783	206	燒熱陶器、附鉢	28.0	0.1-1.5mの石灰、長石、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1046 SKg783	206	燒熱陶器、附鉢	30.0	0.1-1.5mの石灰、長石、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1047 SKg783	206	燒熱陶器、附鉢	35.1	0.1-1.5mの石灰、長石、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1048 SKg783	206	燒熱陶器、附鉢	31.0	0.1-2.5mの石灰、長石、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1049 SKg783	206	燒熱陶器、附鉢	30.0	0.1-2.5mの石灰、長石、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1050 SKg783	206	燒熱陶器、附鉢	13.2	0.1-2.5mの石灰、長石、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1051 SKg783	207	土壤質土器、瓦鉢	27.0	10.9	23.4	被	良好	良好	良好	良好
1052 SKg783	207	土壤質土器、瓦鉢	27.2	11.1	24.0	被	良好	良好	良好	良好
1053 SKg783	207	土壤質土器、瓦	25.6			被	良好	良好	良好	良好
1054 SKg783	208	土壤質土器、瓦	36.0	0.1-2.5mの中央、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1055 SKg783	208	土壤質土器、瓦	108.6	0.1-2.5mの中央、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好
1056 SKg783	208	土壤質土器、瓦	118.0	0.1-2.5mの中央、長石合	良好	良好	良好	良好	良好	良好

植物名	種類名	細胞%	茎	葉	花	果	根	外 葉 花 果		被子植物
								地	土	
1067 SK6763	208 十字花科	45.4	良好	外觀：にいだらぬ褐色 YR 4/4 内面：黒褐色 5YR 5/4	好	外觀：にいだらぬ褐色 YR 4/4 内面：黒褐色 5YR 5/4	好	好	好	被子植物
1068 SK6763	208 十字花科	65.4	良好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1069 SK6763	208 茄子科	39.2	普通	茎：0.1~1.5mmの短毛、葉石、黑 花：0.1~0.5mmの花びら、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの果実、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1070 SK6763	208 芦粟科	12.5	普通	茎：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 花：0.1~0.5mmの花びら、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの果実、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1071 SK6763	208 芦粟科	19.4	普通	茎：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 花：0.1~0.5mmの花びら、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの果実、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1072 SK6763	208 玄参科	34.2	普通	茎：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 花：0.1~0.5mmの花びら、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの果実、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1073 SK6763	208 土师草科	38.8	普通	茎：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 花：0.1~0.5mmの花びら、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの果実、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1074 SK6763	208 十字花科	41.4	普通	茎：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 花：0.1~0.5mmの花びら、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの果実、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1075 SK6763	208 土师草科	18.4	3.2	12.8 常綠灌木、0.1~3mmの短毛、葉石、黑 12.8 常綠灌木、0.1~3mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1076 SK6763	208 十字花科	25.1	3.6	20.4 常綠灌木、0.1~2mmの短毛、葉石、黑 20.4 常綠灌木、0.1~2mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1077 SK6763	208 茄子科	24.8	4.0	18.6 常綠灌木、火紅色 18.6 常綠灌木、火紅色	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1078 SK6763	208 土师草科	36.0	2.4	22.4 常綠灌木、火紅色 22.4 常綠灌木、火紅色	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1079 SK6763	212 蔷薇科	7.3	特殊	葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1080 SK6763	212 蔷薇科	9.0	特殊	葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1081 SK6763	212 蔷薇科	9.8	2.7	5.6 葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1082 SK6763	212 蔷薇科	10.8	5.6	5.6 葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1083 SK6763	212 蔷薇科	11.4	5.7	4.1 葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1084 SK6763	212 蔷薇科	27.4	2.8	2.8 葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1085 SK6763	212 蔷薇科	9.3	1.4	8.2 葉：0.1~1.5mmの右半葉含む 果：0.1~0.5mmの右半葉含む	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1086 SK6763	212 蔷薇科	16.2	特殊	葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1087 SK6763	212 蔷薇科	42.4	特殊	葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1088 SK6763	212 土师草科	20.2	特殊	葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1089 SK6763	212 土师草科	17.6	17.4	15.2 常綠灌木、葉石、黑 15.2 常綠灌木、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1090 SK6763	212 土师草科	30.4	22.0	18.7 常綠灌木、葉石、黑 18.7 常綠灌木、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1091 SK6763	213 蔷薇科	6.6	特殊	葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1092 SK6763	213 土师草科	20.8	特殊	葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物
1093 SK6763	213 土师草科	21.3	特殊	葉：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑 果：0.1~0.5mmの短毛、葉石、黑	好	外觀：火山灰土色，黑色，黑 内面：火山灰土色，黑色，黑	好	好	好	被子植物

植物名	通称名	西 種	日本 種	花被 数	花被 形	葉 形	葉 被 形	葉 被 被 形	調 色		外 面 調 色		内 面 調 色	
									淡 紅	紫 紅	淡 黃	黃 紅	淡 青	青 紅
1084	SK#675	215	祖孫、梅	3.5	椭圆	舟形	狭披针形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1095	SK#675	215	祖孫、梅	10.2	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1096	SK#675	215	祖孫、梅	10.5	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1097	SK#675	215	祖孫、梅	10.2	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1098	SK#675	215	祖孫、梅	10.8	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1099	SK#675	215	祖孫、梅	3.6	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1100	SK#675	215	祖孫、梅	4.8	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1101	SK#676	215	祖孫、梅	10.4	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1102	SK#676	215	祖孫、梅	11.2	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1103	SK#676	215	祖孫、小桺	10.0	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1104	SK#676	215	祖孫、梅	10.2	6.0	椭圆	狭披针形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1105	SK#676	215	祖孫、梅	10.1	4.9	椭圆	狭披针形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1106	SK#676	215	祖孫、小桺	6.4	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1107	SK#676	215	祖孫、梅	8.0	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1108	SK#676	215	祖孫、梅	9.5	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1109	SK#676	215	祖孫、梅	9.6	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1110	SK#676	215	祖孫、梅	10.0	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1111	SK#676	215	祖孫、梅	8.6	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1112	SK#676	215	祖孫、梅	4.4	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1113	SK#676	215	祖孫、小桺	5.3	5.3	椭圆	狭披针形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1114	SK#676	215	祖孫、梅	8.6	2.2	椭圆	狭披针形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1115	SK#676	215	祖孫、梅	6.2	1.5	椭圆	狭披针形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1116	SK#676	215	祖孫、梅	4.7	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1117	SK#676	215	祖孫、小桺	2.4	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1118	SK#676	215	祖孫、八重桺	7.2	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1119	SK#676	215	祖孫、梅	12.2	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1120	SK#676	215	祖孫、梅	9.4	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1121	SK#676	215	祖孫、梅	13.8	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1122	SK#676	215	祖孫、梅	8.9	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1123	SK#676	215	祖孫、深紫	8.3	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色
1124	SK#676	215	祖孫、梅	4.0	椭圆	狭披针形	倒卵形	倒卵形	淡紅 色	紫紅 色	淡黃 色	黃 紅	淡 青 色	青 紅 色

番号	通称名	種別	固有名	門類	器官	属性	計	測定	調査		内因調査	外因調査
									土	液	成	色
1126	SKg795	216	海胆、腕	9.6	4.8	3.5	精液	粘液	淡黄色2SY 7/4	粘土	灰	褐色/暗紅色/黃白褐青銅
1126	SKg795	216	海胆、腕	9.4	4.5	3.4	精液	粘液	淡黄色Y7/3	粘土	灰	灰褐色/深褐色/暗白青銅
1127	SKg795	216	海胆、腕、脾	5.0	精液			粘液	淡黄色5/6	粘土	灰	深褐色/暗紅色/暗白青銅
1128	SKg795	216	海胆、小籽	8.0	精液			粘液	淡黄色5/6	粘土	灰	灰褐色/深褐色/暗白青銅
1128	SKg795	216	海胆、小籽	10.6	精液			粘液	淡黄色5/6	粘土	灰	深褐色/暗紅色/暗白青銅
1130	SKg795	216	海胆、灯明目	8.6	1.7	3.5	精液	粘液	淡黄色Y7/2	粘土	灰	口溶液のみ灰褐色/暗部青銅/同色ケタリ
1131	SKg795	216	海胆、灯明目	9.7	精液			粘液	淡黄色2SY 8/3	粘土	灰	灰褐色/灰白青銅/灰褐色/灰白青銅
1132	SKg795	216	海胆、灯明目	9.2	2.2	3.2	精液	粘液	淡黄色2SY 5	粘土	灰	門脇等のみ灰褐色/灰白青銅
1133	SKg795	216	海胆、灯明目	3.6	精液			粘液	淡黄色N 7/5	粘土	灰	灰褐色/灰白青銅/灰白青銅/灰
1134	SKg795	216	海胆、腕	10.6	精液			粘液	淡黄色N 7/5	粘土	灰	褐色/暗紅色/黃白褐青銅
1135	SKg795	216	軟質肉體、土瓶蓋	11.9	能動性含む			粘液	淡黄色N 7/5	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1136	SKg795	216	海胆、皿	9.6	2.6	2.6	精液	粘液	淡黄色5/6	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1137	SKg795	216	海胆、火人火	9.2	精液			粘液	淡黄色5/6	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1138	SKg795	216	海胆、火人火	7.9	精液			粘液	淡黄色5/6	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1139	SKg795	216	海胆、腕	6.9	精液			粘液	淡黄色2SY 8/2	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1140	SKg795	216	海胆、腕火人火	3.1	精液			粘液	淡黄色2SY 8/2	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1141	SKg795	216	海胆、腕	17.6	精液			粘液	淡黄色2SY 8/2	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1142	SKg795	216	海胆、腕、林	14.9	7.4	13.7	精液	粘液	淡黄色2SY 8/2	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1143	SKg795	216	海胆、林	19.5	精液			粘液	淡黄色2SY 8/2	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1144	SKg795	216	海胆、土瓶	4.9	精液			粘液	淡黄色2SY 8/2	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1145	SKg795	216	海胆、火人火	4.2	精液			粘液	淡黄色3Y 8/1	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1146	SKg795	216	軟質肉體、火人火	11.8	精液			粘液	淡黄色3Y 8/1	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1147	SKg795	216	軟質肉體、火人火	15.6	8.0	16.6	精液	粘液	淡黄色2SY 6/1	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1148	SKg795	216	海胆、骨介	7.9	4.7	4.5	精液	粘液	淡黄色2SY 6/1	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1149	SKg795	216	海胆、腕	(2.0)	3.7	3.7	精液	粘液	淡黄色2SY 6/1	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1150	SKg795	216	海胆、腕	3.5	精液			粘液	淡黄色2SY 6/1	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1151	SKg795	216	軟質肉體、十脚	7.4	精液			粘液	淡黄色2SY 6/1	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1152	SKg795	216	海胆、皿	13.7	精液			粘液	淡黄色2SY 6/1	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1153	SKg795	216	海胆、火人火	19.7	精液			粘液	淡黄色2SY 6/1	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1154	SKg795	216	軟質肉體、腕	2.9	精液			粘液	淡黄色2SY 6/1	粘土	灰	口溶液ののみ灰褐色/灰白青銅/灰褐色
1155	SKg795	217	上腕真土腕、火人火	33.4	0.1	27.4	骨肉質	骨肉質	淡黄色Y7/3	粘土	灰	口溶液は丁度良好ナダ/火人火
												口溶液は火人火ナダ/火人火

内 色 漆 施										外 色 漆 施									
施物名					種類名					器 他					口活 鋼筋				
施物名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名	種類名
1220 SKgS12	角型、斗	角型、斗	角型、斗	角型、斗	8.2	無機	8.2	無機	8.2	良好	8.2	無機	8.2	無機	8.2	無機	8.2	無機	8.2
1221 SKgS12	角型、斗	角型、斗	角型、斗	角型、斗	9.0	セメント	9.0	セメント	9.0	良好	9.0	セメント	9.0	セメント	9.0	セメント	9.0	セメント	9.0
1222 SKgS12	角型、斗	角型、斗	角型、斗	角型、斗	38.0	セメント	38.0	セメント	38.0	良好	38.0	セメント	38.0	セメント	38.0	セメント	38.0	セメント	38.0
1223 SKgS12	角型、斗	角型、斗	角型、斗	角型、斗	37.1	セメント	37.1	セメント	37.1	良好	37.1	セメント	37.1	セメント	37.1	セメント	37.1	セメント	37.1
1229 SKgS13	角型、斗	角型、斗	角型、斗	角型、斗	3.6	無機	3.6	無機	3.6	良好	3.6	無機	3.6	無機	3.6	無機	3.6	無機	3.6
1230 SKgS15	角型、板	角型、板	角型、板	角型、板	53.3	セメント	53.3	セメント	53.3	良好	53.3	セメント	53.3	セメント	53.3	セメント	53.3	セメント	53.3
1231 SKgS15	角型、板	角型、板	角型、板	角型、板	23.1	セメント	23.1	セメント	23.1	良好	23.1	セメント	23.1	セメント	23.1	セメント	23.1	セメント	23.1
1232 SKgS15	角型、板	角型、板	角型、板	角型、板	14.5	セメント	14.5	セメント	14.5	良好	14.5	セメント	14.5	セメント	14.5	セメント	14.5	セメント	14.5
1233 SKgS15	角型、板	角型、板	角型、板	角型、板	18.9	無機	18.9	無機	18.9	良好	18.9	無機	18.9	無機	18.9	無機	18.9	無機	18.9
1234 SKgS15	角型、板	角型、板	角型、板	角型、板	15.4	無機	15.4	無機	15.4	良好	15.4	無機	15.4	無機	15.4	無機	15.4	無機	15.4
1235 SKgS16	角型、板	角型、板	角型、板	角型、板	9.9	無機	9.9	無機	9.9	良好	9.9	無機	9.9	無機	9.9	無機	9.9	無機	9.9
1236 SKgS16	角型、板	角型、板	角型、板	角型、板	10.2	無機	10.2	無機	10.2	良好	10.2	無機	10.2	無機	10.2	無機	10.2	無機	10.2
1237 SKgS16	角型、板	角型、板	角型、板	角型、板	2.1	無機	2.1	無機	2.1	良好	2.1	無機	2.1	無機	2.1	無機	2.1	無機	2.1
1238 SKgS16	土面質土器・小皿	土面質土器・小皿	土面質土器・小皿	土面質土器・小皿	7.3	1.2	漆	漆	7.3	良好	7.3	漆	7.3	漆	7.3	漆	7.3	漆	7.3
1239 SKgS16	土面質土器・小皿	土面質土器・小皿	土面質土器・小皿	土面質土器・小皿	9.8	2.0	漆	漆	9.8	良好	9.8	漆	9.8	漆	9.8	漆	9.8	漆	9.8
1240 SKgS16	瓦面質土器・小皿	瓦面質土器・小皿	瓦面質土器・小皿	瓦面質土器・小皿	34.0	漆	34.0	漆	34.0	良好	34.0	漆	34.0	漆	34.0	漆	34.0	漆	34.0
1241 SKgS24	青盤、皿	青盤、皿	青盤、皿	青盤、皿	5.8	無機	5.8	無機	5.8	良好	5.8	無機	5.8	無機	5.8	無機	5.8	無機	5.8
1243 SKgS27	上部質土器・大皿	上部質土器・大皿	上部質土器・大皿	上部質土器・大皿	59.4	セメント	59.4	セメント	59.4	良好	59.4	セメント	59.4	セメント	59.4	セメント	59.4	セメント	59.4
1244 SKgS31	上部質土器・大皿	上部質土器・大皿	上部質土器・大皿	上部質土器・大皿	18.8	セメント	18.8	セメント	18.8	良好	18.8	セメント	18.8	セメント	18.8	セメント	18.8	セメント	18.8
1245 SKgS31	上部質土器・五輪	上部質土器・五輪	上部質土器・五輪	上部質土器・五輪	31.8	セメント	31.8	セメント	31.8	良好	31.8	セメント	31.8	セメント	31.8	セメント	31.8	セメント	31.8
1246 SKgS31	瓦面質土器・五輪	瓦面質土器・五輪	瓦面質土器・五輪	瓦面質土器・五輪	30.0	セメント	30.0	セメント	30.0	良好	30.0	セメント	30.0	セメント	30.0	セメント	30.0	セメント	30.0
1247 SKgS31	瓦面・鍋	瓦面・鍋	瓦面・鍋	瓦面・鍋	6.5	無機	6.5	無機	6.5	良好	6.5	無機	6.5	無機	6.5	無機	6.5	無機	6.5
1248 SKgS31	鉢形陶器、棒	鉢形陶器、棒	鉢形陶器、棒	鉢形陶器、棒	7.6	4.2	6.1	無機	7.6	良好	7.6	無機	7.6	無機	7.6	無機	7.6	無機	7.6
1249 SKgS31	鉢形陶器、棒	鉢形陶器、棒	鉢形陶器、棒	鉢形陶器、棒	6.7	4.1	5.0	無機	6.7	良好	6.7	無機	6.7	無機	6.7	無機	6.7	無機	6.7
1250 SKgS31	鉢形陶器、棒	鉢形陶器、棒	鉢形陶器、棒	鉢形陶器、棒	5.7	3.7	3.0	無機	5.7	良好	5.7	無機	5.7	無機	5.7	無機	5.7	無機	5.7
1251 SKgS31	筒型、板	筒型、板	筒型、板	筒型、板	7.6	5.0	5.0	無機	7.6	良好	7.6	無機	7.6	無機	7.6	無機	7.6	無機	7.6
1252 SKgS31	筒型、板	筒型、板	筒型、板	筒型、板	6.4	無機	6.4	無機	6.4	良好	6.4	無機	6.4	無機	6.4	無機	6.4	無機	6.4
1253 SKgS31	筒型、板	筒型、板	筒型、板	筒型、板	3.2	無機	3.2	無機	3.2	良好	3.2	無機	3.2	無機	3.2	無機	3.2	無機	3.2
1254 SKgS31	筒型、板	筒型、板	筒型、板	筒型、板	4.0	無機	4.0	無機	4.0	良好	4.0	無機	4.0	無機	4.0	無機	4.0	無機	4.0
1255 SKgS31	筒型、板	筒型、板	筒型、板	筒型、板	20.5	無機	20.5	無機	20.5	良好	20.5	無機	20.5	無機	20.5	無機	20.5	無機	20.5
1256 SKgS31	筒型、板	筒型、板	筒型、板	筒型、板	6.4	無機	6.4	無機	6.4	良好	6.4	無機	6.4	無機	6.4	無機	6.4	無機	6.4

通称地名	通称名	種別No.	器	性	山近	部高	底径	輪	土	地	也	調	外	内	調	葉	
1257	SKg831	237	陶器、林	良好	19.6	帶：2.0mm	底径の矢高合せ	良好	外周：輪幅約0.25mm	DYR 7/4	土生	同軸ケズリ／高台内～底面合チテ	施地／研毛口文	内面	調葉	残存率	
1258	SKg831	237	陶器、片口瓶	良好	16.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 4/1	土生	同軸ケズリ／高台内～底面合チテ	施地／研毛口文	高台 4/8			
1259	SKg831	237	陶器、片口瓶	良好	14.4	5.6	逝	良好	輪：外周約2.5mm	DYR 7/2	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／研毛口文	口縁 1/8			
1260	SKg831	238	陶器、瓦	良好	13.8	13.5	逝	良好	輪：外周約2.5mm	DYR 8/3	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面合チテ	口縁 4/8			
1261	SKg831	238	陶器、瓦	良好	13.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/4	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／研毛口文	底部 5/8			
1262	SKg831	238	瓦質土器、鉢	良好	11.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/4	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／研毛口文	底部 5/8			
1264	SKg833	239	陶器、小杯	良好	4.9	2.7	逝：1.0mm	底蓋、瓦	良好	輪：外周約2.5mm	DYR 7/1	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面下半段合チテ	ハケ後ナメ	8/8	
1265	SKg838	240	上部質土器、人差	良好	7.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/8	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面下半段合チテ	指押／手捺模ナメ	底部 8/8		
1266	SKg840	243	陶器、皿	良好	9.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/4	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面下半段合チテ	指押／指捺模ナメ	蓮片		
1271	SKg870	244	陶器、碗	良好	3.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/6	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面下半段合チテ	指押／有字印捺模口文	高台 3/8		
1271	SKg870	244	陶器、片口	良好	6.1			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/5	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面下半段合チテ	指押／有字印捺模口文	高台 3/8		
1271	SKg870	244	陶器、皿	良好	11.3			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 4/4	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面下半段合チテ	指押／有字印捺模口文	高台 3/8		
1272	SKg885	246	陶器、骨外	良好	33.2			良好	輪：外周約1.0～3.0mm	DYR 3/3	内周：	同軸ケズリナメ／体形回転ケズリ後ナメ	口縁後模ナメ／体形回転後ナメ	口縁 1/8			
1273	SKg885	246	陶器、小瓶	良好	18.3	7.2	逝	良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/7	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面下半段合チテ	指押／区画文字・单化文	高台 1/8		
1273	SKg885	246	陶器、林	良好	36.6	8.7	逝	良好	輪：外周約2.5mm	DYR 4/4	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面下半段合チテ	指押／区画文字・单化文	高台 1/8		
1274	SKg885	246	陶器、浅杯	良好	9.1			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/3	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面下半段合チテ	指押／日時	高台 3/8		
1275	SKg885	246	陶器、火炎	良好	10.4			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 3/2	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面下半段合チテ	指押／圆点ナメ	底部 2/8		
1276	SKg885	246	陶器、壺	良好	4.0			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 3/2	内周：	同軸ケズリナメ／体形回转、圆点ケズリ	口縁後模ナメ／体形回转、圆点ケズリ	口縁 2/8			
1280	SKg888	247	土質質土器、焰燒	良好	34.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 4/1	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面合チテ	口縁後模ナメ／体形回转、ナメ	口縁 2/8		
1281	SKg888	247	瓦質土器、矛泡	良好	18.2			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 6/4	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面合チテ	口縁後模ナメ／体形回转、ナメ	口縁 2/8		
1282	SKg888	247	陶器、瓦	良好	27.4			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/4	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面合チテ	口縁後模ナメ／体形回转、ナメ	口縁 2/8		
1283	SKg892	248	陶器、碗	良好	1.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 6/3	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面合チテ	指押／口沿	高台 4/8		
1284	SKg892	248	陶器、碗	良好	4.0			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 6/3	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面合チテ	指押／口沿	高台 4/8		
1285	SKg892	248	陶器、林	良好	9.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 7/4	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面合チテ	指押／口沿	高台 4/8		
1286	SKg896	250	土質質土器、壺	良好	35.0			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 7/4	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／底面合チテ	指押／口沿	高台 4/8		
1287	SKg896	250	陶器、碗	良好	3.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 7/1	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／研毛口文	高台 4/8			
1288	SKg896	250	陶器、浅杯	良好	25.6			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 6/6	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／研毛口文	口縁 2/8			
1289	SKg898	251	陶器、碗	良好	8.1	やや凹	0.1～1.0mm	底蓋合	良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/4	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／研毛口文	口縁 1/8		
1290	SKg901	253	陶器、碗	良好	8.5			良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/5	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／研毛口文	口縁 2/8			
1291	SKg901	253	陶器、灯明具	良好	8.6	2.0	逝	良好	輪：外周約2.5mm	DYR 5/3	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／研毛口文	口縁後模ナメ／底面合チテ	口縁 2/8		
1292	SKg901	253	陶器、灯明具	良好	8.7	1.8	逝	良好	輪：外周約2.5mm	DYR 7/3	土生	同軸ケズリ／底面合チテ	施地／見込み口沿 1箇所	口縁後模ナメ／底面合チテ	口縁 2/8		
															口縁 2/8		

